令和６年度　第１回士別市子どもの権利委員会

日時：令和７年３月 17 日(月)
午後６時 30 分～
場所：士別市民文化センター２階視聴覚室

１．開　　会

２．挨　　拶

３．委員長・副委員長の選出
・委員長
・副委員長

４．協議事項
(1) 第３次子どもの権利に関する行動計画について

(2) 令和５年度及び６年度子どもに関わる事業調査について

(3) その他

６．閉　　会

第３次士別市子どもの権利に関する行動計画

令和４（2022）年度～令和７（2025）年度

令和４（２０２２）年３月

士別市

子どもの権利について

子どもの権利は、子ども一人ひとりが生まれながらに持ち、自分らしく、安心して過ごし、健やかに成長するために欠かせない基本的な権利のことです。

士別市では、国連の「児童の権利に関する条約」、「士別市まちづくり基本条例」の理念に基づき、子どもがいきいきと育つことを地域社会全体で支え合う仕組みを定めることにより、子どもとともに、子どもにやさしいまちづくりを進めることを目的とし、平成 25 年に「子どもの権利に関する条例」を制定しています。

４つの権利　※条例では、特に大切な４つの権利について定めています。

◇安心して生きる権利

⑴命が守られ、かけがえのない存在として大切にされること。
⑵あらゆるいじめや差別、暴力を受けず、放任されないこと。
⑶愛情と理解をもって育まれること。
⑷健康に配慮され、適切な医療が受けられること。
⑸平和で安全な環境の下で生活できること。

◇ゆたかに育つ権利

⑴学び、遊び、休息すること。
⑵自然や文化、芸術、スポーツに親しむこと。
⑶生活習慣を学び、成長に応じた主体性を身につけること。
⑷必要な情報を手に入れたり、利用したりできること。
⑸主体性が育まれる居場所が確保されること。

◇自分を守り、守られる権利

⑴あらゆる権利の侵害から守られること。
⑵成長が阻害される状況から保護されること。
⑶プライバシーが守られ、誇りを傷つけられないこと。

◇意見表明や参加する権利

⑴自分の意見や考えを表明する機会が大切にされ、その意見や考えが尊重されること。
⑵仲間をつくり、仲間と集うこと。
⑶社会に参画し、意見が活かされる機会があること。
⑷社会参加について、適切な支援を受けられること。

目次

第１章　計画の概要・・１
　１　計画の目的・・１
　　１－１　計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　　１－２　計画策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
　　１－３　士別市子どもの権利に関するアンケート調査の実施・・・・・・・・・・１
第２章　第２次行動計画の評価・検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　１　第２次行動計画の数値目標、重点施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　　１－１　基本目標と重点施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
　　１－２　数値目標の達成状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
　２　重点施策の評価・検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　　２－１　子どもの権利の周知と学習支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　　２－２　子育て家庭への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５
　　２－３　育ちを支える居場所づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
　　２－４　意思表明や参加の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　　２－５　子どもの権利侵害に関する相談・救済・・・・・・・・・・・・・・・・８
第３章　第３次行動計画の重点施策と主な事業内容・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　１　第３次行動計画の重点施策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　　１－１　子どもの権利の周知と学習支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０
　　１－２　子育て家庭への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
　　１－３　育ちを支える居場所づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１２
　　１－４　意思表明や参加の促進・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３
　　１－５　子どもの権利侵害に関する相談・救済・・・・・・・・・・・・・・・１４
　　１－６　感染症拡大時における対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１５
資料編・・１６
　１　子どもの権利に関するアンケート調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１６
　２　士別市子どもの権利委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５
　３　士別市子どもの権利救済委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５５

第１章　計画の概要

１　計画の目的

「士別市子どもの権利条例（以下「条例」という。）」第 19 条に基づき、子どもにやさしいまちづくりを総合的かつ計画的に進めるため「士別市子どもの権利に関する行動計画（以下「行動計画」という。）」を策定します。

１－１　計画期間

行動計画は、「士別市まちづくり総合計画」と連動した期間としています。「第３次士別市子どもの権利行動計画（以下「第３次行動計画」という。）」は、**令和４（2022）年度から令和７（2025）年度までの４年計画**とします。

2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	2025 年度
士別市まちづくり総合計画							
第２次士別市子どもの権利に関する行動計画（以下「第２次行動計画」という。）				**第３次行動計画**			

１－２　計画策定

行動計画は、人権、福祉、教育などの子どもの権利に関わる分野において識見を有する方及び関係団体の職員等で構成する「士別市子どもの権利委員会（以下「委員会」という。）」での協議のもと策定します。

１－３　士別市子どもの権利に関するアンケート調査の実施

第３次行動計画の参考資料とするため「士別市子どもの権利に関するアンケート調査（以下「アンケート調査」という。）を実施しました。

対象者	配布数	回答数	回答率
小学５年生	115	99	86.0%
中学２年生	145	114	78.6%
高校２年生	160	119	74.3%
保護者	420	303	72.1%

第２章　第２次行動計画の評価・検証

１　第２次行動計画の数値目標、重点施策

第２次行動計画では、５つの重点施策の各種事業に数値目標を定め、目標達成にむけ取り組みを進めました。

１－１　基本目標と重点施策

<table>
<tr><td colspan="3">＜計画期間＞

平成 30（2018）年度から令和３（2021）年度まで（４年間）</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜目標＞

◯子どもの権利に関する市民の意識向上　◯地域全体での子育て支援
◯子どもの意見表明・参加の促進　◯子どもの権利侵害に関する相談・救済</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜重点施策＞</td></tr>
<tr><td>●子どもの権利の周知と学習支援
◇子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実
◇子ども自身が子どもの権利を学ぶための学習推進

●意思表明や参加の促進
◇子どもの意見発表や参加の促進
◇育ち学ぶ施設での行事への参加や意見発表の推進
◇地域での子どもの自主的な活動の支援
◇子どもの発達に応じた支援</td><td>●子育て家庭への支援
◇子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実

●子どもの権利侵害に関する相談・救済
◇相談体制の充実と相談機関の連携促進
◇不登校等の子どもの居場所に関する支援
◇子どもの権利侵害に対する救済体制の整備</td><td>●育ちを支える居場所づくり
◇子どもの居場所の環境整備

◇子どもの居場所づくり
◇異なった世代との交流
◇文化・スポーツ活動等への参加</td></tr>
</table>

１－２　数値目標の達成状況

重点施策	事業内容	目標	実績	達成状況
子どもの権利の周知と学習支援	子どもの権利条例の認知度の向上	子ども 60.0%	45.9%	未達成
		保護者 80.0%	62.4%	未達成
	子どもの権利についての学習活動等の実施	人権教室参加 ※名寄人権擁護委員協議会主催	子どもの権利救済委員、市職員が参加し子どもの権利及び救済機関について周知	達成
		育ち学ぶ施設学習会年１回	令和２(2020)年度実施 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和元(2019)年度、令和３(2021)年度未実施	概ね達成
	子どもに関わるイベントや育ち学ぶ施設における周知・広報活動の実施	年５回	回数を満たしていない年あり ※計画期間中16回実施	概ね達成
子育て家庭への支援	基本的生活習慣の定着を図る取り組みの実施	啓発資料の配付	実施	達成
		講演会、学習会の実施年１回	実施	達成
育ちを支える居場所づくり	北地区こどもセンター（仮称）における放課後等デイサービス事業の実施	１ヶ所	１ヶ所	達成
意思表明や参加の促進	子ども議会の実施	毎年開催	毎年開催	達成
	こども夢トークの実施	市内小中学校全校実施	年２～３校ずつ順番に実施	達成

子どもの権利侵害に関する相談・救済	相談機関の理解度の向上	子ども 95.0%	70.7%	未達成
		保護者 95.0%	81.2%	未達成
	オレンジリボンキャンペーンの街頭啓発の実施	年１回	実施	達成
	不登校等の子どもに対する支援	適応指導教室の開設	開設	達成
	子どもの権利救済体制の整備	子どもの権利救済委員会の設置	設置	達成

２　重点施策の評価・検証

２－１　子どもの権利の周知と学習支援

◇子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実

市民への啓発・広報は、市立保育園生活発表会でのティッシュの配布をはじめ、11月の子どもの権利の推進月間には学校や児童施設にポスター等を配布したほか、市職員向けの「子どもの権利に関する研修会」を開催しました。

◇子ども自身が子どもの権利を学ぶための学習推進

子どもの権利を学ぶための学習は、小中学校へのパンフレットの配布のほか、士別市子どもの権利救済委員会主催の講話や名寄人権擁護委員協議会主催の「人権教室」など、児童・生徒が子どもの権利を学ぶ機会の推進に努めました。

子どもの権利に関する認知度は、アンケート結果から子ども 45.9%、保護者 62.4%で目標達成には至りませんでした。認知度を高めるため周知や効果的な広報活動のあり方が課題です。

２－２　子育て家庭への支援

◇子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実

子育てに関する支援は、子育て支援センター「ゆら」や保健福祉センター等の関係機関が連携し、育児中の保護者や妊産婦等を対象とした育児講座や妊婦相談、産後ケア事業等を実施しました。

また、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、乳幼児等医療費給付事業やハッピーマタニティ事業、ひとり親家庭等児童入学資金支給事業等を実施しました。

多様化する子育て世帯を支援するため、子育て支援センター「ゆら」や保健福祉センターを中心に保育所や学校等の関係機関と連携した、妊娠から出産、育児にわたる切れ目のない総合的な支援を継続していくことが必要です。

２－３　育ちを支える居場所づくり

◇子どもの居場所の環境整備

平成 31（2019）年４月に障がい児と健常児の共生をめざした複合型施設として「ほくと子どもセンター」を開設しました。

◇子どもの居場所づくり

就学児童の居場所づくりは、１校区に１つの居場所を基本として、「あけぼの子どもセンター」、「ほくと子どもセンター」での放課後児童クラブをはじめ、地域保育所や公共施設での学童保育、学校の空き教室を利用した放課後子ども教室を実施しています。

「ほくと子どもセンター」では、放課後等デイサービスセンター「青空」と児童相談支援センター「虹」を併設し、障がい児の相談支援や療育支援等を実施しています。

「あけぼの子どもセンター」では、中高生の居場所づくりとして週２回の夜間開館を実施しています。

子どもセンターの放課後児童クラブ利用者は増加傾向にあるため、不足している保育者の確保が課題です。

◇異なった世代との交流

異なった世代との交流は、子どもと高齢者が体操・ゲーム・レクリエーションを共に行う「いきいき健康センター」でのサフォークジム・キッズや、市立保育園では敬老の日に地域自治会の老人クラブの方や近隣の高齢者施設の方を保育園に招待するなどの交流を通し、世代間交流の輪が広がっています。

◇文化・スポーツ活動等への参加

土曜子ども文化村やチャレンジ寺子屋、オリンピックデーランなど、文化・芸術活動やスポーツ活動への参加機会の充実を図りました。

２－４　意思表明や参加の促進

◇子どもの意見発表や参加の促進

子どもたちの意見やアイデアをまちづくりや市政に生かす取り組みとして、子ども議会、こども夢トークを毎年開催しました。これまでの子ども議会での提言で実現したものとしては、インフルエンザ接種費用に係る一部助成、小中学生向けの防災の手引きなどがあります。

◇育ち学ぶ施設での行事への参加や意見発表の推進

施設の行事や運営等について、子どもや保護者などの参加を促すとともに、「ほくと子どもセンター」の名称及び愛称の「つなぐ」、新たに開設された放課後等デイサービスセンターの名称「青空」は、市内の小中高校生から募集し選考しました。

◇地域での子どもの自主的な活動の支援

子どもたちが自主的に企画・運営するしべつわんぱくフェスティバルの開催や子ども会活動推進事業など、子どもたちの自主的活動への支援を実施しました。

◇子どもの発達に応じた支援

「虹」を中心に「青空」やこども通園センター「のぞみ園」が連携し、子どもの発達や障がいの状況等に応じた集団指導、個別指導を実施しています。

「青空」の利用者は増加傾向にあるため、支援員の確保が課題です。

２－５　子どもの権利侵害に関する相談・救済

◇相談体制の充実と相談機関の連携促進

子どもに関する相談は、健康福祉部に家庭児童相談室、教育委員会に青少年相談室を設置し、専用ダイヤルによる電話相談を実施しています。

家庭児童相談室には、家庭児童相談員を２人配置し児童虐待に関する相談、支援を行うとともに、「要保護児童対策地域協議会」の関係機関との調整担当を担い、児童相談所と連携し児童虐待等への迅速な対応や子どもや保護者への適切な支援につなげています。

◇不登校等の子どもの居場所に関する支援

不登校等の子どもの社会的な自立を支援するため、生涯学習情報センターに適応指導教室を設置しています。

適応指導教室には、指導員を配置し読書や運動、教科学習、見学などを行うなかで、学校復帰にむけた支援を実施しています。

あわせて、不登校・いじめ問題等対策連絡会議を設置し、関係機関と連携するなかで児童生徒の不登校・いじめ問題等の解決に努めています。

◇子どもの権利侵害に対する救済体制の整備

子どもの権利の侵害に対し迅速かつ適切な救済を図り権利の回復を支援するため、「子どもの権利救済委員会」を設置しています。

第２次計画の期間中に救済申立て、相談事案はありませんでしたが、市内各種イベントでの周知活動のほか、新たな取り組みとして学校を訪問し、子どもたちに直接こどもの権利や救済委員会について説明を行うなど活動の場を広げてきました。

しかしながら、相談機関等に関する認知度は、アンケート結果から子ども 70.7%、保護者 81.2%で目標達成には至らなかったことから、認知度を高めるため周知方法や効果的な広報活動のあり方が課題です。

第３章　第３次行動計画の重点施策と主な事業内容

１　第３次行動計画の数値目標、重点施策

第３次行動計画も第２次行動計画と同様に、基本目標に基づき５つの重点施策に数値目標を定め、目標達成にむけ取り組みを進めます。

<table>
<tr><td colspan="3">＜目標＞

◯子どもの権利に関する市民の意識向上　◯地域全体での子育て支援
◯子どもの意見表明・参加の促進　◯子どもの権利侵害に関する相談・救済</td></tr>
<tr><td colspan="3">＜重点施策＞</td></tr>
<tr><td>●子どもの権利の周知と学習支援
◇子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実
◇子ども自身が子どもの権利を学ぶための学習推進

●意思表明や参加の促進
◇子どもの意見発表や参加の促進
◇地域での子どもの自主的な活動の支援
◇子どもの発達に応じた支援</td><td>●子育て家庭への支援
◇子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実

●子どもの権利侵害に関する相談・救済
◇相談体制の充実と相談機関の連携促進
◇不登校等の子どもの居場所に関する支援
◇子どもの権利侵害に対する救済体制の整備</td><td>●育ちを支える居場所づくり
◇子どもの居場所づくり
◇異なった世代との交流
◇文化・スポーツ活動等への参加</td></tr>
</table>

１－１　子どもの権利の周知と学習支援

目標		基準値	目標値（令和７年度）
子どもの権利条例の認知度	子ども	45.9%	60%
	保護者	62.4%	80%

※基準値は、アンケート調査に基づくものです。

◇子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実

子どもの権利に関する認知度を高めるため、市民テラスや市立図書館と連携した新たな普及・啓発活動を実施するとともに、市広報紙での周知、学校や保育所、子どもが集まるイベント等で効果的な啓発・広報活動を実施します。

11 月の子どもの権利推進月間では、オレンジリボンキャンペーンの実施やスーパーマーケット等での啓発グッズの配布等を実施します。

【主な取り組み（事業）】

➢市民テラスを活用した普及・啓発活動【新規】

➢市立図書館との連携による普及・啓発活動【新規】

➢学校や保育所、子どもが集まる行事等での啓発・広報活動

➢子どもの権利推進月間での普及・啓発活動

◇子ども自身が子どもの権利を学ぶための学習推進

「士別市子どもの権利救済委員会」や「名寄人権擁護委員協議会」等と連携し児童、生徒向けのパンフレットの作成や講演会、学習会等を開催します。

【主な取り組み（事業）】

➢子ども議会議員への子どもの権利に関する学習会等の開催【新規】

➢「士別市子どもの権利救済委員会」と連携した講演会、学習会の開催

➢子どもの権利救済委員等が「名寄人権擁護委員協議会」主催の「人権教室」へ参加し、子どもの権利や救済機関の周知を行います。

１－２　子育て家庭への支援

目標	基準値	目標値（令和７年度）
地域子育て支援拠点事業 （子育て支援センター「ゆら」、つどいの広場「きら」、「きら」あさひの利用者数）	5,892 人	7,000 人

※基準値は、「第２期士別市子ども・子育て支援事業計画」に基づく令和２(2020)年度の「地域子育て支援拠点事業」の実績です。

◇子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実

子どもが健やかに安心して育つことのできる権利を保障するためには、安心して子どもを生み、親として成長することへの支援や家庭内での虐待を未然に防ぐことが重要です。

子育て支援センター「ゆら」や保健福祉センター等を中心に幼稚園や保育所、学校等の関係機関と連携し、子どもや保護者等への切れ目のない支援を実施します。

また、子育て世帯の経済的負担を軽減するため、乳幼児等医療費給付事業や子育て世帯サフォークポイント支援事業、ひとり親家庭等児童入学資金支給事業等を実施します。

【主な取り組み（事業)】

➢子育て支援センター運営事業

➢母子保健事業（乳児家庭全戸訪問事業・ハッピーマタニティ事業・産後ケア事業等）

➢乳幼児等医療費給付事業

➢子育て世帯サフォークポイント事業

➢ひとり親家庭等児童入学資金支給事業

➢特別保育推進事業事業

１－３　育ちを支える居場所づくり

目標	基準値	目標値（令和７年度）
放課後児童クラブ	３ヶ所（令和３年度）	３ヶ所
放課後子ども教室	１ヶ所（令和３年度）	２ヶ所

◇子どもの居場所づくり

就学児童の居場所づくりは、１校区に１つの居場所を基本として、「あけぼの子どもセンター」、「ほくと子どもセンター」での放課後児童クラブをはじめ、地域保育所や公共施設、学校の空き教室を利用した放課後子ども教室を実施します。

「ほくと子どもセンター」では、放課後等デイサービスセンター「青空」と児童相談支援センター「虹」を併設し健常児と障がい児の共生をめざします。

「あけぼの子どもセンター」では、中高生の居場所づくりとして、中高生向けの企画事業を実施します。

【主な取り組み（事業）】

➢子どもセンター管理運営事業

➢放課後子ども教室推進事業

➢放課後等デイサービスセンター運営事業

◇異なった世代との交流

「いきいき健康センター」でのいきいきサロン事業をはじめ、保育園児、子どもセンター利用者と地域住民や自治会の老人クラブ等との交流事業を実施します。

【主な取り組み（事業）】

➢いきいきサロン事業

➢保育所、子どもセンターでの交流事業

◇文化・スポーツ活動等への参加

土曜子ども文化村やチャレンジ寺子屋、オリンピックデーランなど文化・芸術活動や

スポーツ活動への参加機会の充実を図ります。

また、部活動は持続的に継続できる体制を構築するため、地域移行への協議を行います。

【主な取り組み（事業）】

➢子どもの学習・生活習慣定着事業（チャレンジ寺子屋、チャレンジスクール）

➢子ども文化活動推進事業（子ども文化村等）

➢オリンピックデーラン士別大会、市民クロスカントリー大会、チャレンジデー等

➢地域部活動への移行協議

１－４　意思表明や参加の促進

目標	基準値	目標値（令和７年度）
子ども議会の開催	年１回	年１回
こども夢トークの開催	計画期間内に小中学校全校で実施	計画期間内に小中学校全校で実施

◇子どもの意見発表や参加の促進

子ども議会やこども夢トークを開催し、子どもたちの意見やアイデアをまちづくりや市政に生かします。

【主な取り組み（事業）】

➢子ども議会開催事業

➢こども夢トーク推進事業

◇地域での子どもの自主的な活動の支援

子どもたちが自主的に企画・運営するイベントや子ども会活動推進事業など子どもたちの自主的活動への支援を実施します。

【主な取り組み（事業）】

➢しべつわんぱくフェスティバル

➢子ども会活動推進事業

◇子どもの発達に応じた支援

児童相談支援センター「虹」が保護者と共に立てた、子どもの発達応じて適切な支援計画に基づき、放課後等デイサービスセンター「青空」とこども通園センター「のぞみ園」での集団指導、個別指導をはじめ、保健福祉センター、幼稚園、保育所、学校等の関係機関と連携した支援を実施します。また、支援に必要な児童指導員の確保に努めます。

【主な取り組み（事業)】

➢児童相談支援センター運営事業

➢放課後等デイサービスセンター運営事業

➢こども通園センター運営事業

➢特別支援教育就学事業

１－５　子どもの権利侵害に関する相談・救済

目標		基準値	目標値（令和７年度）
青少年相談室の認知度	子ども	76.0%	80.0%
	保護者	84.5%	90.0%
家庭児童相談室の認知度	子ども	65.5%	70.0%
	保護者	77.8%	80.0%
子どもの権利救済委員会の認知度	子ども	35.7%	50.0%
	保護者	54.4%	70.0%

※基準値は、アンケート調査に基づくものです。

子どもの権利条例の認知度と同様、子どもの権利に関する相談・救済機関の市民への認知度を高めるための啓発・広報活動に努めます。

◇相談体制の充実と相談機関の連携促進

青少年相談室及び家庭児童相談室に専門職を配置し、専用ダイヤルによる電話相談等、児童虐待に関する相談、支援を行います。

「要保護児童対策地域協議会」を設置し、児童相談所等の関係機関と連携し児童虐待等への迅速な対応や子どもや保護者への適切な支援に努めます。

【主な取り組み（事業）】

➢要保護児童対策事業

◇不登校等の子どもの居場所に関する支援

生涯学習情報センターに適応指導教室を設置し、読書や運動、教科学習、見学などを行うなかで、不登校等の子どもの社会的な自立や学校復帰にむけた支援を実施します。

「不登校・いじめ問題等対策連絡会議」を設置し、関係機関と連携し児童生徒の不登校・いじめ問題等の解決に努めます。

【主な取り組み（事業）】

➢不登校・いじめ問題等対策事業

◇子どもの権利侵害に対する救済体制の整備

「子どもの権利救済委員会」を設置し、子どもの権利の侵害に対する迅速かつ適切な救済を行います。

【主な取り組み（事業）】

➢「士別市子どもの権利救済委員会」の開催

１－６　感染症拡大時における対応

アンケート調査では、新型コロナウイルス感染症による影響として、休校などによる学習の遅れや部活動の縮小や大会の中止などといった意見がありました。

今後もこうした状況に対応できるよう、ＩＣＴ端末を活用した家庭での双方向によるオンライン授業の実施や少年団、部活動における感染防止体制の確保などに取り組みます。

資料編

１　士別市子どもの権利に関するアンケート調査

１－１　子どもの権利に関するアンケート調査の概要

◇調査期間

令和３年８月２５日から９月３日

◇調査対象

➢市内全学校の小学５年生、中学２年生、高校２年生

➢市内全学校の小学５年生、中学２年生、高校２年生の保護者

◇回答数等

➢子ども：対象者 420 人　回答数 333 人　回答率 79.2%

➢保護者：対象者 420 人　回答数 303 人　回答率 72.1%

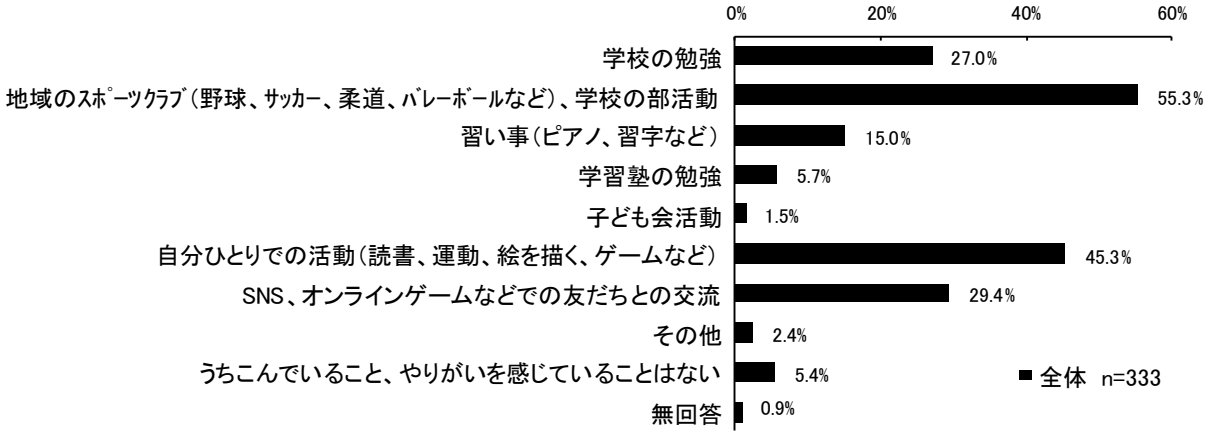
対象者		対象者数	回答数（回答率）
小学５年生	本人	115 人	99 人（86.0%）
	保護者	115 人	95 人（82.6%）
中学２年生	本人	145 人	114 人（78.6%）
	保護者	145 人	114 人（78.6%）
高校２年生	本人	160 人	119 人（74.3%）
	保護者	160 人	91 人（56.9%）

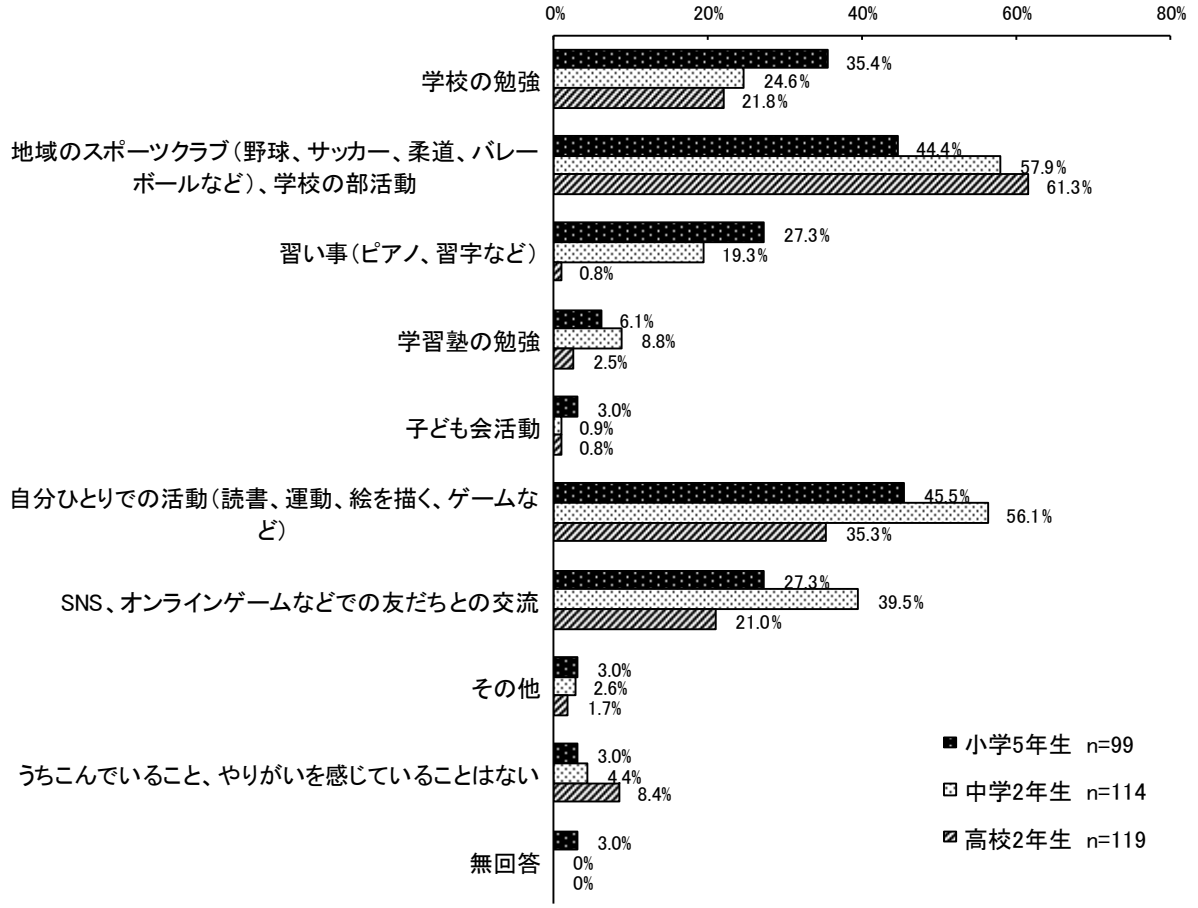
※学年未回答　子ども１名、保護者３名

１－２　子どもアンケート結果

問１　今、あなたがうちこんでいること、やりがいを感じていることは何ですか。（○はいくつでも）

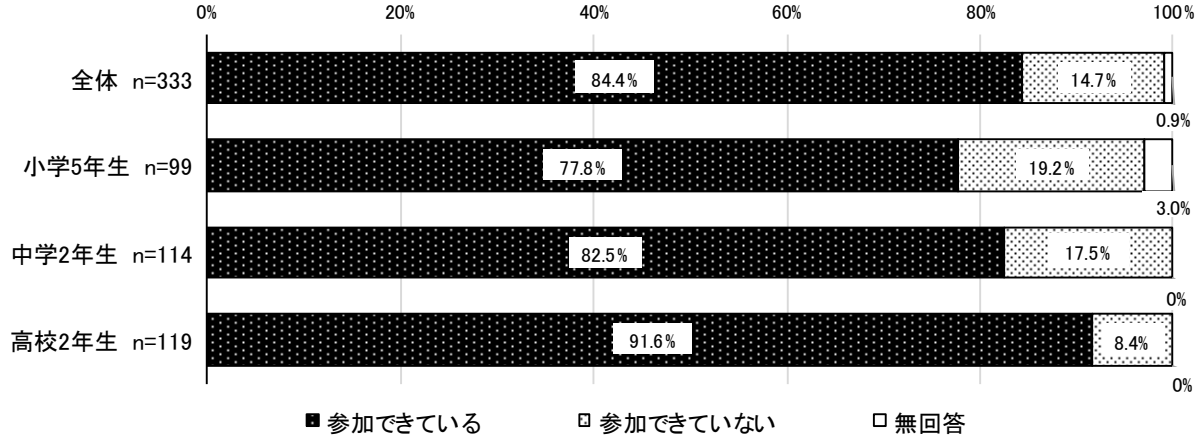
・「地域のスポーツクラブ、学校の部活動（55.3%）」が最も高く、次いで「自分ひとりでの活動（45.3%）」となっています。
・学年別にみると、小学生は「自分ひとりでの活動」が最も高く、中学生と高校生は「地域のスポーツクラブ、学校の部活動」が最も高くなっています。
・「その他」では、アルバイトなどの回答がありました。





問２　あなたは、自分のしたい活動（地域のスポーツクラブや習い事、学校の部活動など）ができていますか。（○は１つ）　※令和３年度新規設問

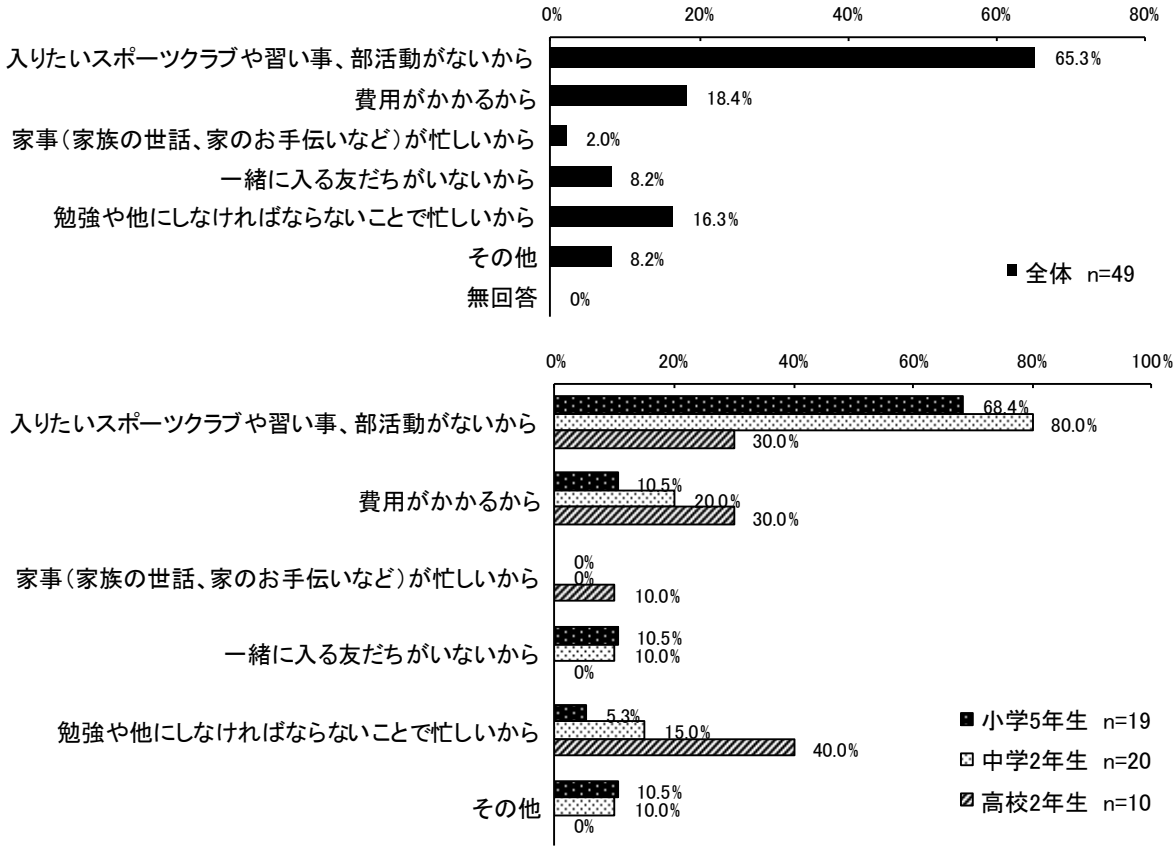
・「参加できている」が 84.4%、「参加できていない」が 14.7%となっています。



問３　問２で「参加できていない」を選択された方にうかがいます。できていない理由は何ですか？（○はいくつでも）　※令和３年度新規設問

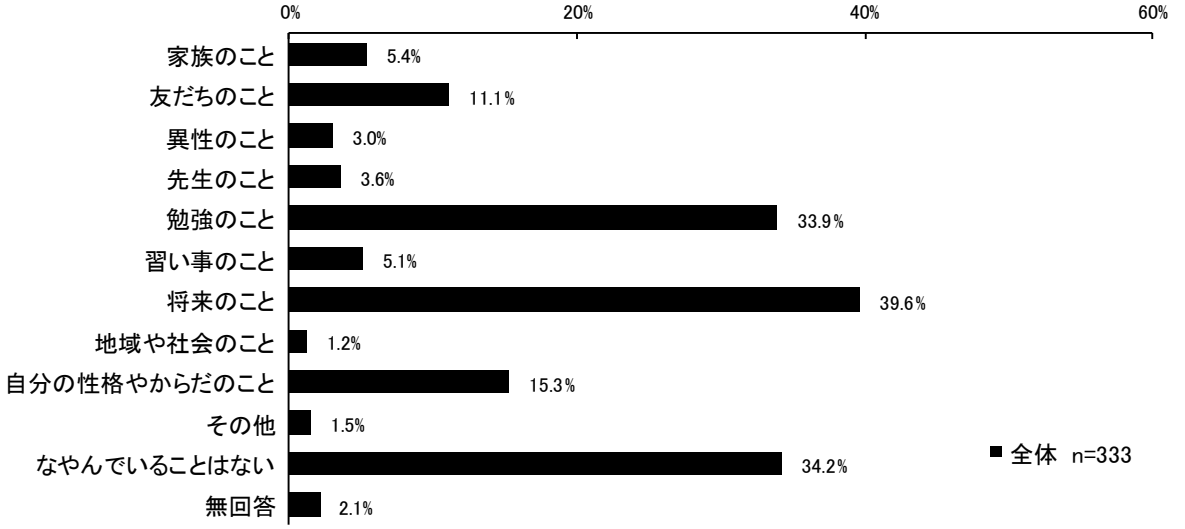
・小学生と中学生は「入りたいスポーツクラブや習い事、部活動がないから」が最も高く、高校生は「勉強や他にしなければならないことで忙しいから」が最も高くなっています。

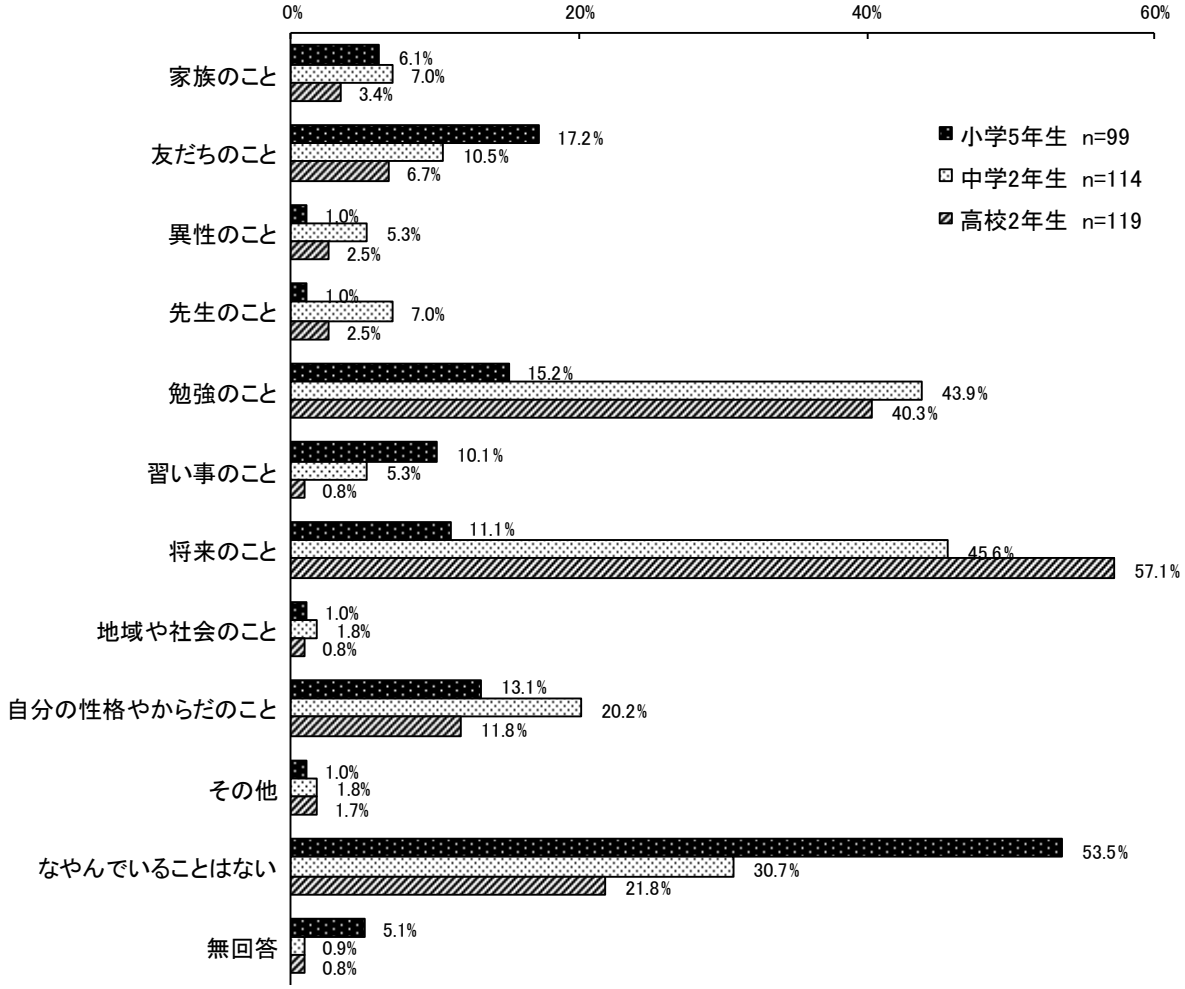
・「その他」では、怪我や病気などの回答がありました。



問４　あなたが、困ったりなやんだりしていることはどんなことですか。（○はいくつでも）

・「将来のこと（39.6%）」が最も高く、次いで「なやんでいることはない（34.2%）」となっています。
・学年別でみると、小学生は「なやんでいることはない」が最も高く、中学生と高校生は「将来のこと」が最も高くなっています。
・「その他」では、部活動のことなどの回答がありました。



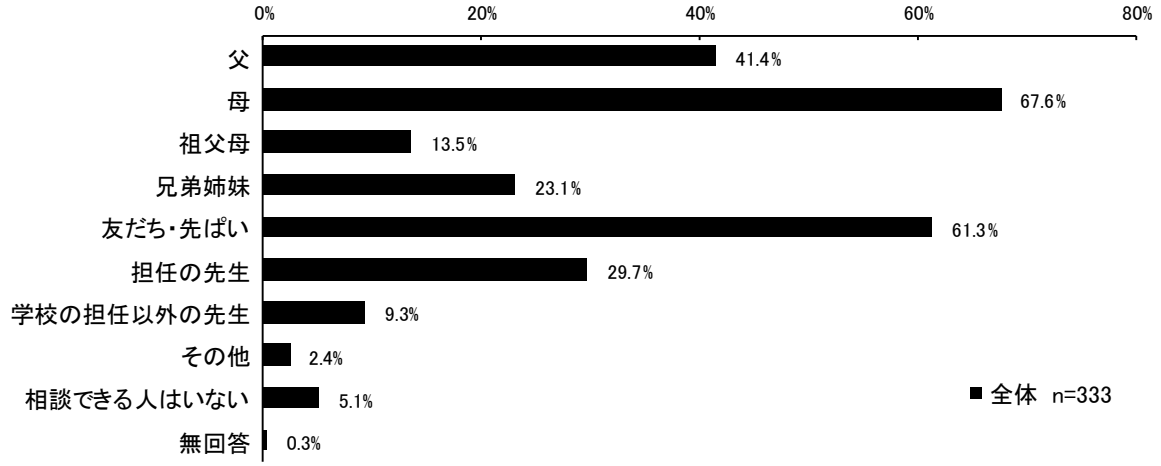


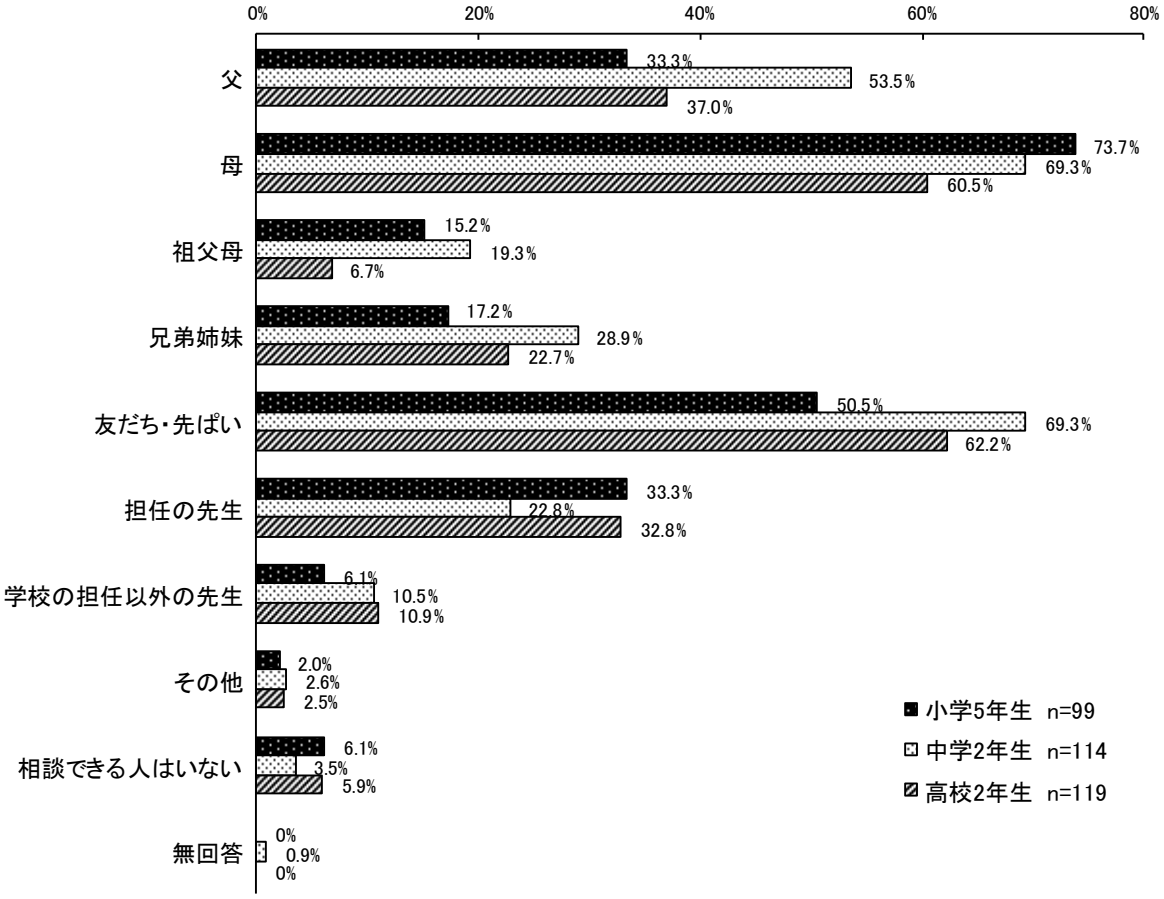
問５　あなたが、困ったりなやんだりしたとき、相談できる人はだれですか。（○はいくつでも）

・「母（67.6%）」が最も高く、次いで「友だち・先ぱい（61.3%）」となっています。

・学年別にみると、小学生は「母」が最も高く、中学生では「母」と「友だち・先ぱい」が同数となっており、高校生は「友だち・先ぱい」が最も高くなっています。

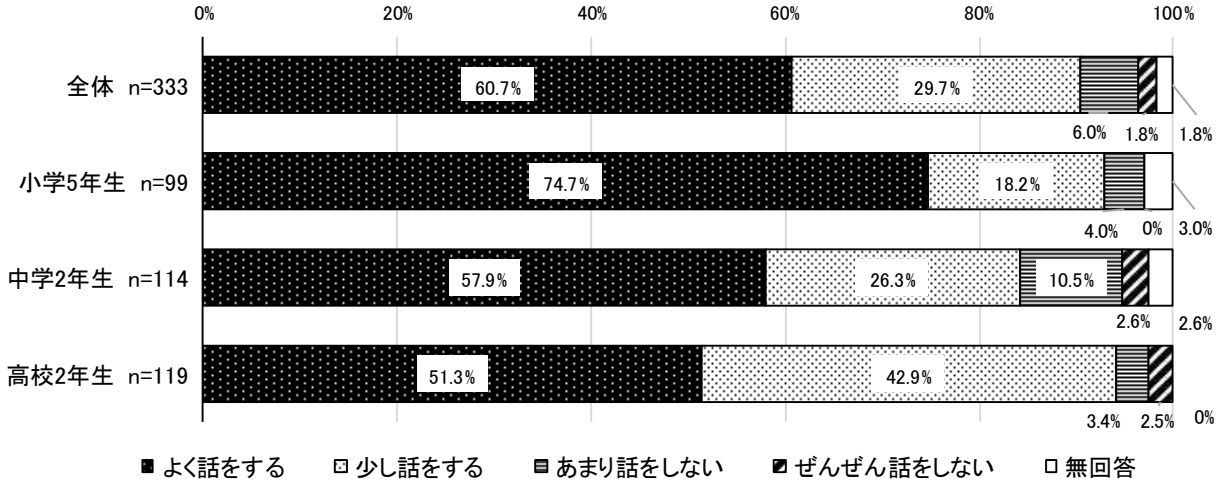
・「その他」では、親戚などの回答がありました。





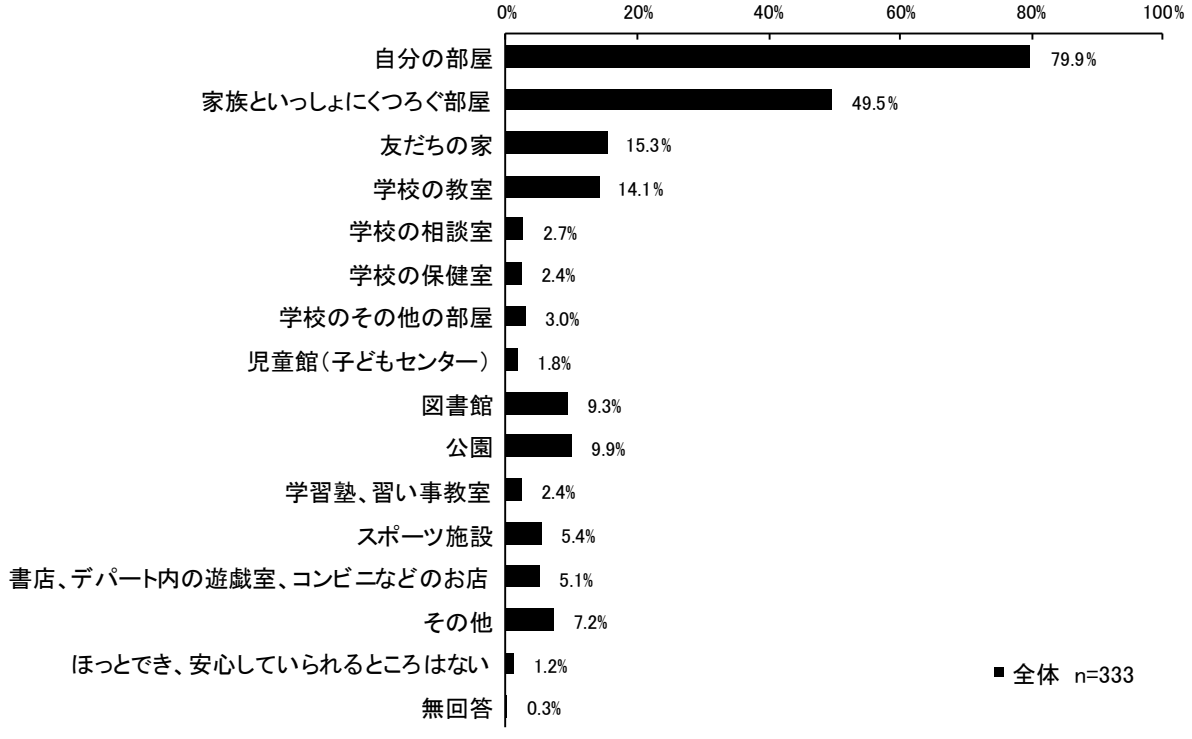
問６　あなたは、一日（平日で学校のあるとき）に、家族とどのくらい話をしますか。（○は１つ）

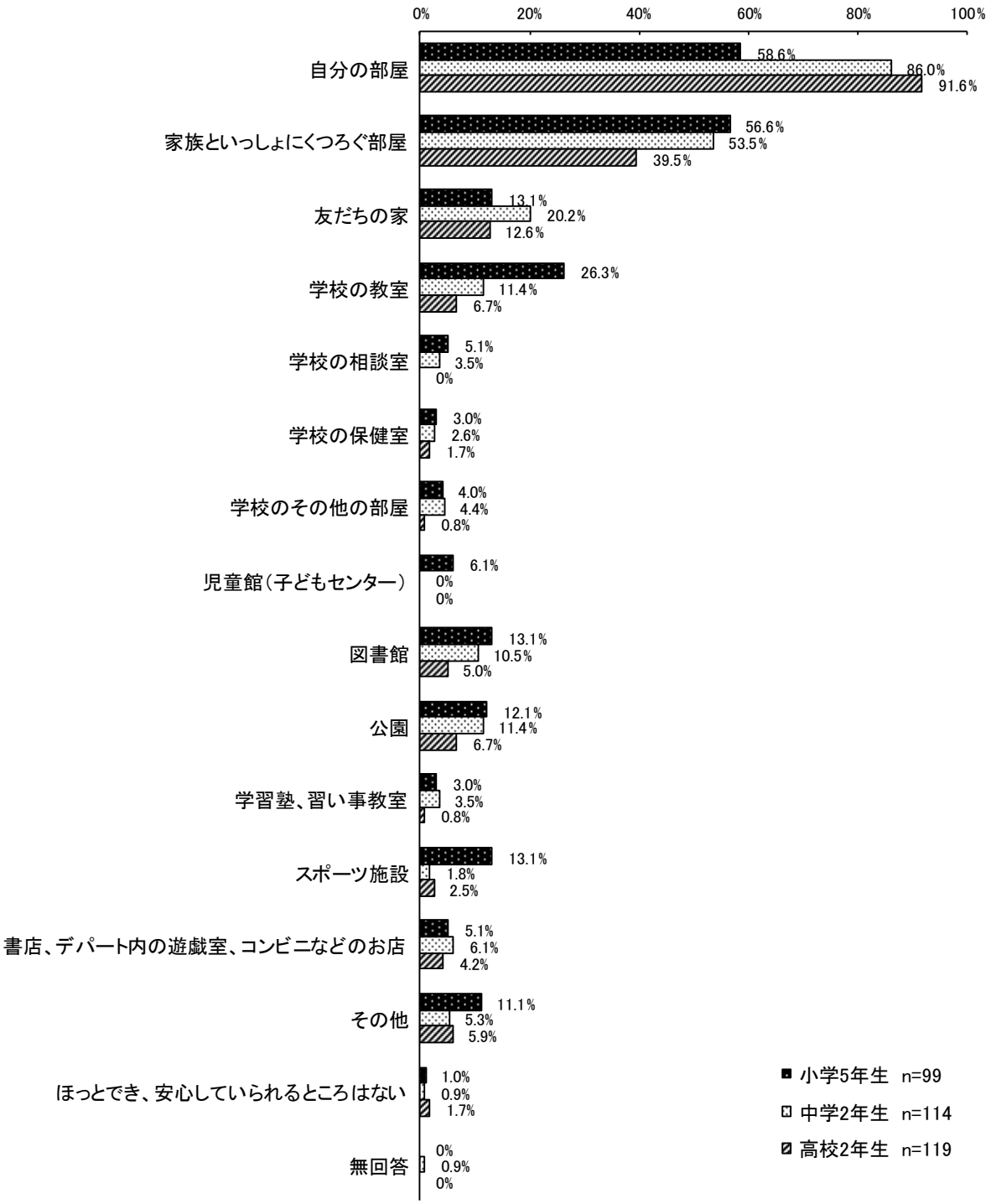
・「よく話をする（60.7%）」が最も高く、次いで「少し話をする（29.7%）」となっています。
・学年別にみると、小学生は特に「よく話をする」が高い傾向がみられます。



問７　あなたにとって、ほっとでき、安心していられるところはどこですか。（○はいくつでも）

・「自分の部屋（79.9%）」が最も高く、次いで「家族と一緒にくつろぐ部屋（49.5%）」となっています。
・学年別にみると、中学生と高校生は特に「自分の部屋」が高い傾向がみられます。
・「その他」では、祖父母宅やトイレなどの回答がありました。

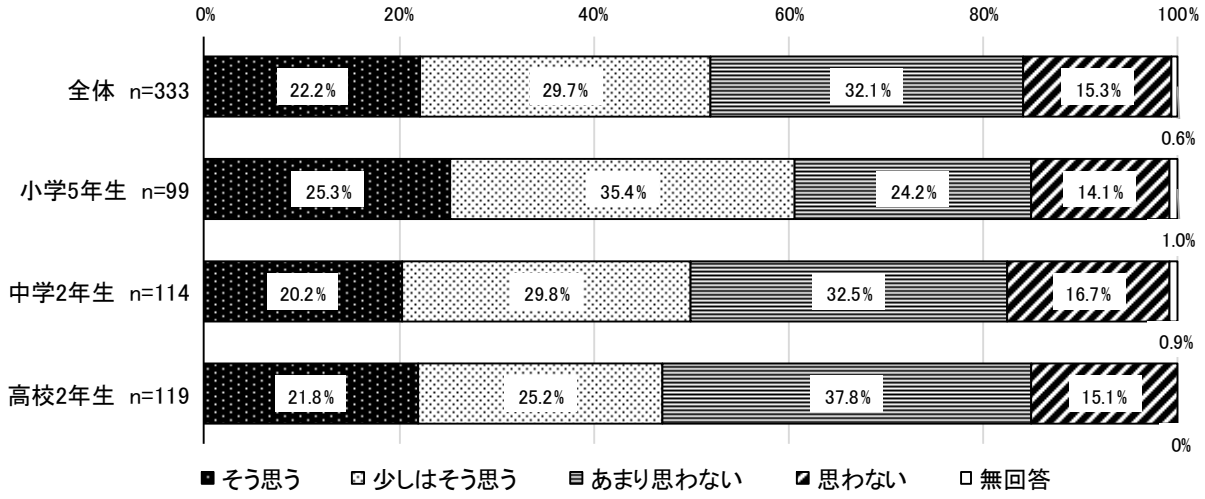



0%
20%
40%
60%
80%
100%
自分の部屋
58.6%
86.0%
91.6%
家族といっしょにくつろぐ部屋
56.6%
53.5%
39.5%
友だちの家
13.1%
20.2%
12.6%
学校の教室
26.3%
11.4%
6.7%
学校の相談室
5.1%
3.5%
0%
学校の保健室
3.0%
2.6%
1.7%
学校のその他の部屋
4.0%
4.4%
0.8%
児童館（子どもセンター）
6.1%
0%
0%
図書館
13.1%
10.5%
5.0%
公園
12.1%
11.4%
6.7%
学習塾、習い事教室
3.0%
3.5%
0.8%
スポーツ施設
13.1%
1.8%
2.5%
書店、デパート内の遊戯室、コンビニなどのお店
5.1%
6.1%
4.2%
その他
11.1%
5.3%
5.9%
ほっとでき、安心していられるところはない
1.0%
0.9%
1.7%
無回答
0%
0.9%
0%
小学5年生 n=99
中学2年生 n=114
高校2年生 n=119

問８　あなたは、自分のことについてどう思いますか。（○は１つ）

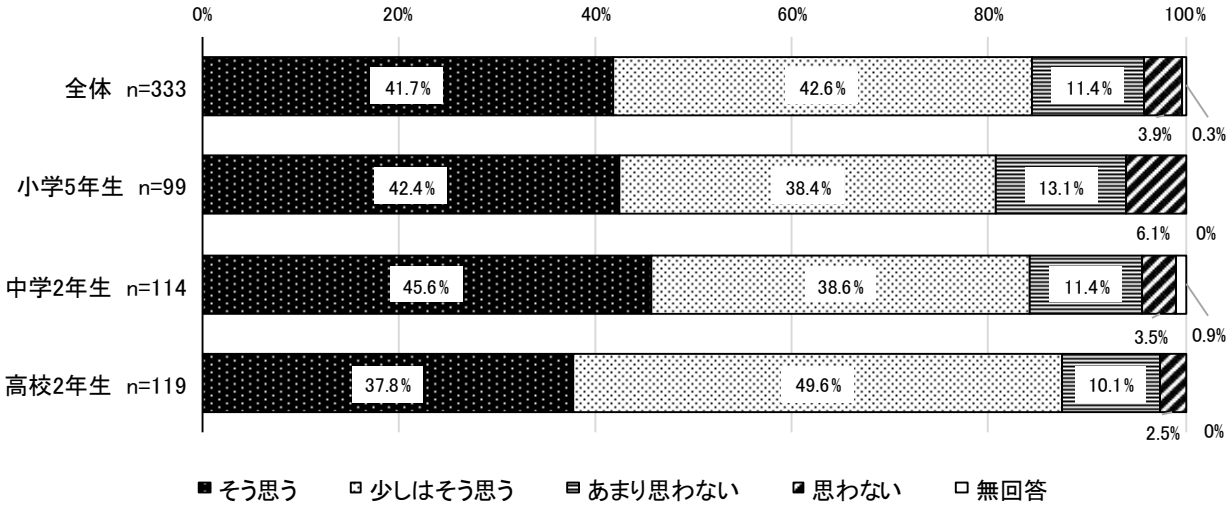
（１）自分のことが好き。

・「あまり思わない（32.1%）」が最も高く、次いで「少しはそう思う（29.7%）」となっています。
・学年別にみると、小学生は「少しはそう思う」が最も高くなっています。



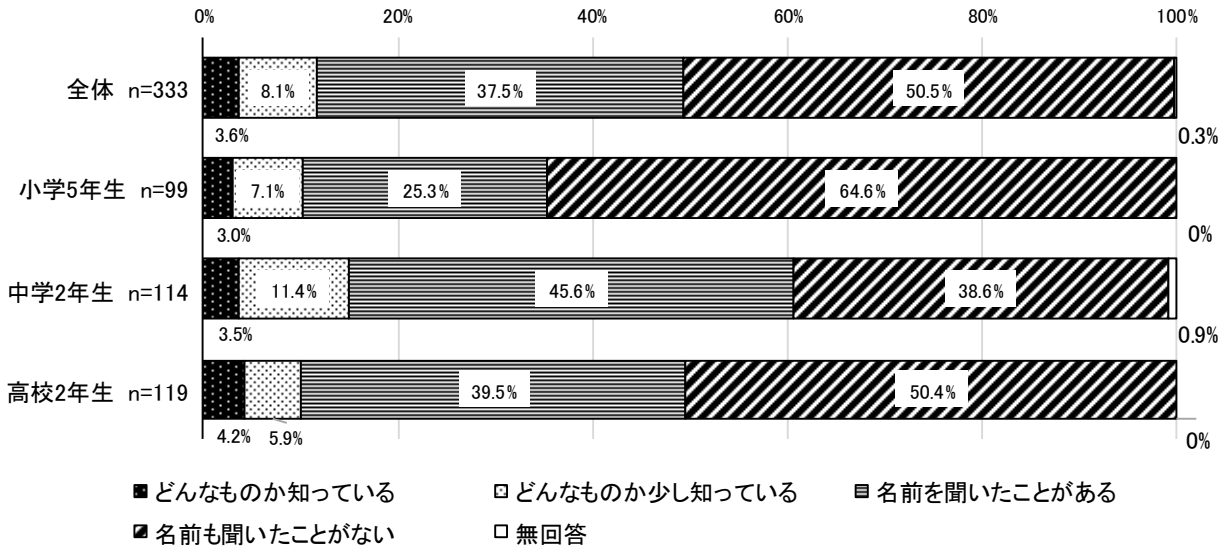
（２）自分は人から大切にされている。

・「少しはそう思う（42.6%）」が最も高く、次いで「そう思う（41.7%）」となっています。
・学年別にみると、高校生は「少しはそう思う」がやや高い傾向がみられます。



問９　士別市では、士別で暮らす子どもたちの、子どもの権利をみんなで大切にするためのきまりとして、「子どもの権利に関する条例」をつくりました。あなたは、このことを知っていますか。（○は１つ）

・「名前も聞いたことがない（50.5%）」が最も高く、次いで「名前を聞いたことがある（37.5%）」となっています。
・学年別にみると、中学生は「名前を聞いたことがある」が最も高くなっています。

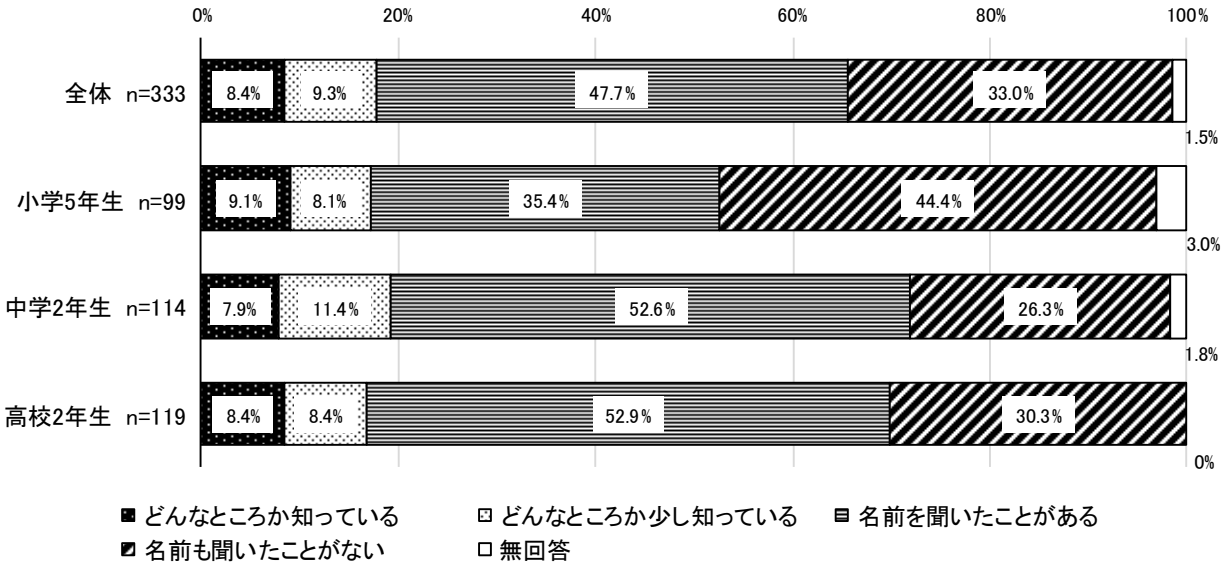


問 10　士別市では、みなさんが友だちや学校のことなどでなやんだり、困りごとがあれば相談できるところがあります。あなたは、そのことを知っていますか。（それぞれ○は１つ）

①青少年相談室（のぞみの電話）

・「名前を聞いたことがある（47.1%）」が最も高く、次いで「名前も聞いたことがない（22.5%）」となっています。

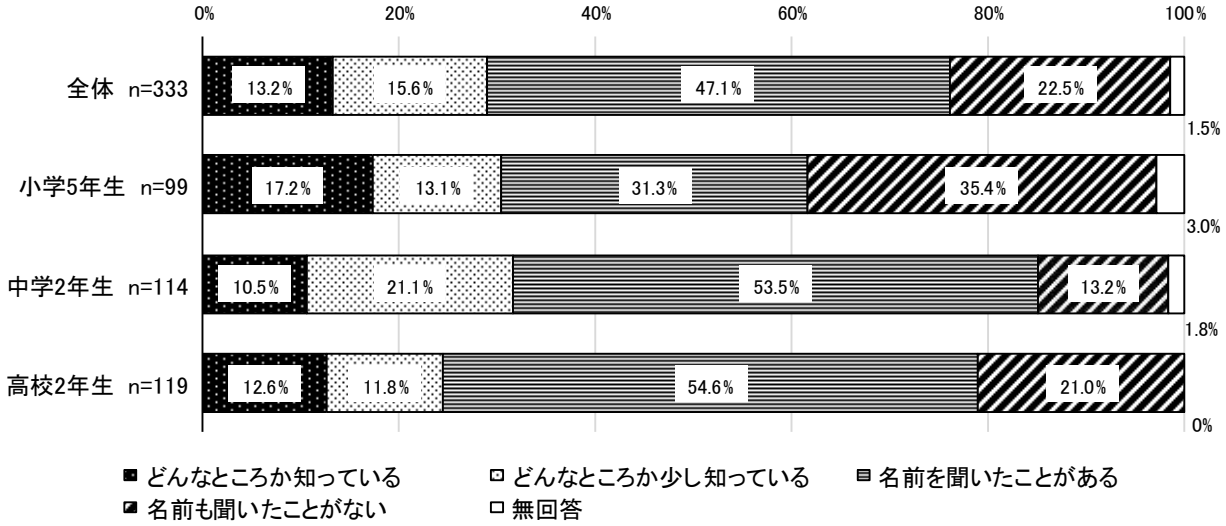
・学年別にみると、小学生は「名前も聞いたことがない」が最も高くなっています。



②家庭児童相談室

・「名前を聞いたことがある（47.7%）」が最も高くなっており、次いで「名前も聞いたことがない（33%）」となっています。

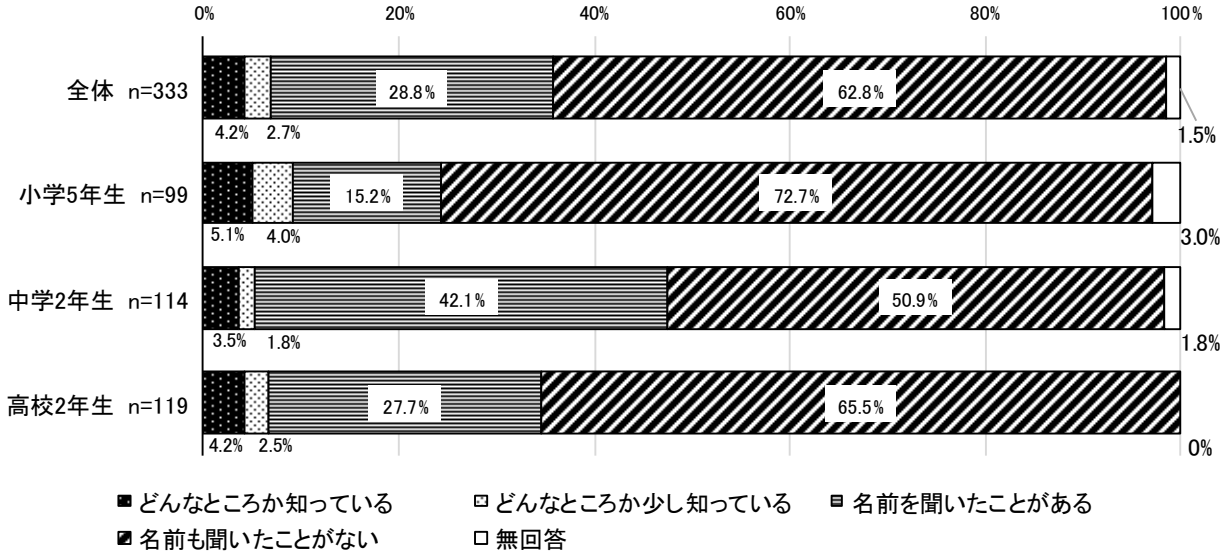
・学年別にみると、小学生は「名前も聞いたことがない」が最も高くなっています。



③子どもの権利救済委員会

・「名前も聞いたことがない（62.8%）」が最も高く、次いで「名前を聞いたことがある（28.8%）」となっています。

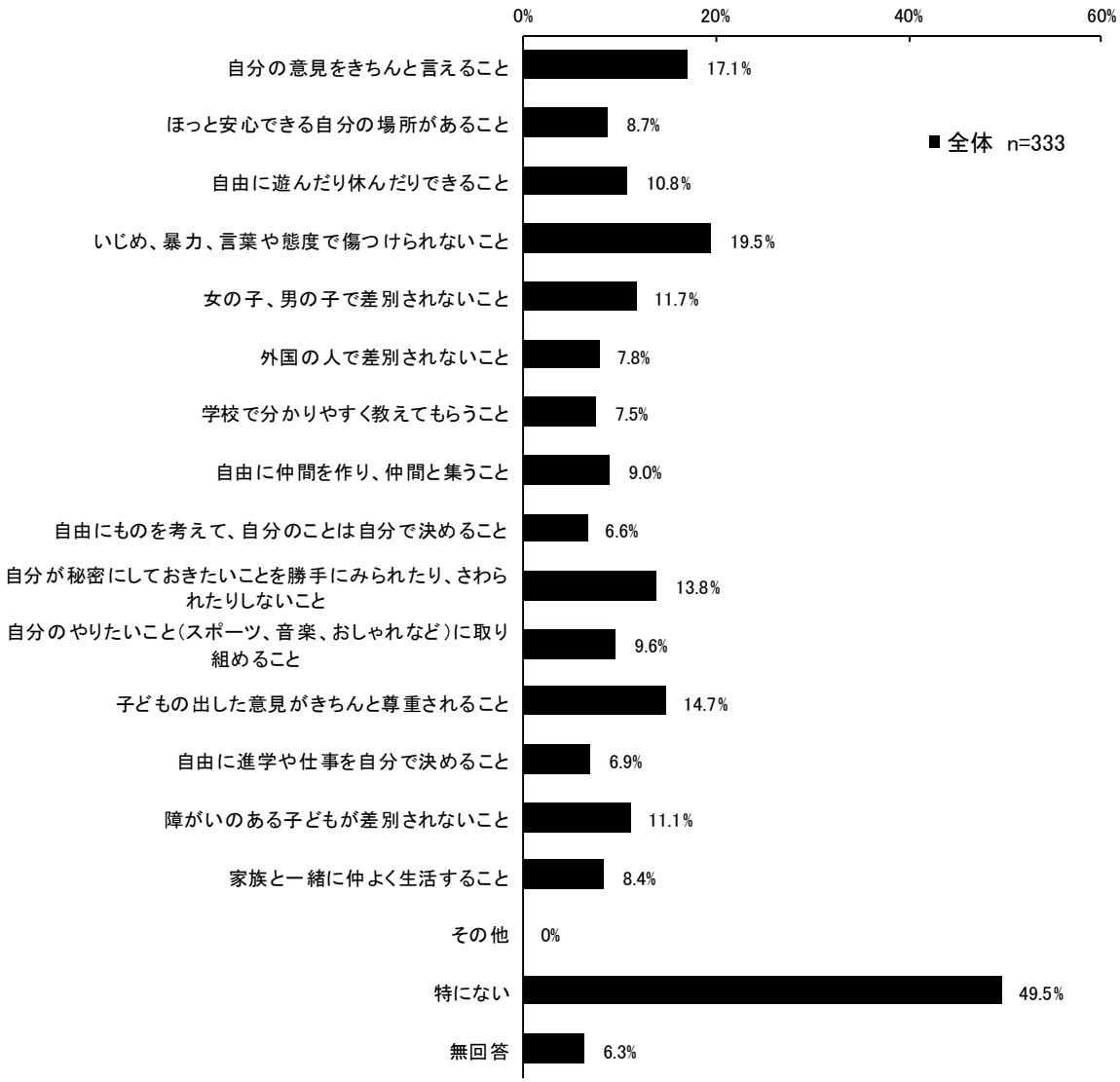
・学年別にみると、中学生は「名前を聞いたことがある」がやや高い傾向がみられます。

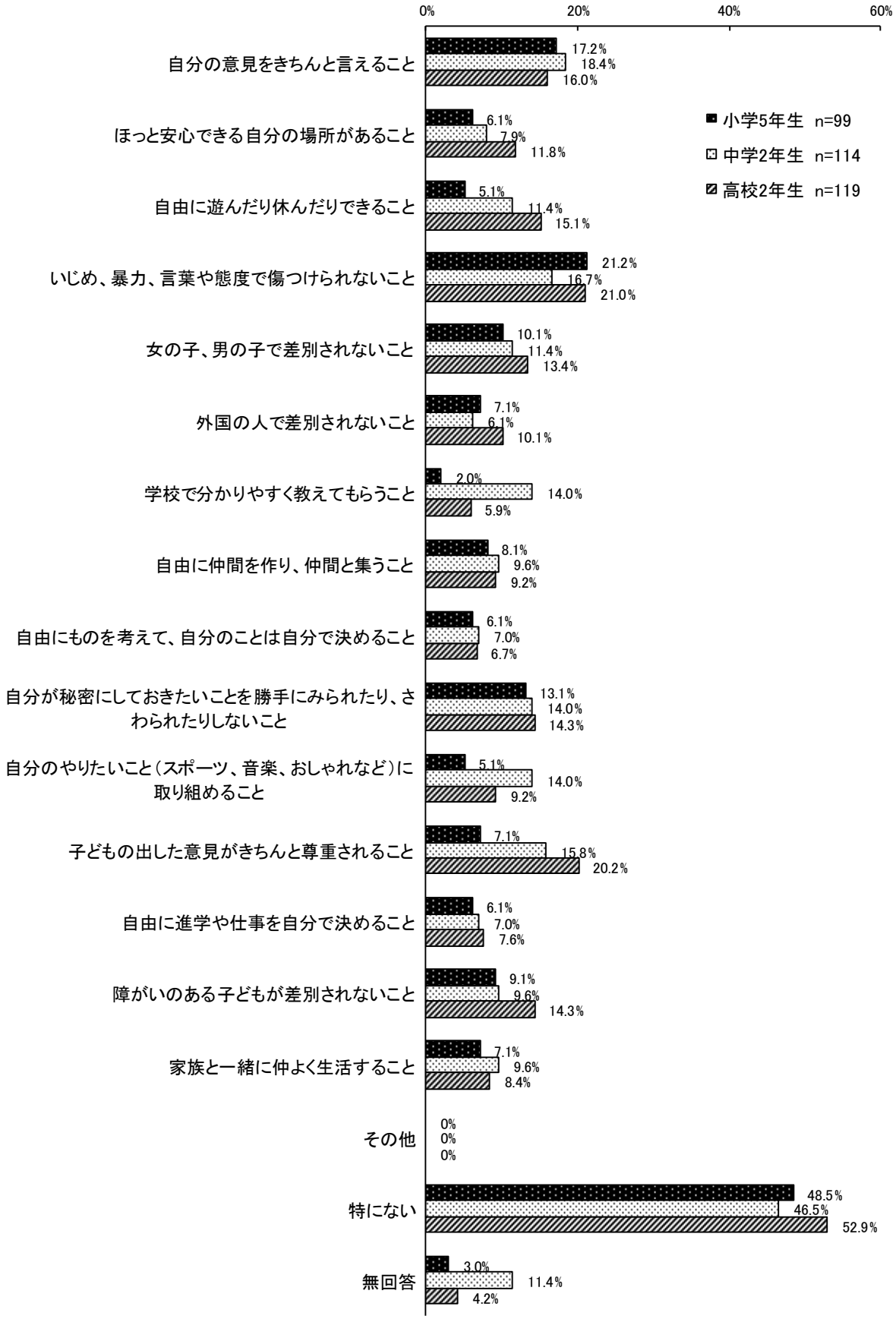


問 11　子どもが、幸せに暮らすために、守られなければならないことを「子どもの権利」といいます。あなたは、毎日の生活のなかで「守られていない」ことは何だと思いますか。（〇はいくつでも）

・「特にない（49.5%）」が最も高く、次いで「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと（19.5%）」となっています。

・学年別にみると、中学生は「学校で分かりやすく教えてもらうこと」がやや高い傾向がみられます。



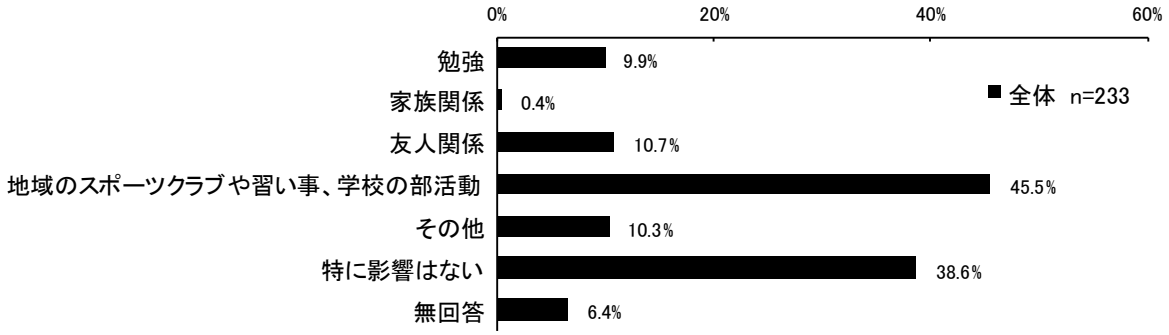

0%
20%
40%
60%
小学5年生 n=99
中学2年生 n=114
高校2年生 n=119
自分の意見をきちんと言えること
17.2%
18.4%
16.0%
ほっと安心できる自分の場所があること
6.1%
7.9%
11.8%
自由に遊んだり休んだりできること
5.1%
11.4%
15.1%
いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと
21.2%
16.7%
21.0%
女の子、男の子で差別されないこと
10.1%
11.4%
13.4%
外国の人で差別されないこと
7.1%
6.1%
10.1%
学校で分かりやすく教えてもらうこと
2.0%
14.0%
5.9%
自由に仲間を作り、仲間と集うこと
8.1%
9.6%
9.2%
自由にものを考えて、自分のことは自分で決めること
6.1%
7.0%
6.7%
自分が秘密にしておきたいことを勝手にみられたり、さわられたりしないこと
13.1%
14.0%
14.3%
自分のやりたいこと（スポーツ、音楽、おしゃれなど）に取り組めること
5.1%
14.0%
9.2%
子どもの出した意見がきちんと尊重されること
7.1%
15.8%
20.2%
自由に進学や仕事を自分で決めること
6.1%
7.0%
7.6%
障がいのある子どもが差別されないこと
9.1%
9.6%
14.3%
家族と一緒に仲よく生活すること
7.1%
9.6%
8.4%
その他
0%
0%
0%
特にない
48.5%
46.5%
52.9%
無回答
3.0%
11.4%
4.2%

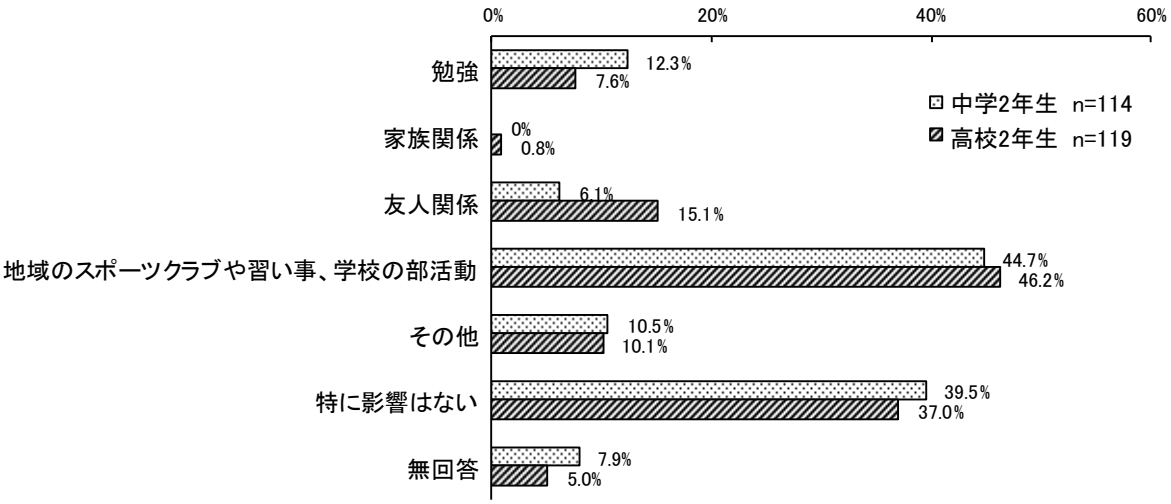
問 12　新型コロナウイルス感染症の流行前に比べて、影響のあることはありますか？（〇はいくつでも）

※令和３年度新規設問／中学生、高校生のみ

・「地域のスポーツクラブや習い事、学校の部活動（45.5%）」が最も高く、次いで「特に影響はない（38.6%）」となっています。

・学年別にみると、高校生は「友人関係」がやや高い傾向がみられます。





◇問 13　どのような影響があったか具体的に書いてください。（自由記述）

・「勉強」については、休校などの影響による学習の遅れや、理科の実験ができなくなる、中間テストがなくなり期末テストの範囲が広くなるといった意見がありました。

・「家族関係」については、親戚との交流が減ったという意見がありました。

・「友人関係」については、友人との交流の減少や、遊び場の減少といった意見がありました。

・「地域のスポーツクラブや習い事、学校の部活動」については、活動の縮小や大会の中止といった意見が多数あり、他には体力の低下といった意見もありました。

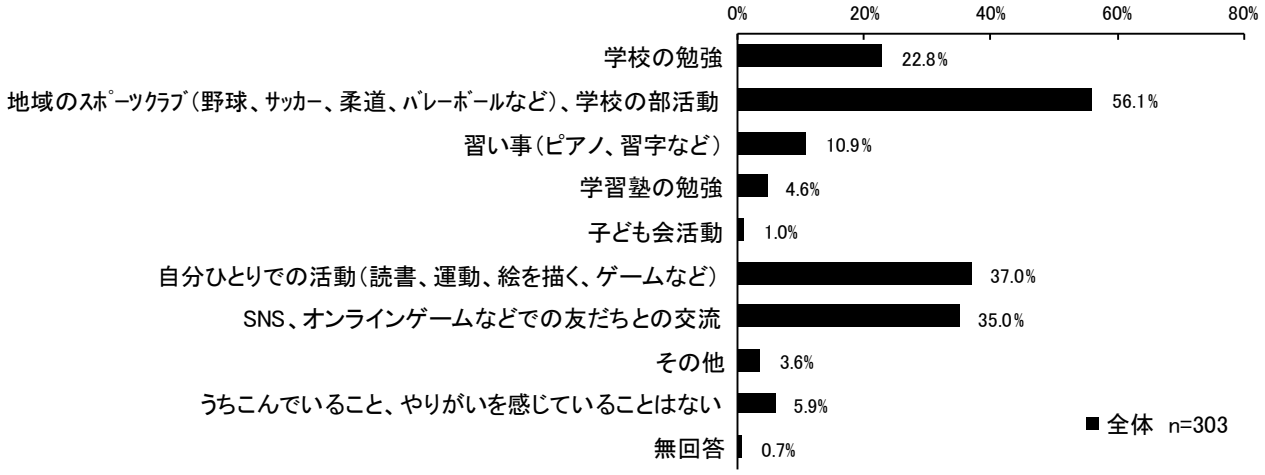
・「その他」については、学校行事の減少や外出制限などの回答がありました。

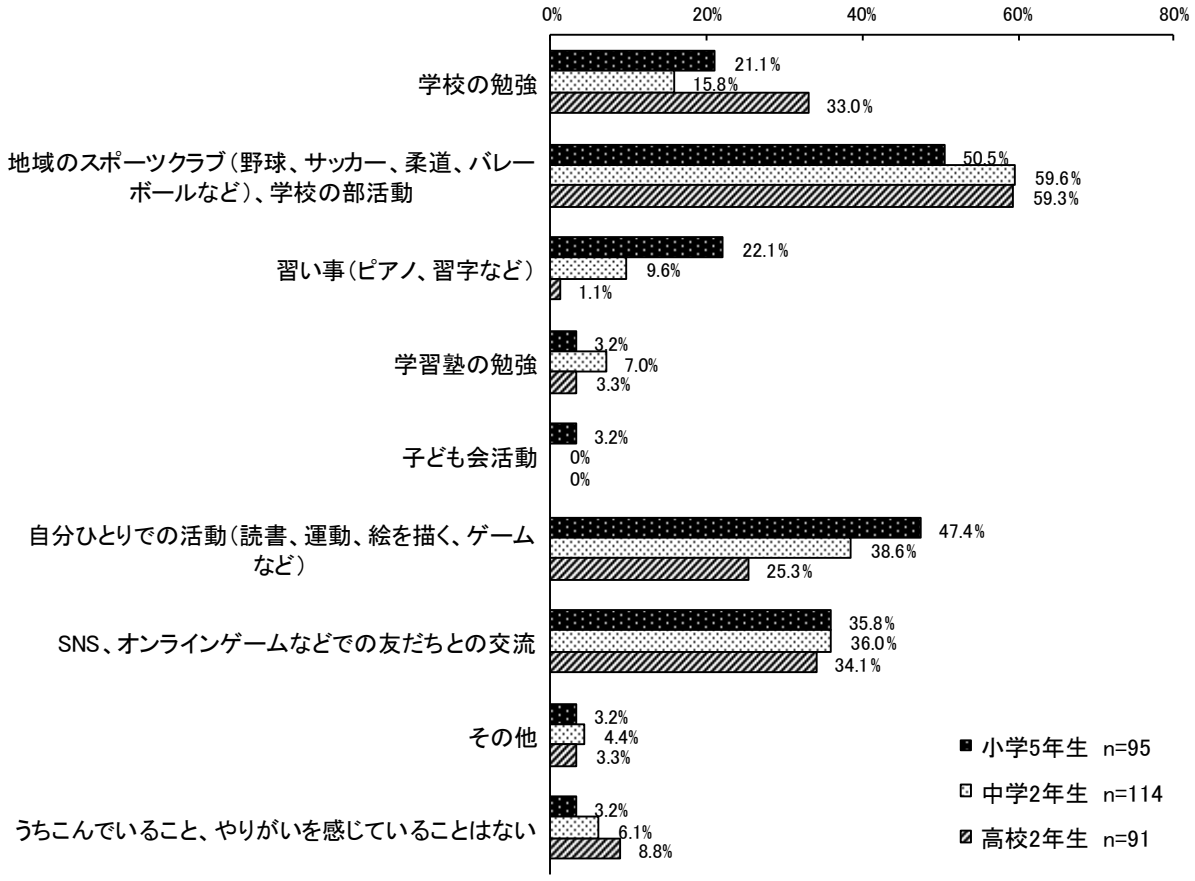
１－３　保護者アンケート結果

問１　お子さんが、今うちこんでいること、やりがいを感じていることは何だと思いますか。（○はいくつでも）

・「地域のスポーツクラブ、学校の部活動（56.1%）」が最も高く、次いで「自分ひとりでの活動（37%）」となっています。

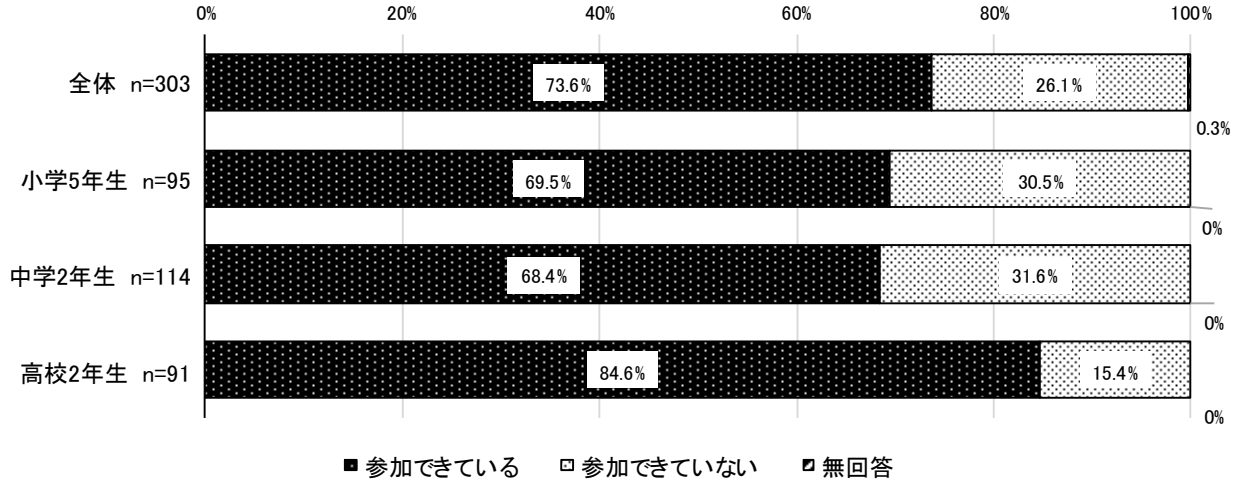
・子どもの学年別にみると、小学生は「習い事」が比較的高く、高校生は「学校の勉強」が比較的高くなっています。





問２　お子さんが、自分のしたい活動（地域のスポーツクラブや習い事、学校の部活動など）に参加できていると思いますか？　（○は１つ）　※令和３年度新規設問

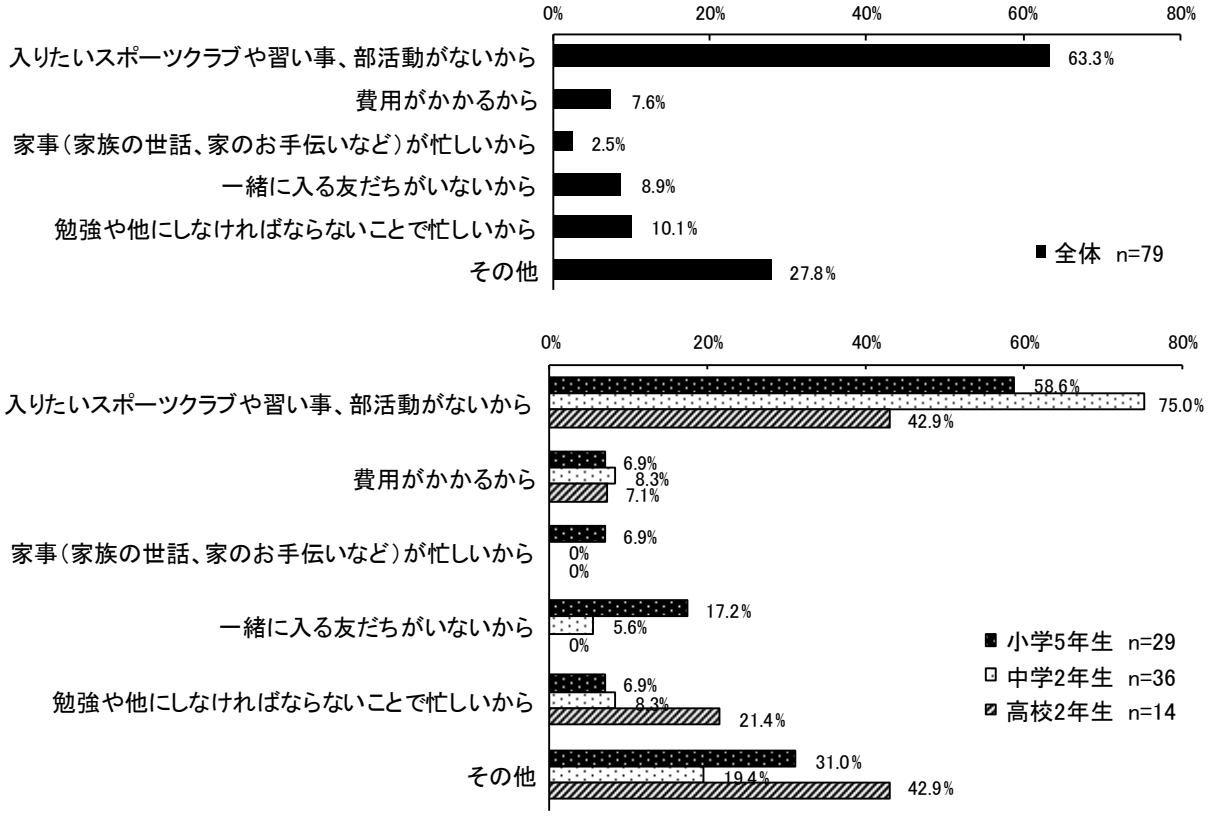
・「参加できている」が 73.6%、「参加できていない」が 26.1%となっています。



◇問３　問２で「参加できていない」を選択された方にうかがいます。できていない理由は何だと思いますか？（○はいくつでも）　※令和３年度新規設問

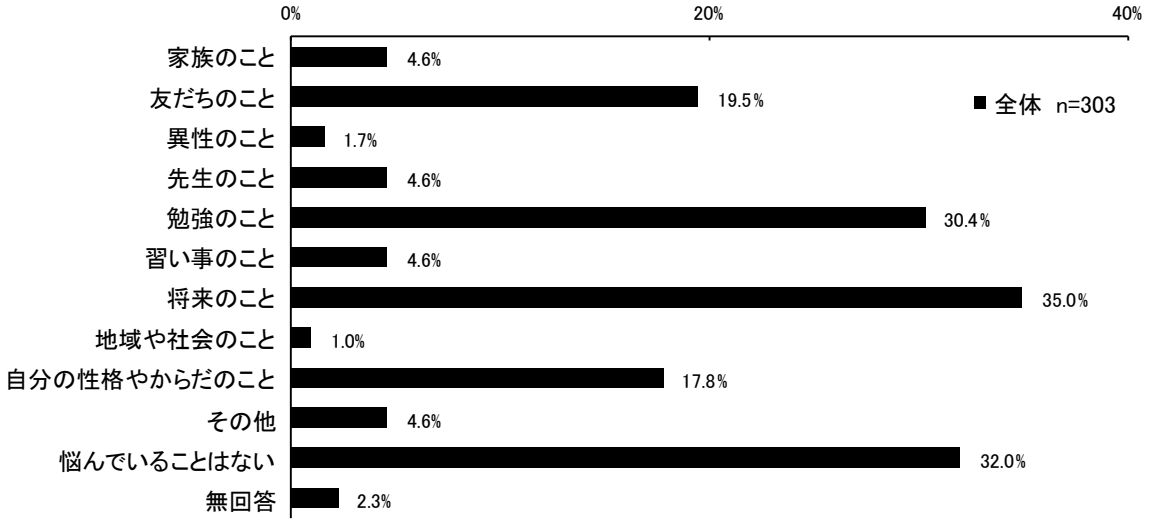
・「入りたいスポーツクラブや習い事、部活動がないから（63.3%）」が最も高くなっています。

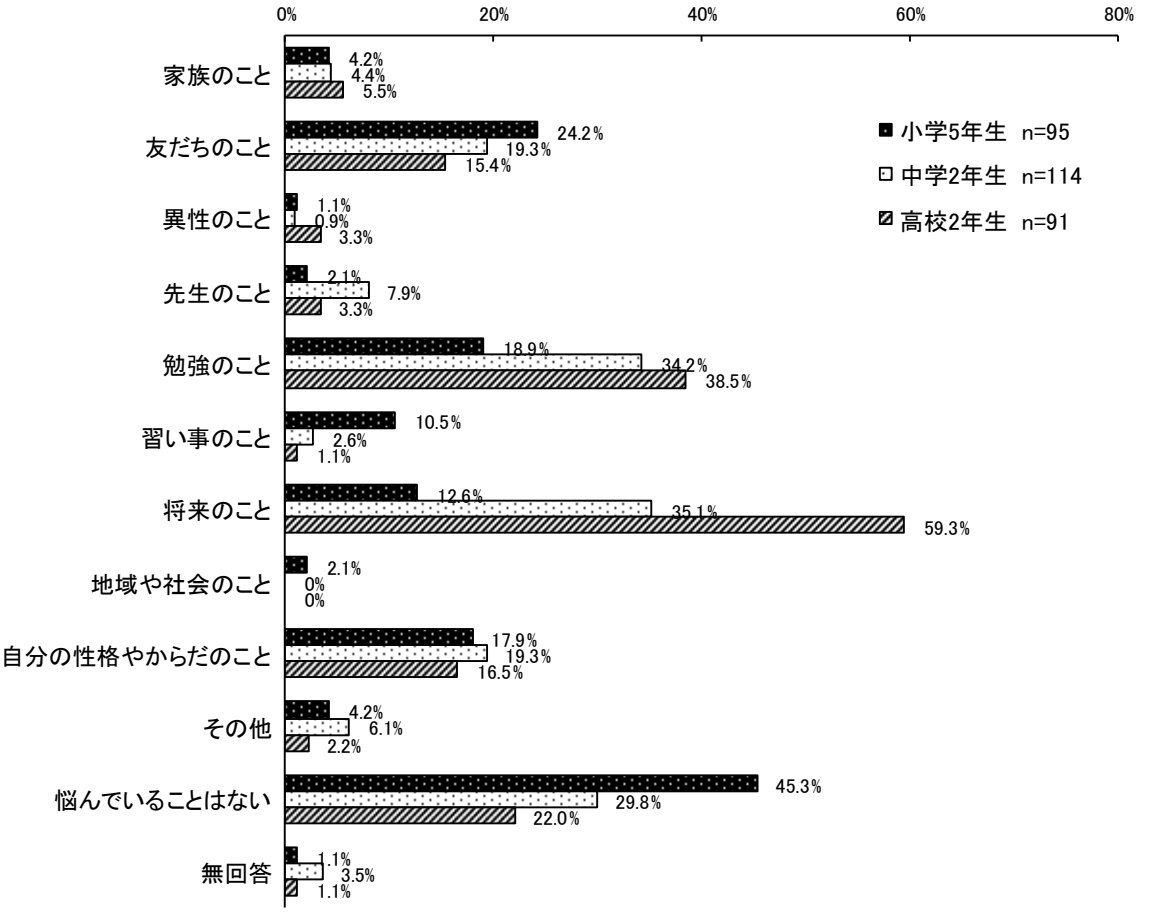
・「その他」では、新型コロナウイルスの影響や、送迎の負担などの回答がありました。



問４　お子さんが、困っていることや悩んでいることは、どんなことだと思いますか。（〇はいくつでも）

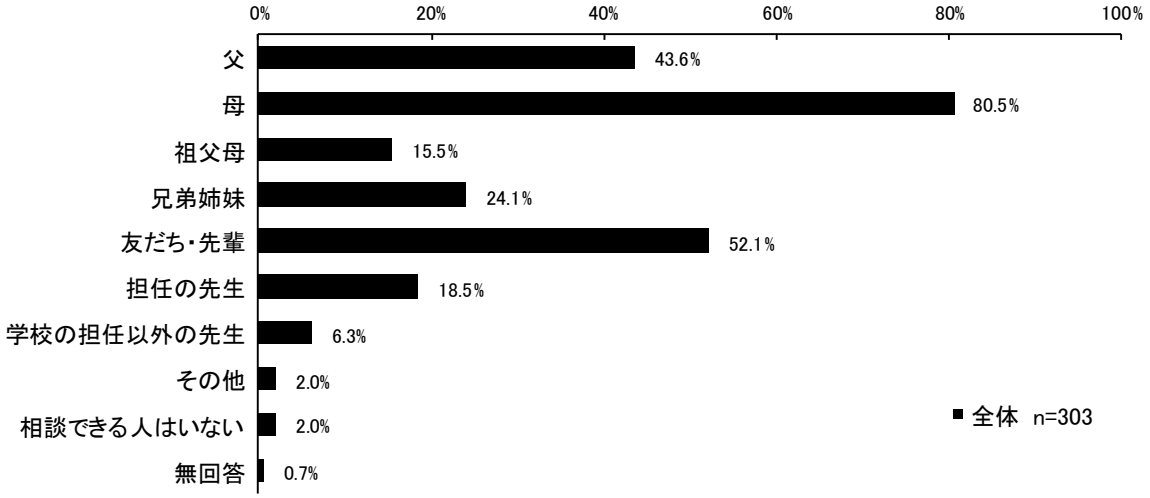
・「将来のこと（35%）」が最も高く、次いで「悩んでいることはない（32%）」となっています。
・子どもの学年別にみると、小学生は「悩んでいることはない」が最も高く、高校生は「将来のこと」が最も高くなっています。
・「その他」では、部活動のことなどの回答がありました。

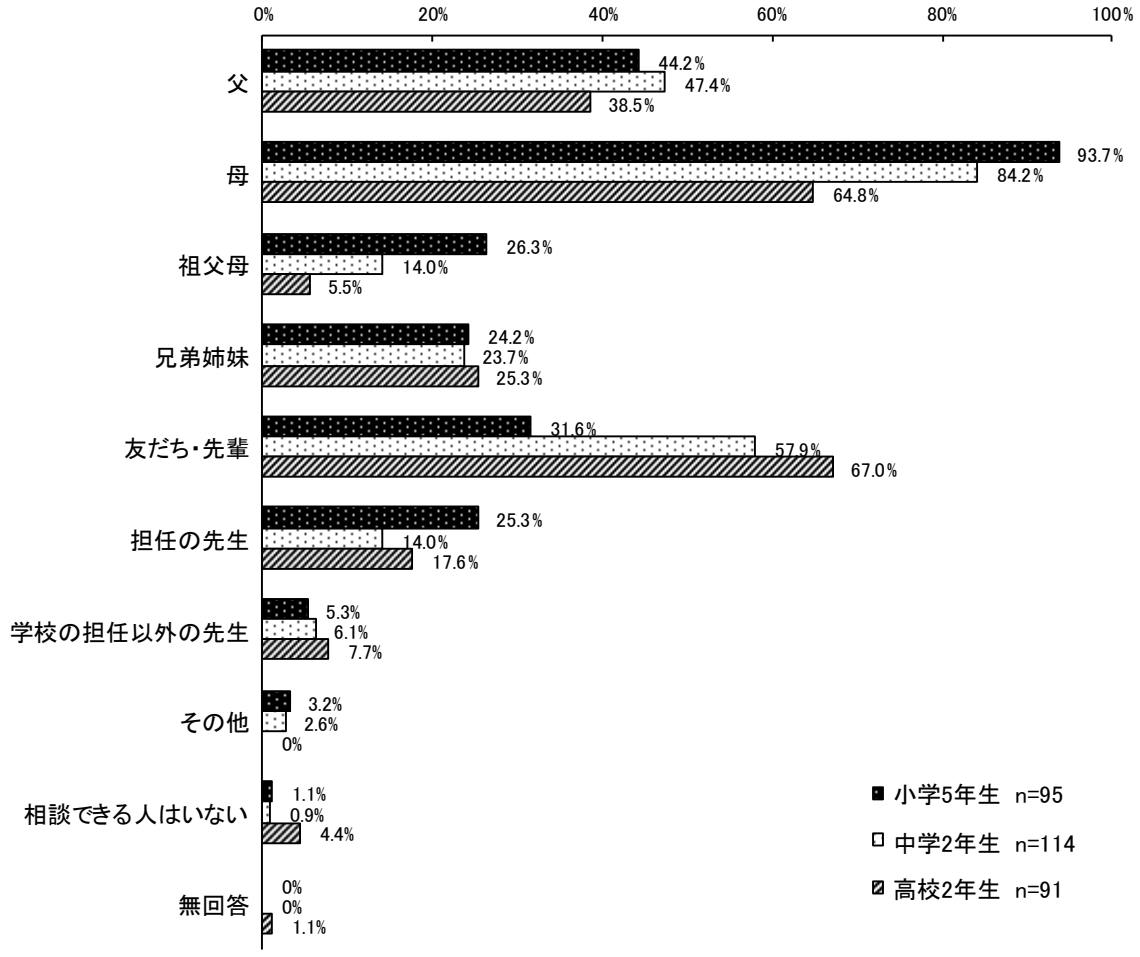




問５　お子さんが、困ったり悩んだ時に、相談するのは誰だと思いますか。（○はいくつでも）

・「母（80.5%）」が最も高く、次いで「友だち・先輩（52.1%）」となっています。
・子どもの学年別にみると、小学生は「母」が最も高く、次いで「父」となっています。中学生は「友だち・先輩」が「父」を上回っており、高校生は「友だち・先輩」が最も高くなっています。
・「その他」では、塾の先生などの回答がありました。



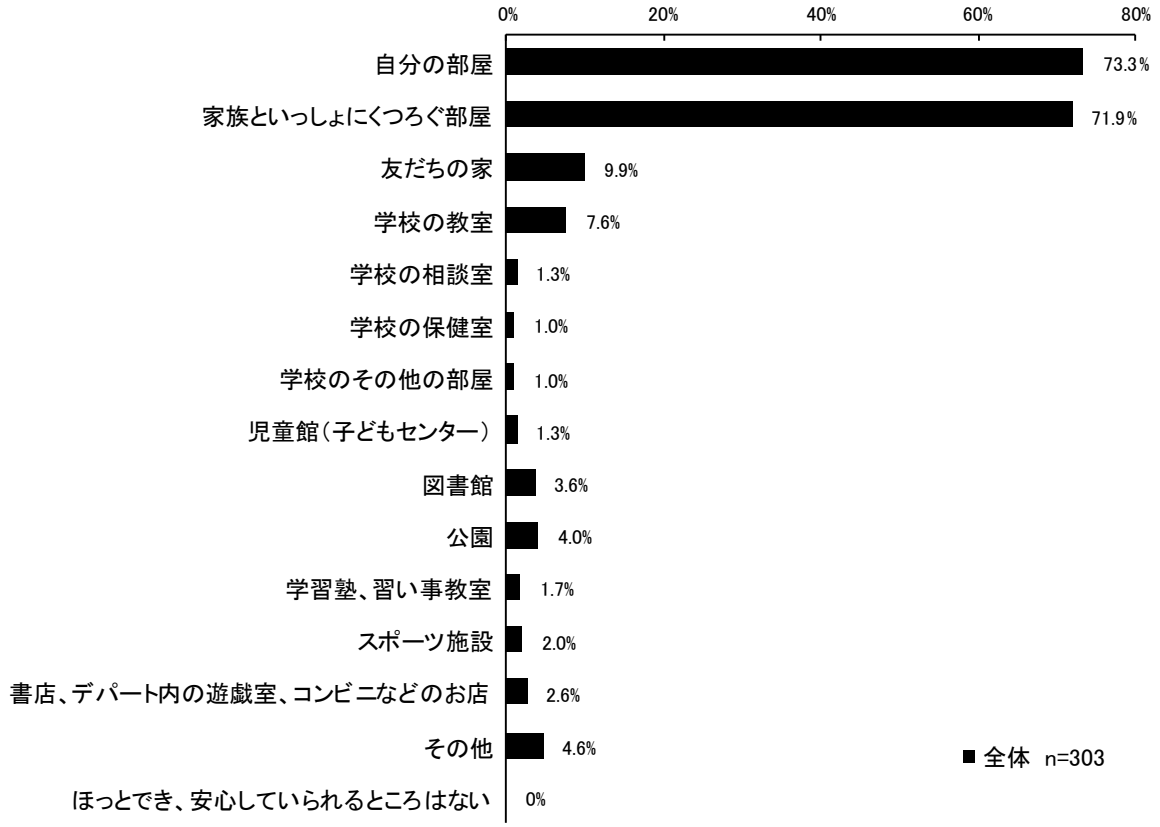


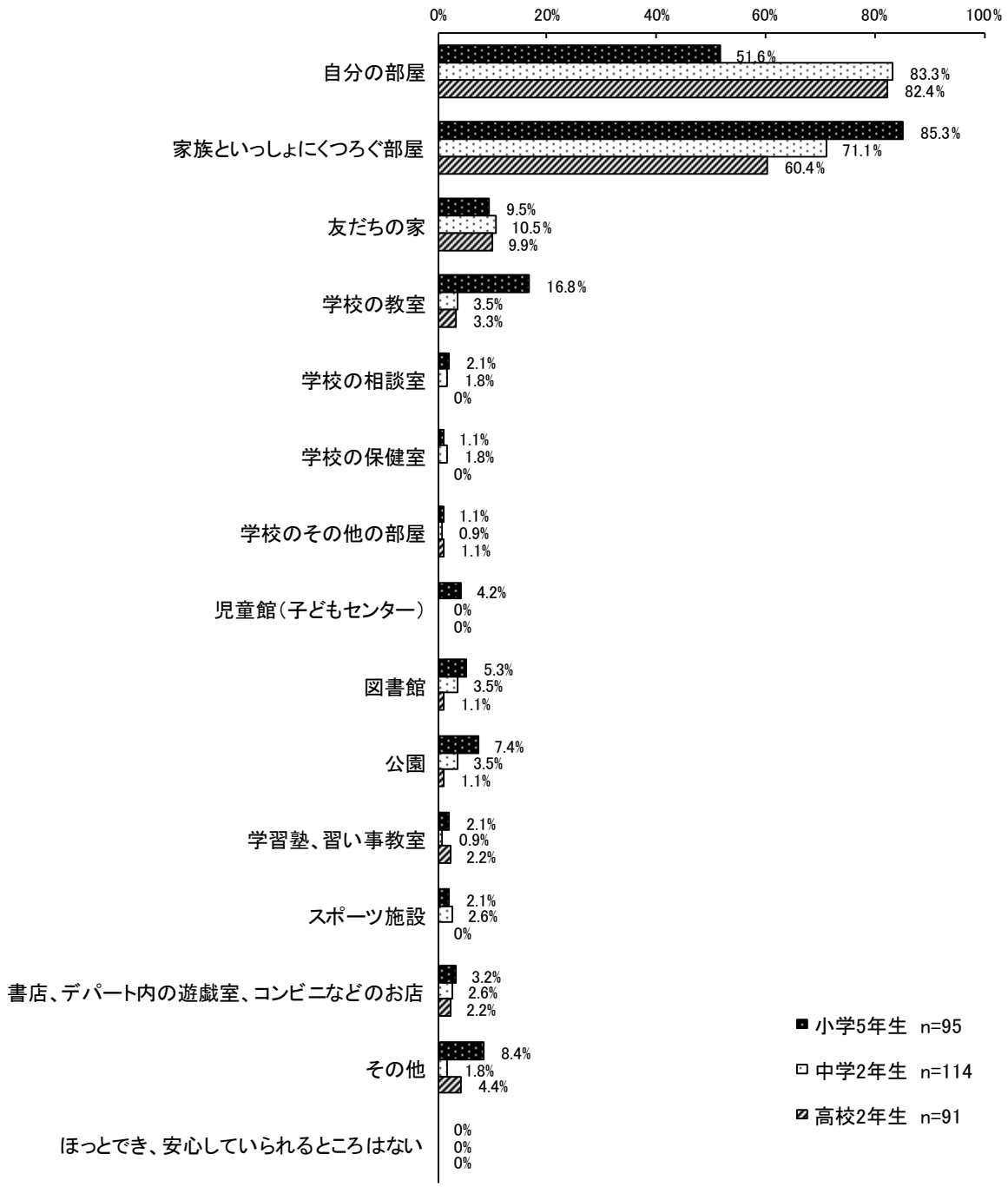
問６　お子さんが、ほっとでき、安心していられるところはどこだと思いますか。（○はいくつでも）

・「自分の部屋（73.3%）」が最も高く、次いで「家族と一緒にくつろぐ部屋（71.9%）」となっています。

・子どもの学年別にみると、小学生は「家族と一緒にくつろぐ部屋」が最も高く、中学生と高校生は「自分の部屋」が最も高くなっています。

・「その他」では、祖父母や親戚宅などの回答がありました。



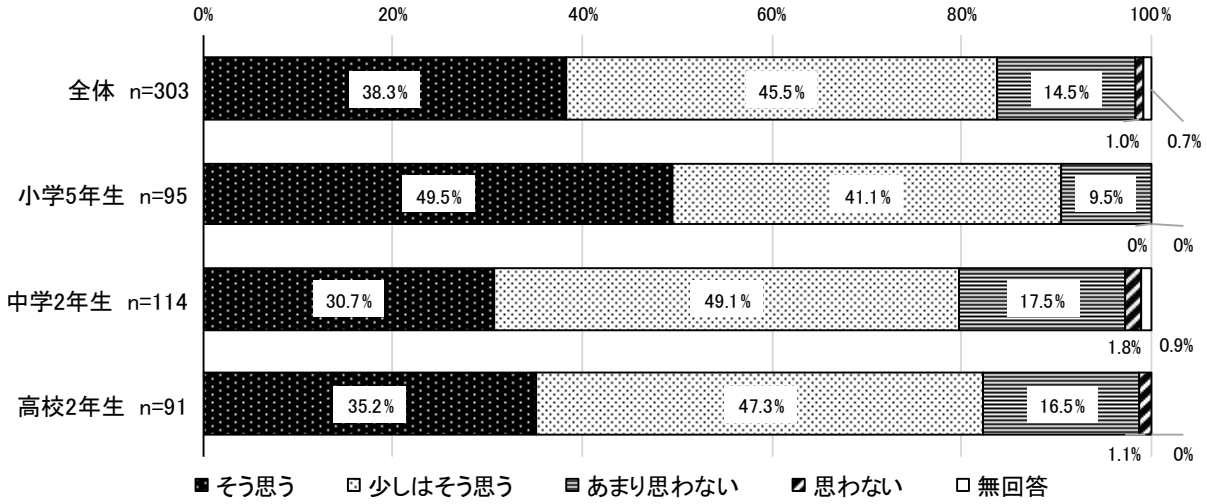

0%
20%
40%
60%
80%
100%
自分の部屋
51.6%
83.3%
82.4%
家族といっしょにくつろぐ部屋
85.3%
71.1%
60.4%
友だちの家
9.5%
10.5%
9.9%
学校の教室
16.8%
3.5%
3.3%
学校の相談室
2.1%
1.8%
0%
学校の保健室
1.1%
1.8%
0%
学校のその他の部屋
1.1%
0.9%
1.1%
児童館（子どもセンター）
4.2%
0%
0%
図書館
5.3%
3.5%
1.1%
公園
7.4%
3.5%
1.1%
学習塾、習い事教室
2.1%
0.9%
2.2%
スポーツ施設
2.1%
2.6%
0%
書店、デパート内の遊戯室、コンビニなどのお店
3.2%
2.6%
2.2%
その他
8.4%
1.8%
4.4%
ほっとでき、安心していられるところはない
0%
0%
0%
小学5年生 n=95
中学2年生 n=114
高校2年生 n=91

問７　お子さんは、自分自身のことについてどう思っているとお考えですか。（○は１つ）

（１）自分のことが好き。

・「少しはそう思う（45.5%）」が最も高く、次いで「そう思う（38.3%）」となっています。

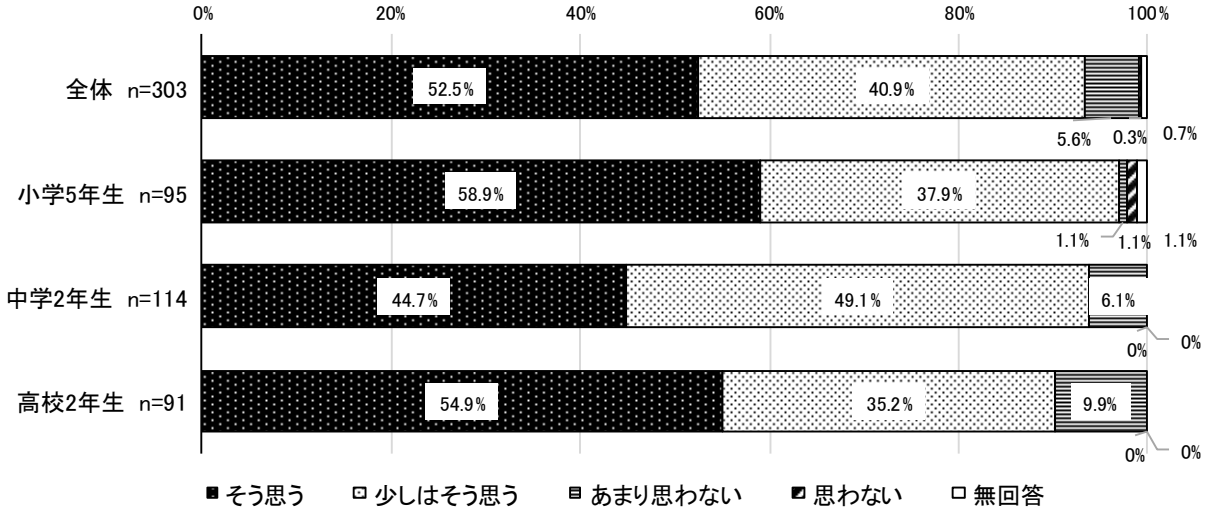
・子どもの学年別にみると、小学生は「そう思う」が最も高くなっています。



（２）自分は人から大切にされている。

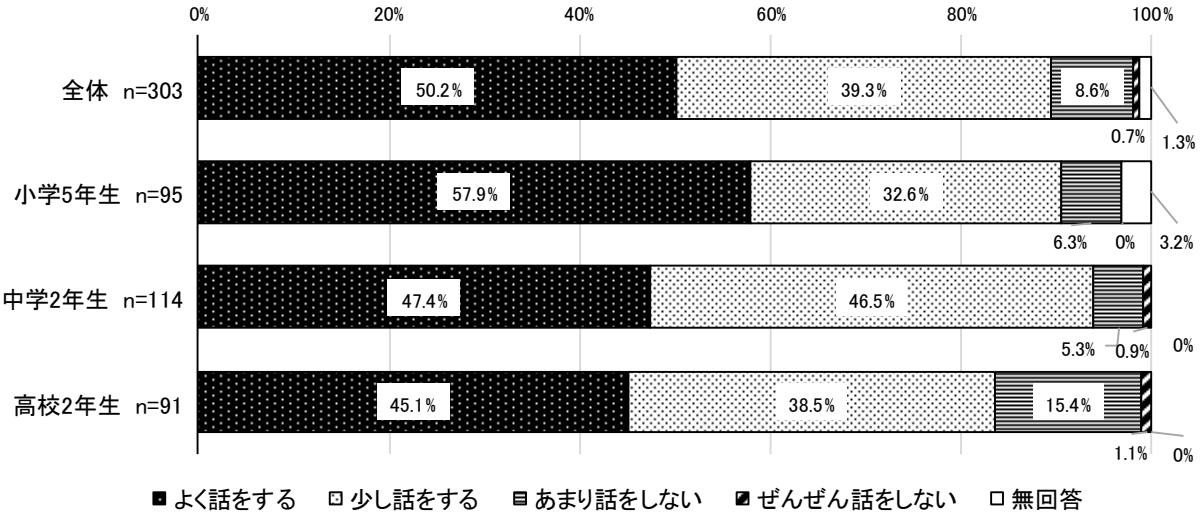
・「そう思う（52.5%）」が最も高く、次いで「少しはそう思う（40.9%）」となっています。

・子どもの学年別にみると、中学生は「少しはそう思う」が最も高くなっています。



問８　あなたは、一日（平日で学校のあるとき）に、お子さんとどのくらい話をしますか。（○は１つ）

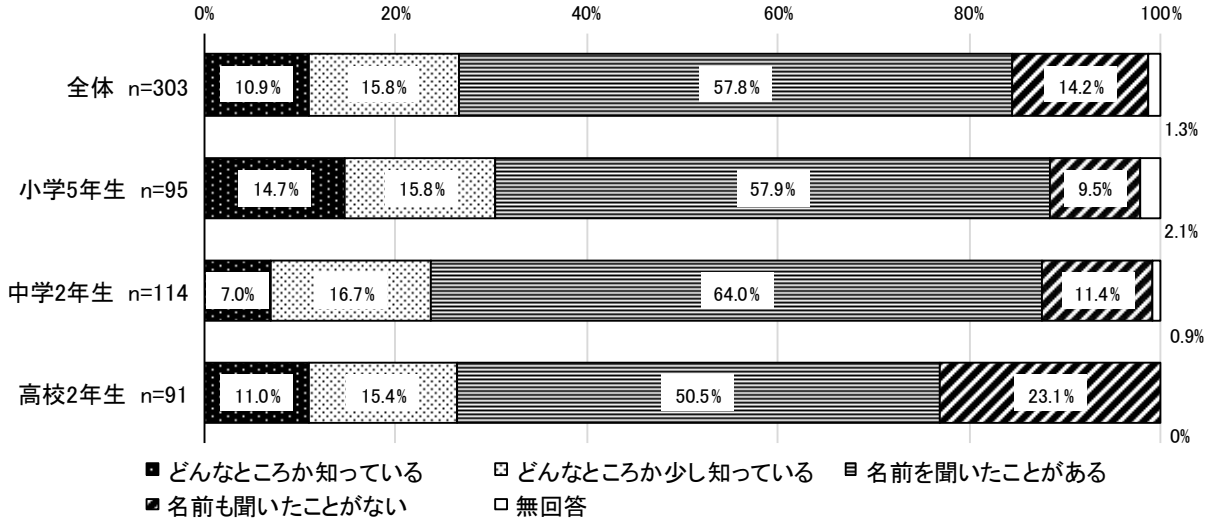
・「よく話をする（50.2%）」が最も高く、次いで「少し話をする（39.3%）」となっています。
・子どもの学年別にみると、小学生は特に「よく話をする」が高い傾向がみられます。



問９　士別市には、子育てや学校のことで悩んだり、困りごとがあれば相談できる場所があります。あなたは、そのことを知っていますか。（○は１つ）

①青少年相談室（のぞみの電話）

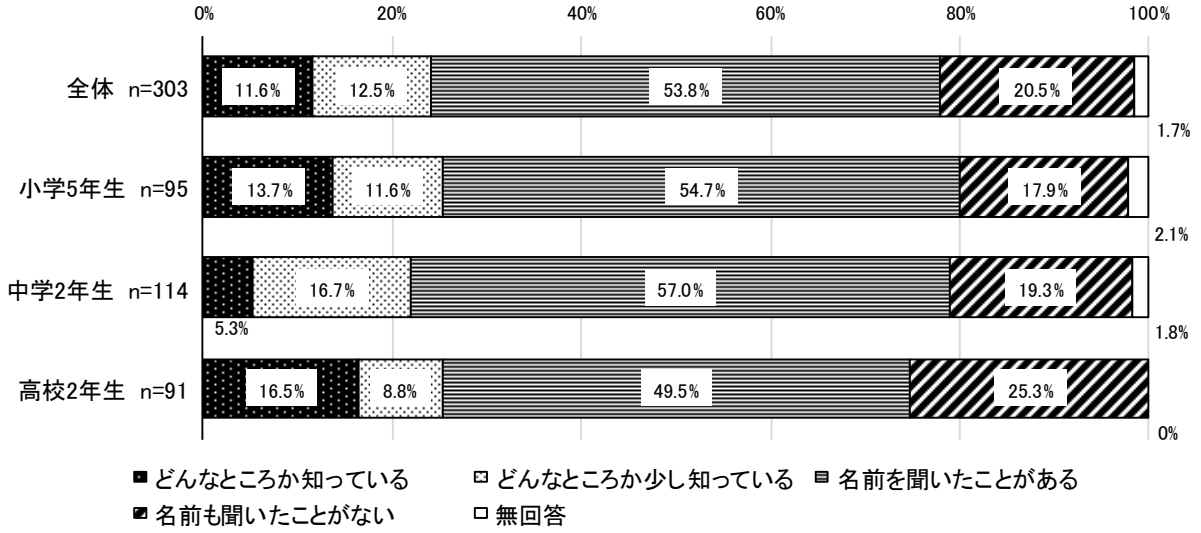
・「名前を聞いたことがある（57.8%）」が最も高く、次いで「どんなところか少し知っている（15.8%）」となっています。
・子どもの学年別にみると、高校生は「名前も聞いたことがない」が比較的高くなっています。



②家庭児童相談室

・「名前を聞いたことがある（53.8%）」が最も高く、次いで「名前も聞いたことがない（20.5%）」となっています。

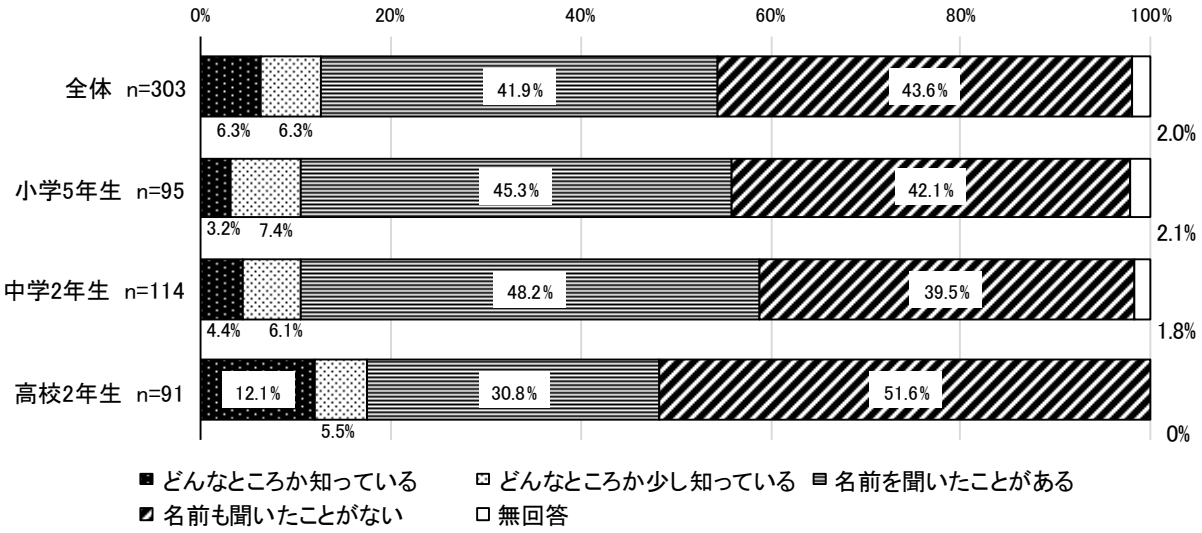
・子どもの学年別にみると、中学生は「どんなところか少し知っている」が比較的高い傾向がみられます。



③子どもの権利救済委員会

・「名前も聞いたことがない（43.6%）」が最も高く、次いで「名前を聞いたことがある（41.9%）」となっています。

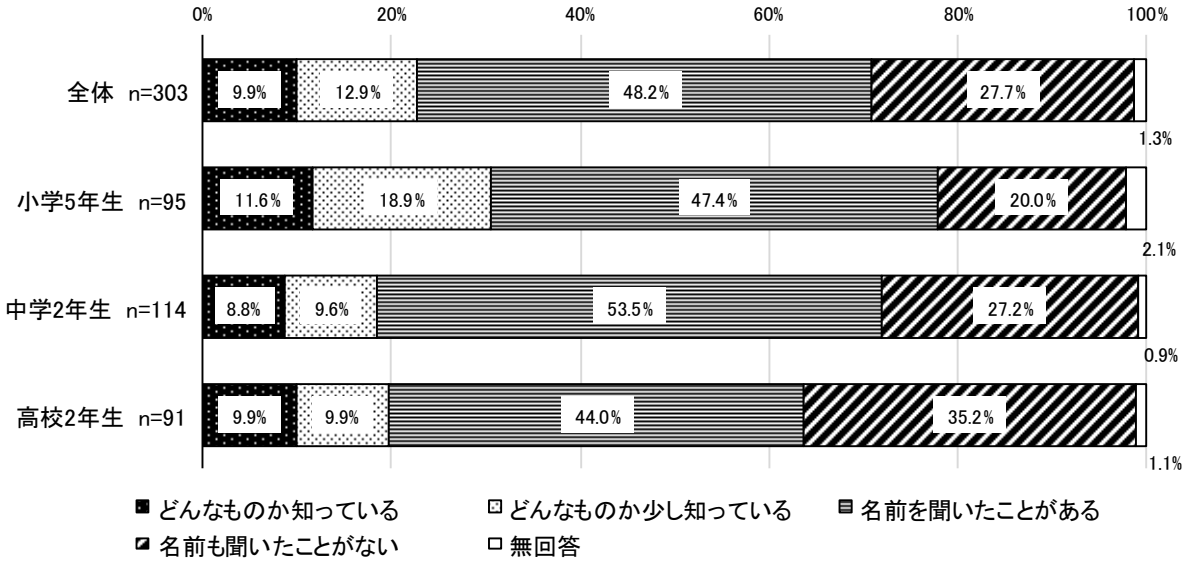
・子どもの学年別にみると、高校生で特に「名前も聞いたことがない」が高い傾向がみられます。



問 10　士別市では、士別で暮らす子どもたちの権利を、みんなで大切にするためのきまりとして、「子どもの権利に関する条例」をつくりました。あなたは、このことを知っていますか。（〇は１つ）

・「名前を聞いたことがある（48.2%）」が最も高く、次いで「名前も聞いたことがない（27.7%）」となっています。

・子どもの学年別にみると、小学生は「どんなものか少し知っている」が比較的高い傾向がみられます。

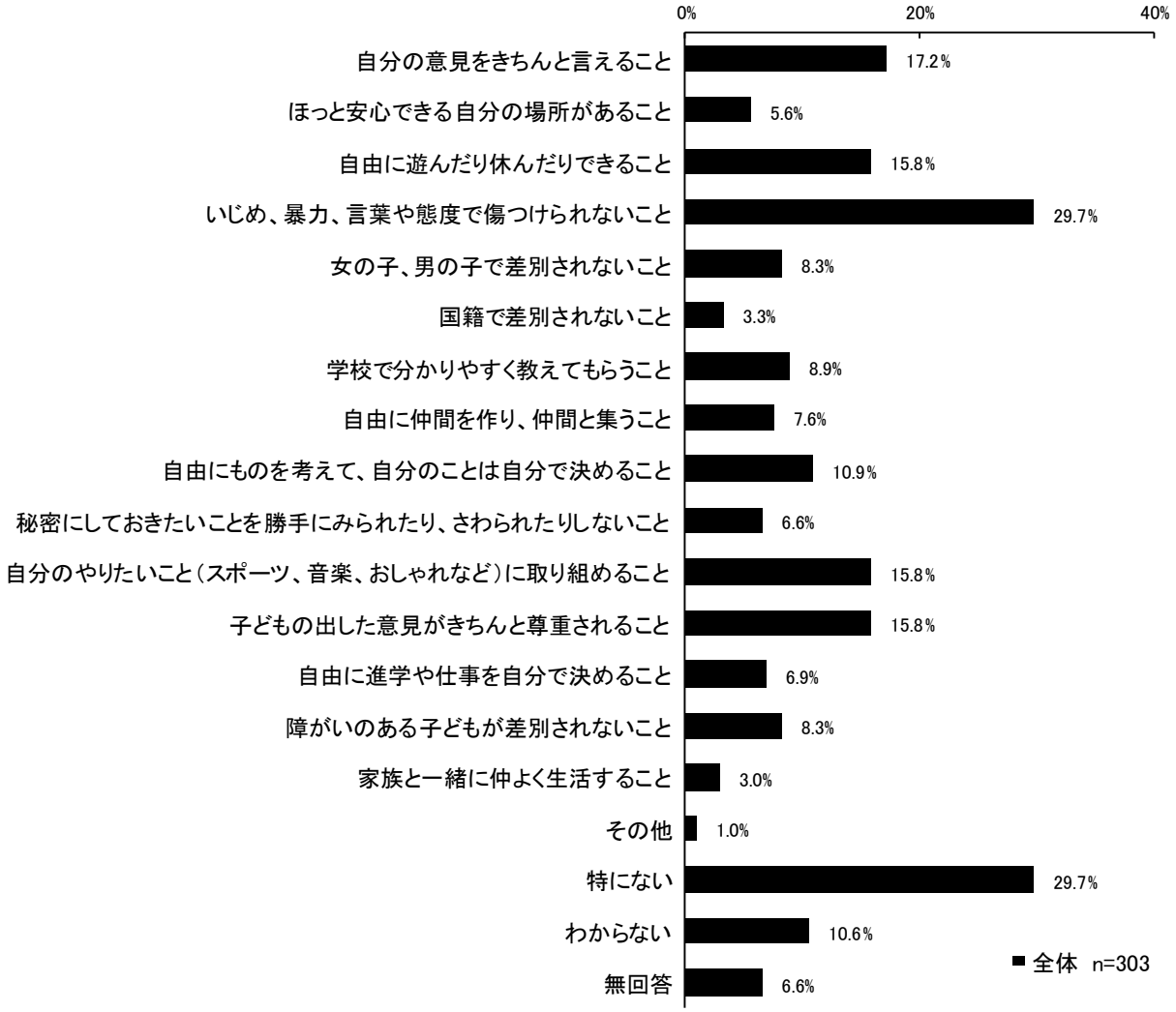


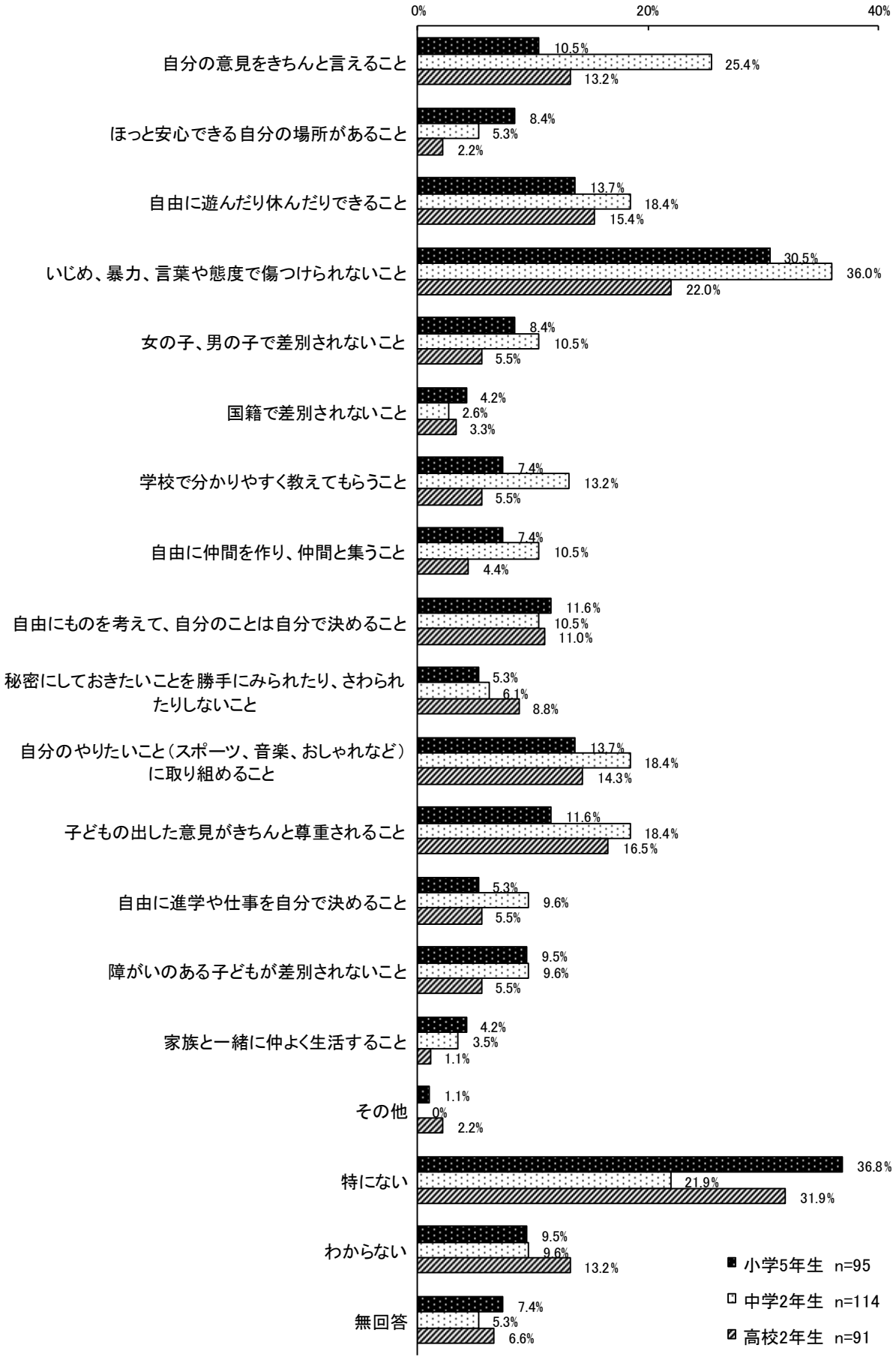
問 11　あなたは、子どもたちにとって、普段の生活のなかで「守られていない」ことは何だと思いますか。（○はいくつでも）

・「特にない（29.7%）」と、「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと（29.7%）」が最も高くなっています。

・子どもの学年別にみると、中学生で「自分の意見をきちんと言えること」が高い傾向がみられます。

・「その他」では、部活動の加入が半強制的であることや、守られすぎていることなどの回答がありました。




0%
20%
40%
自分の意見をきちんと言えること
10.5%
25.4%
13.2%
ほっと安心できる自分の場所があること
8.4%
5.3%
2.2%
自由に遊んだり休んだりできること
13.7%
18.4%
15.4%
いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと
30.5%
36.0%
22.0%
女の子、男の子で差別されないこと
8.4%
10.5%
5.5%
国籍で差別されないこと
4.2%
2.6%
3.3%
学校で分かりやすく教えてもらうこと
7.4%
13.2%
5.5%
自由に仲間を作り、仲間と集うこと
7.4%
10.5%
4.4%
自由にものを考えて、自分のことは自分で決めること
11.6%
10.5%
11.0%
秘密にしておきたいことを勝手にみられたり、さわられたりしないこと
5.3%
6.1%
8.8%
自分のやりたいこと（スポーツ、音楽、おしゃれなど）に取り組めること
13.7%
18.4%
14.3%
子どもの出した意見がきちんと尊重されること
11.6%
18.4%
16.5%
自由に進学や仕事を自分で決めること
5.3%
9.6%
5.5%
障がいのある子どもが差別されないこと
9.5%
9.6%
5.5%
家族と一緒に仲よく生活すること
4.2%
3.5%
1.1%
その他
1.1%
0%
2.2%
特にない
36.8%
21.9%
31.9%
わからない
9.5%
9.6%
13.2%
無回答
7.4%
5.3%
6.6%
小学5年生 n=95
中学2年生 n=114
高校2年生 n=91

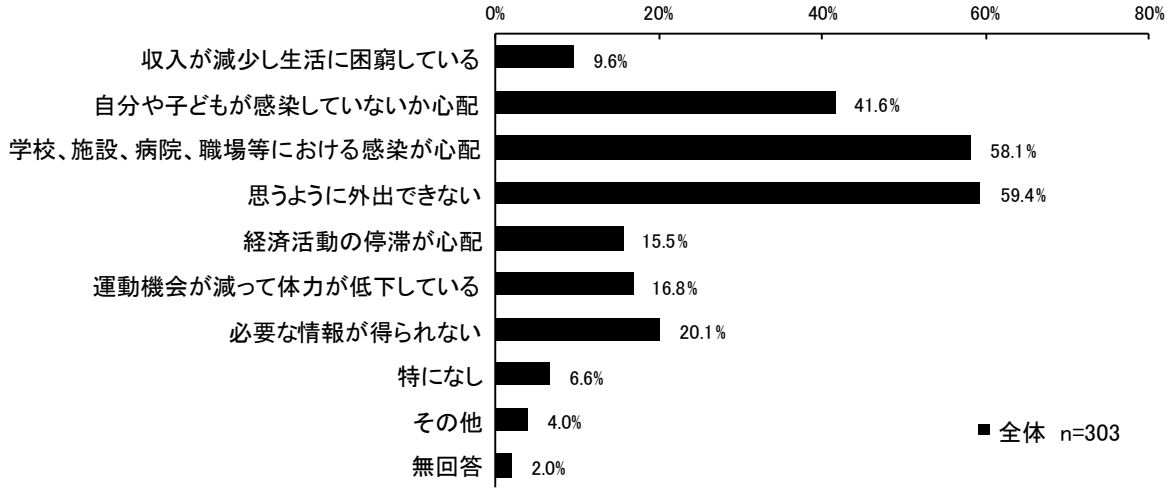
問 12　新型コロナウイルス感染症に関して困っていることはありますか？（〇はいくつでも）

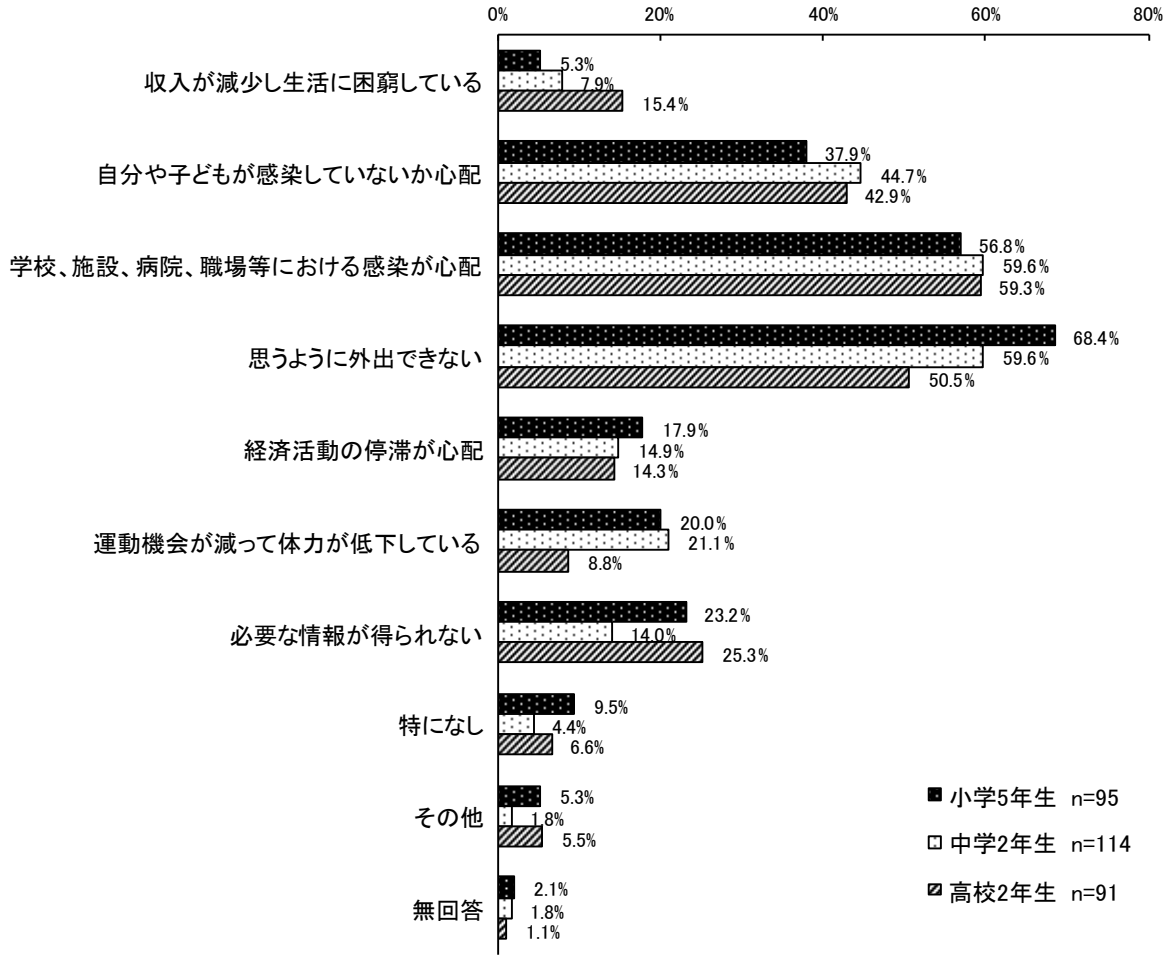
※令和３年度新規設問

・「思うように外出できない（59.4%）」が最も高く、次いで「学校、施設、病院、職場等における感染が心配（58.1%）」となっています。

・子どもの学年別にみると、高校生は「学校、施設、病院、職場等における感染が心配」が最も高くなっています。

・「その他」では、行事の縮小や、市内感染者情報の不足などの回答がありました。

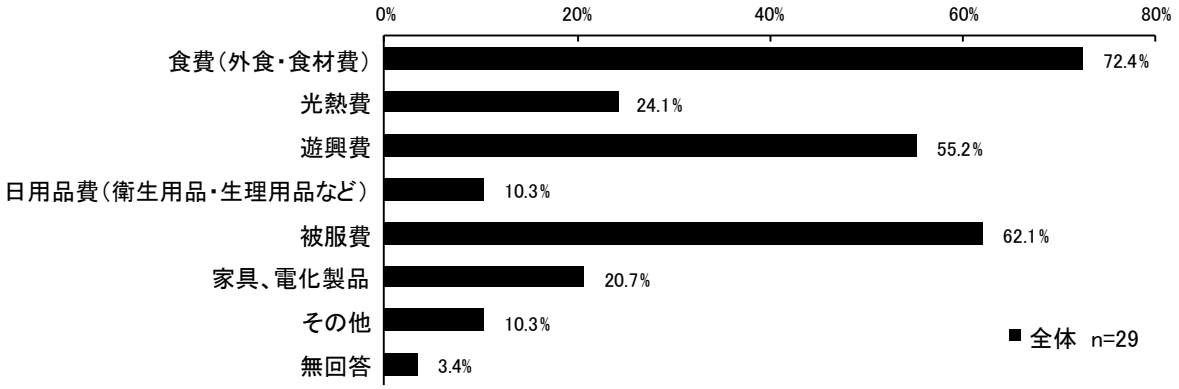


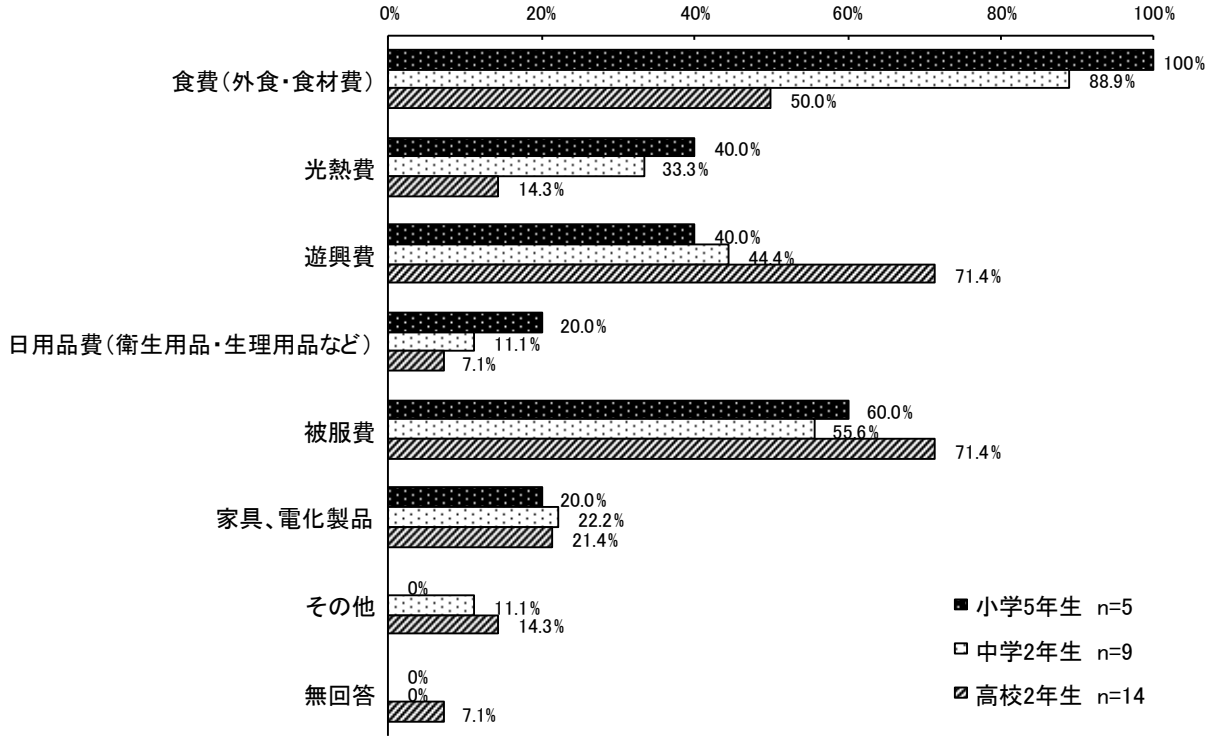


問 13　問 12 で「収入が減少し生活に困窮している」を選択された方に伺います。収入の減少により節約したものはありますか？（〇はいくつでも）　※令和３年度新規設問

・「食費（72.4%）」が最も高く、次いで「被服費（62.1%）」となっています。

・「その他」では、子どものお小遣いや、進学費用などの回答がありました。





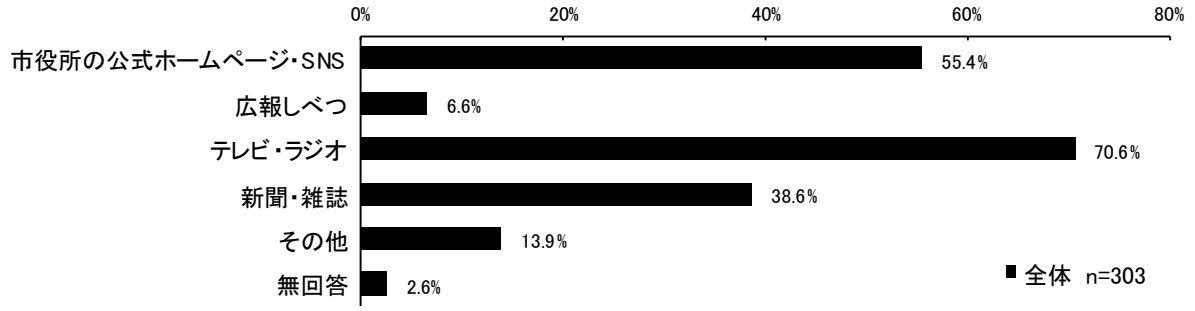
問 14　新型コロナウイルス感染症に関する情報をどこからえていますか？　（〇はいくつでも）

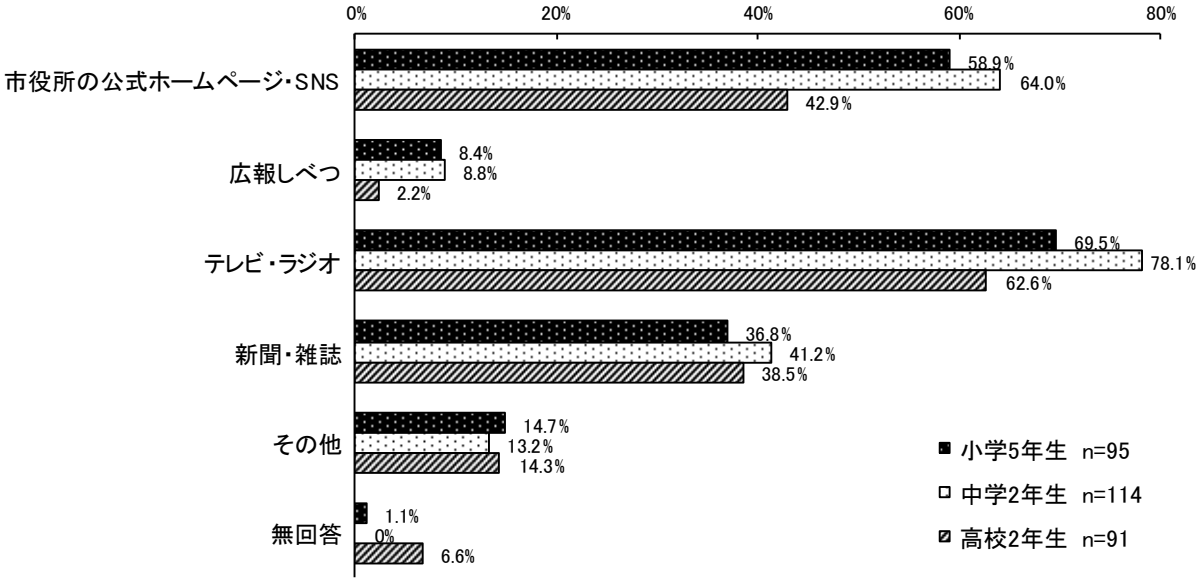
※令和３年度新規設問

・「テレビ・ラジオ（70.6%）」が最も高く、次いで「市役所の公式ホームページ・SNS（55.4%）」となっています。

・子どもの学年別にみると、小学生と中学生で特に「市役所の公式ホームページ・SNS」が高い傾向がみられます。

・「その他」では、ネットニュースや友人知人などの回答がありました。

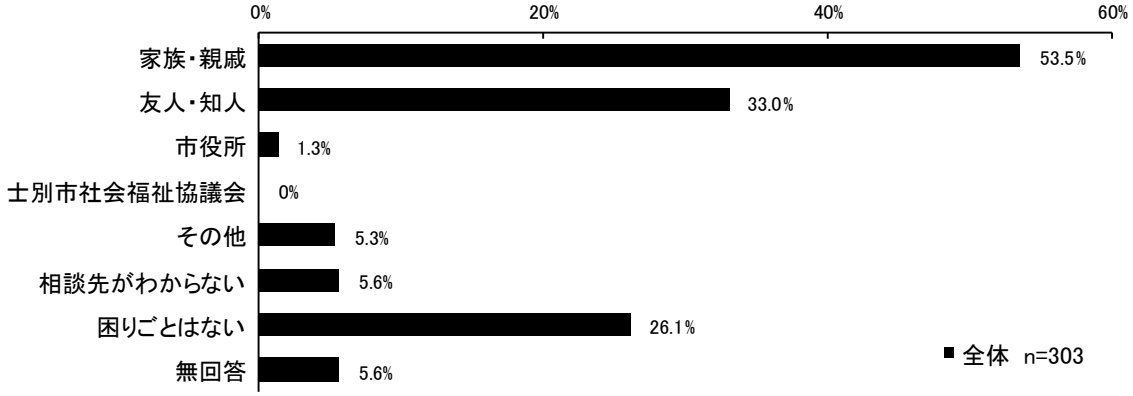


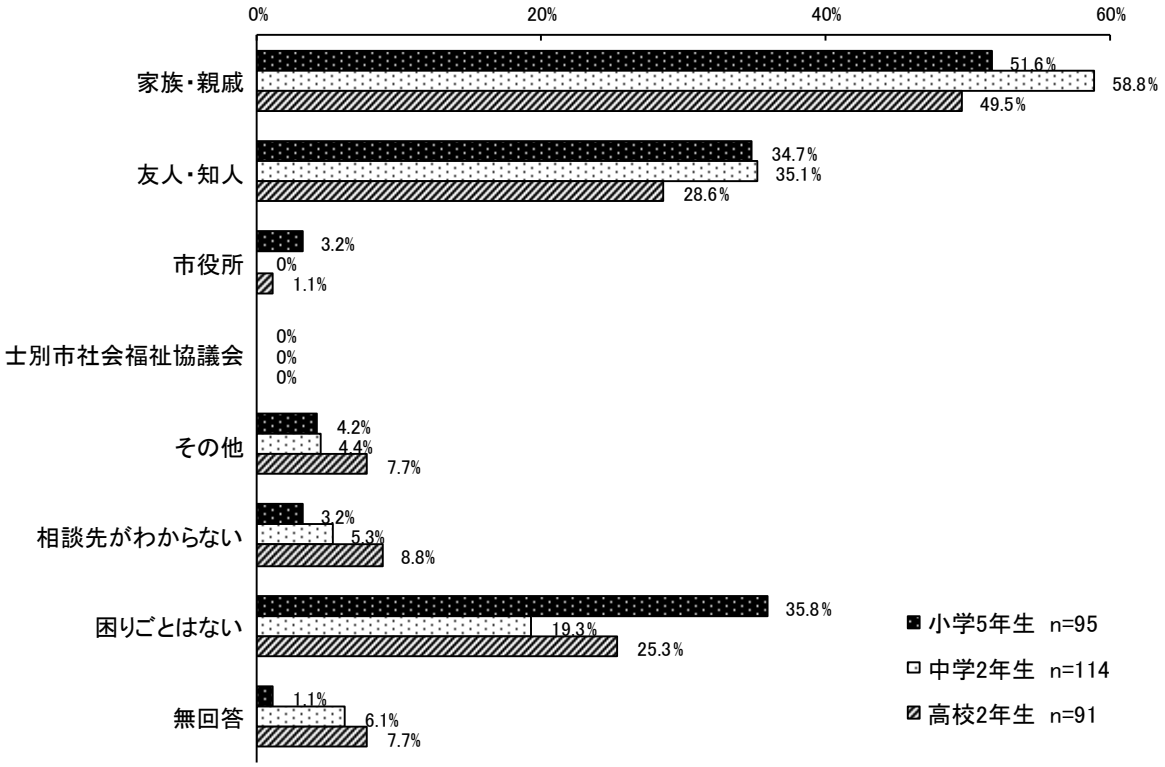


問 15　コロナ禍による生活の困りごとを誰に相談されていますか？　（〇はいくつでも）

※令和３年度新規設問

・「家族・親戚（53.5%）」が最も高く、次いで「友人・知人（33%）」となっています。
・子どもの学年別にみると、小学生は「困りごとはない」が比較的高い傾向がみられます。
・「その他」では、職場などの回答がありました。

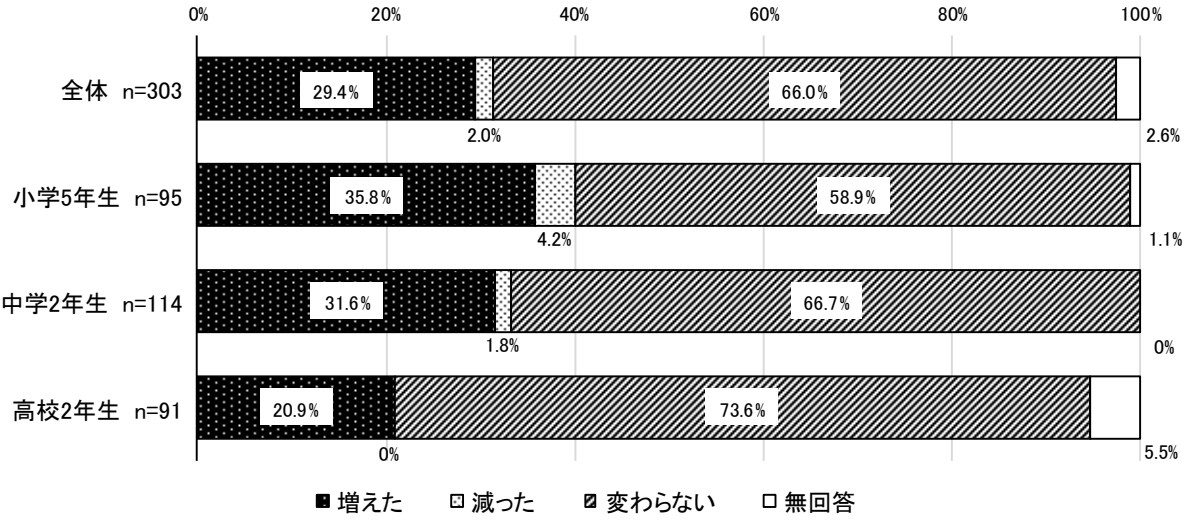




問 16　コロナ禍でお子さんと過ごす時間が変わりましたか？　（〇は１つ）

※令和３年度新規設問

・「変わらない（66%）」が最も高く、次いで「増えた（29.4%）」となっています。



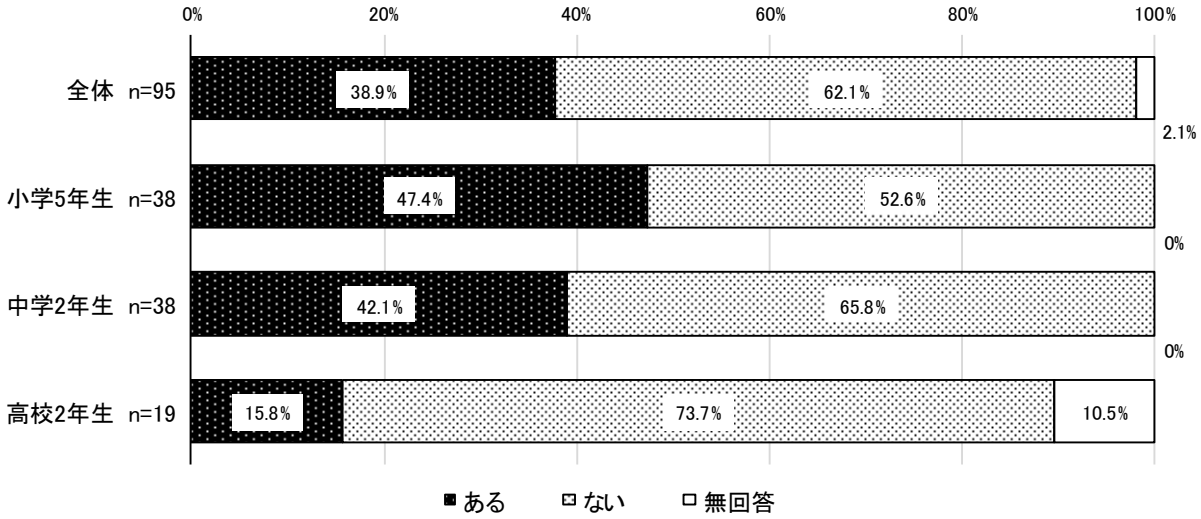
◇問 17　問 16 で「増えた」「減った」を選択された方に伺います。お子さんと過ごす時間が変わったことで、生活に変化がありますか？（〇は１つ）

※令和３年度新規設問

・全体で「ある」が 38.9%、「ない」が 62.1%となっています。

・子どもの学年別にみると、高校生で特に「ない」が高くなっています。

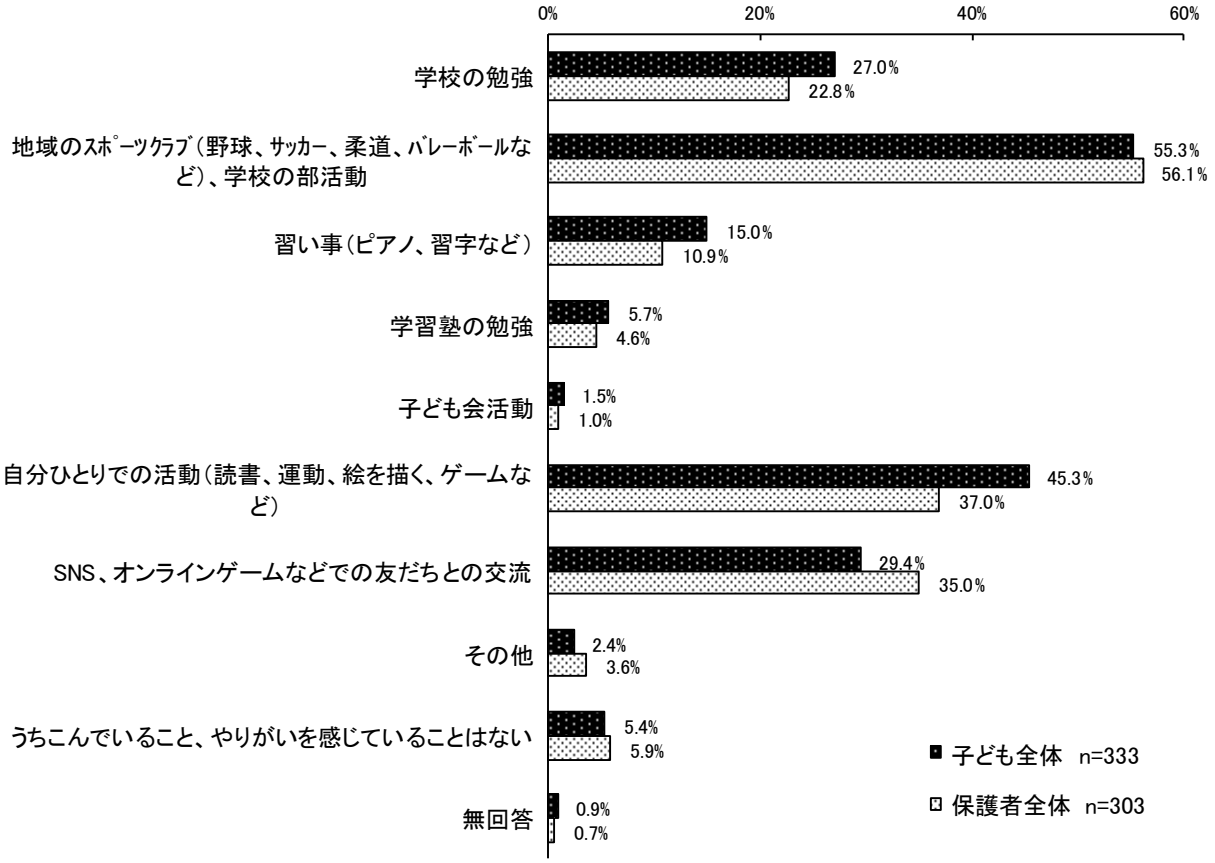
・「ある」の詳細について、親子で過ごす時間や会話が増えたという意見が多く、他には、子どもが家事をやるようになった、親子の会話が減った、ストレスが増えた、等の意見もありました。



１－４　子どもと保護者の比較

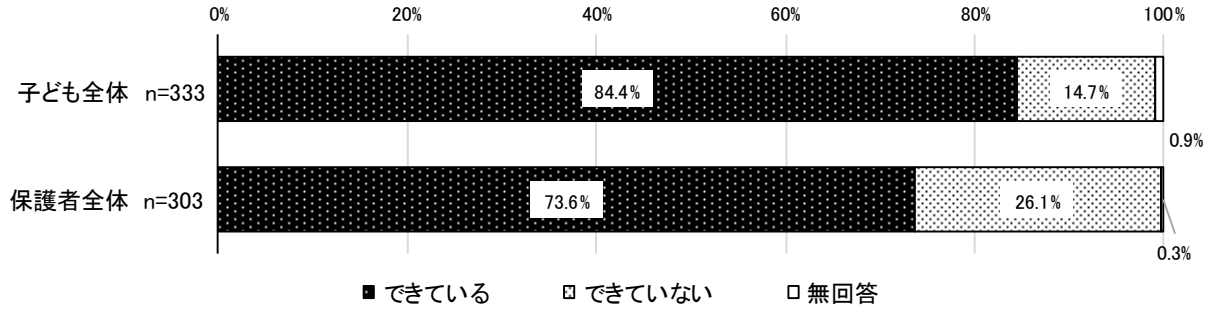
◇うちこんでいること、やりがいを感じていること

・子ども、保護者ともに「地域のスポーツクラブ、学校の部活動」が最も高くなっています。



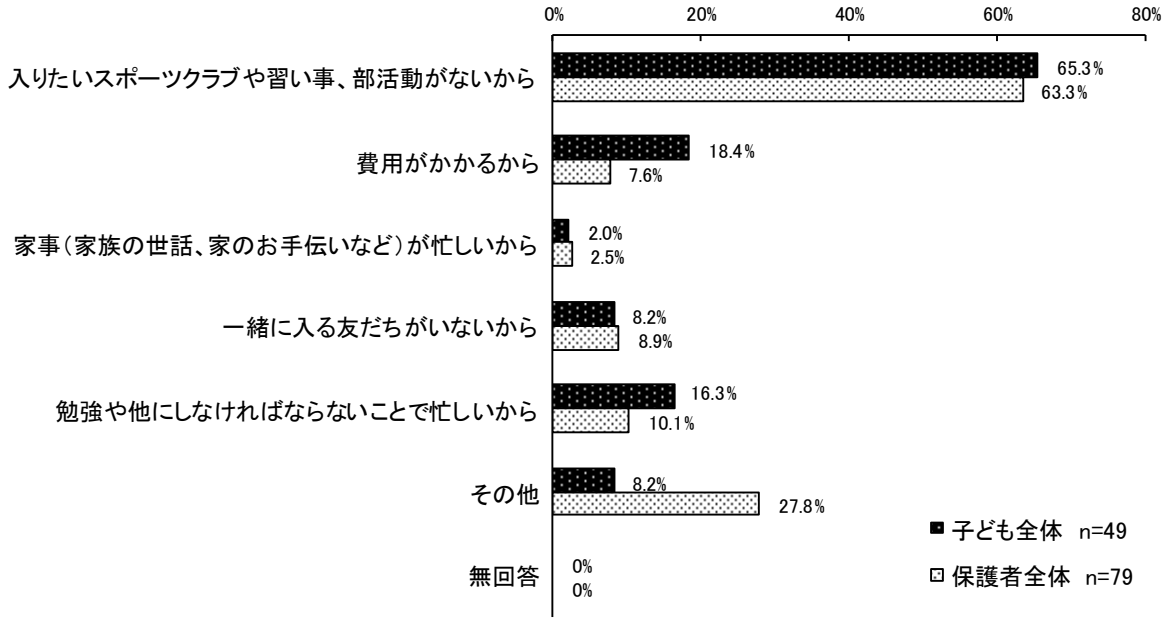
◇自分がしたい活動に参加できているか／子どもが参加できていると思うか

・保護者のほうが「できていない」がやや高くなっています。



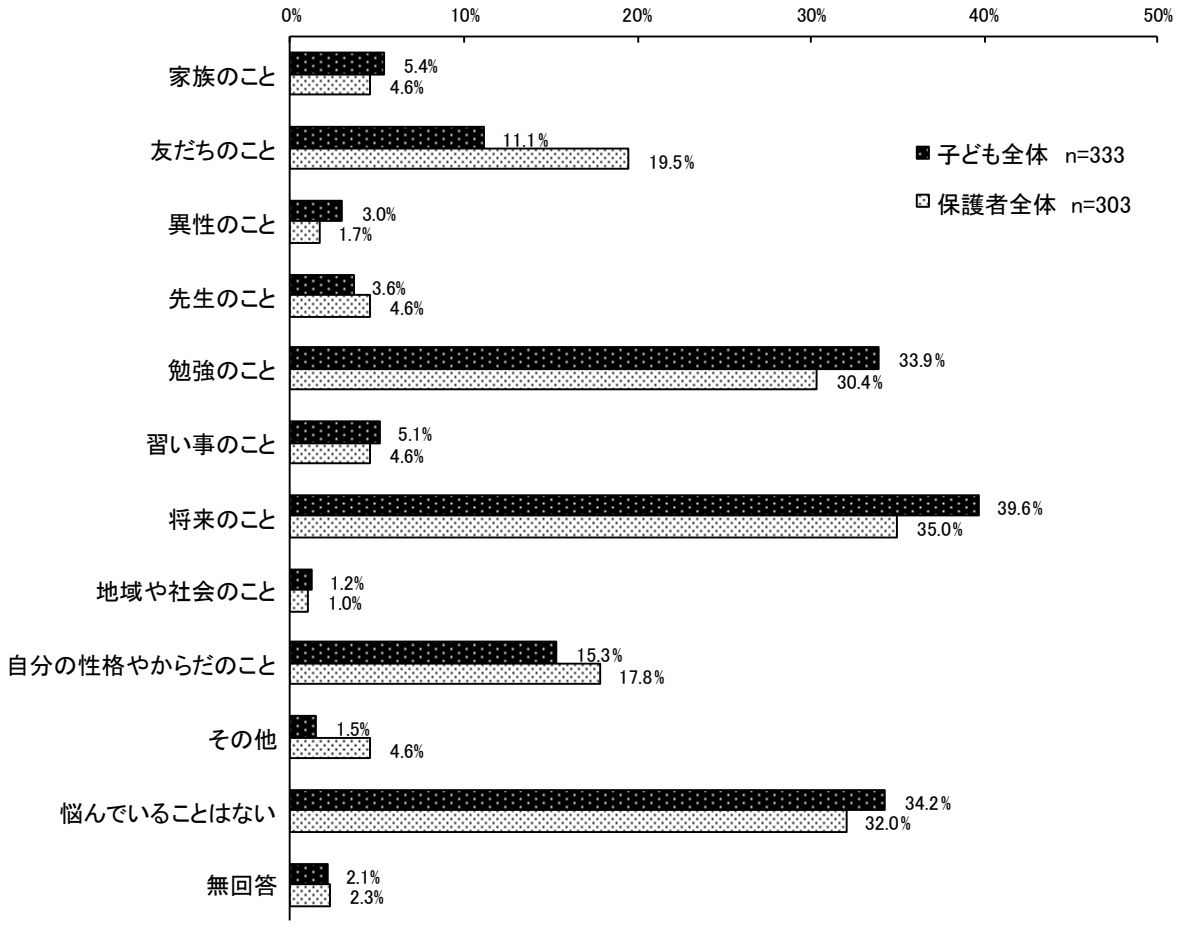
◇参加できていない理由　　※「参加できていない」と回答した方のみ

・子ども、保護者ともに「入りたいスポーツクラブや習い事、部活動がないから」が最も高くなっています。



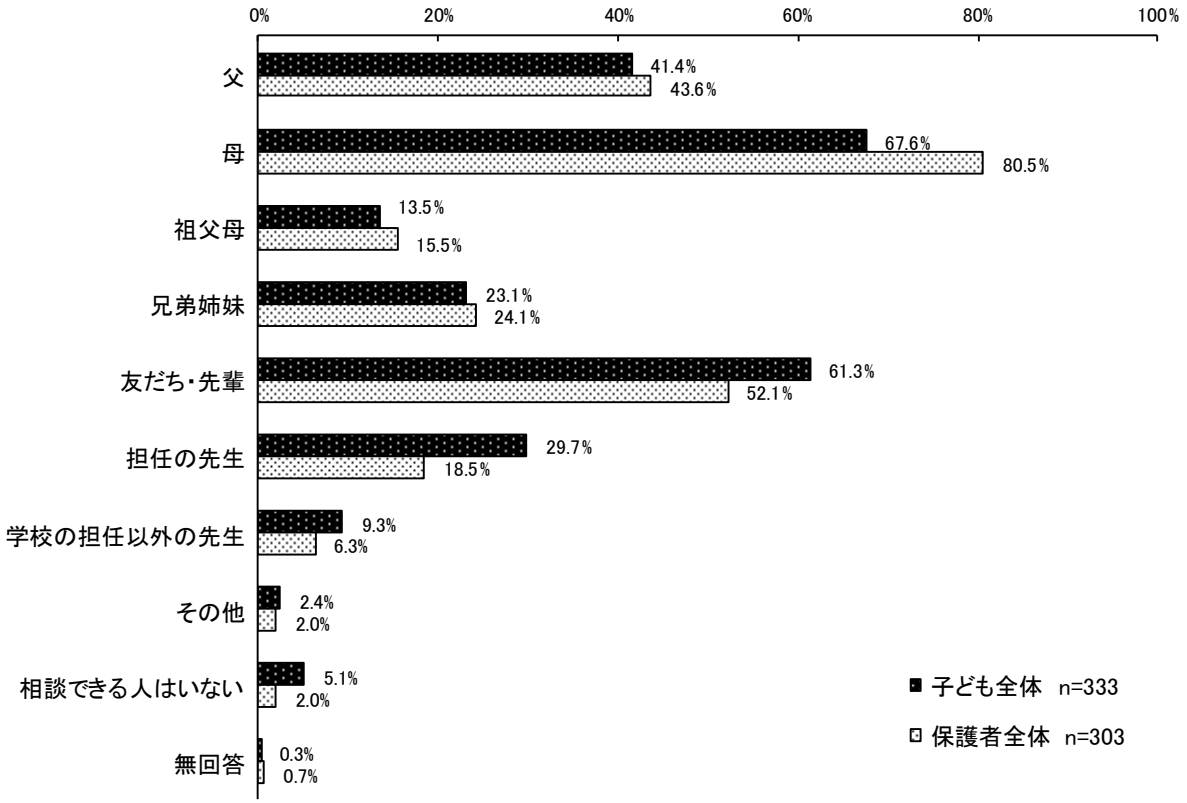
◇困ったり悩んだりしていること

・子ども、保護者ともに「将来のこと」が最も高く、次いで「悩んでいることはない」となっています。



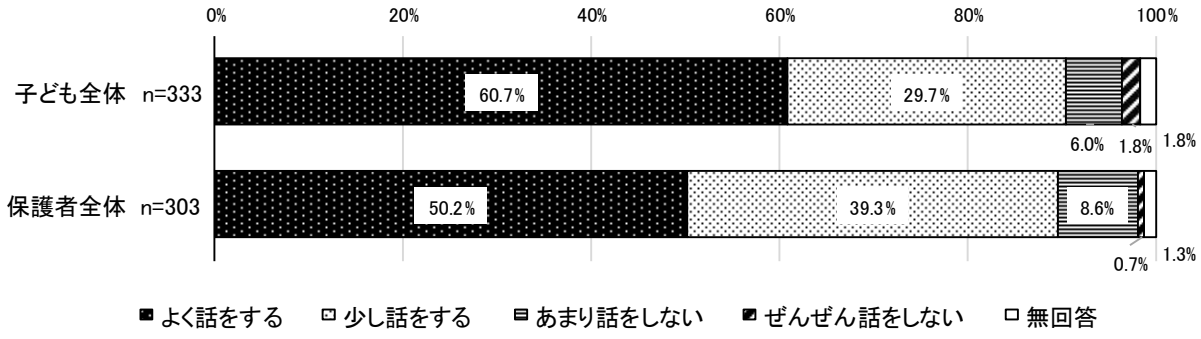
◇子どもが困ったり悩んだりした時に相談できる人

・子ども、保護者ともに「母」が最も高く、次いで「友だち・先ぱい」となっています。



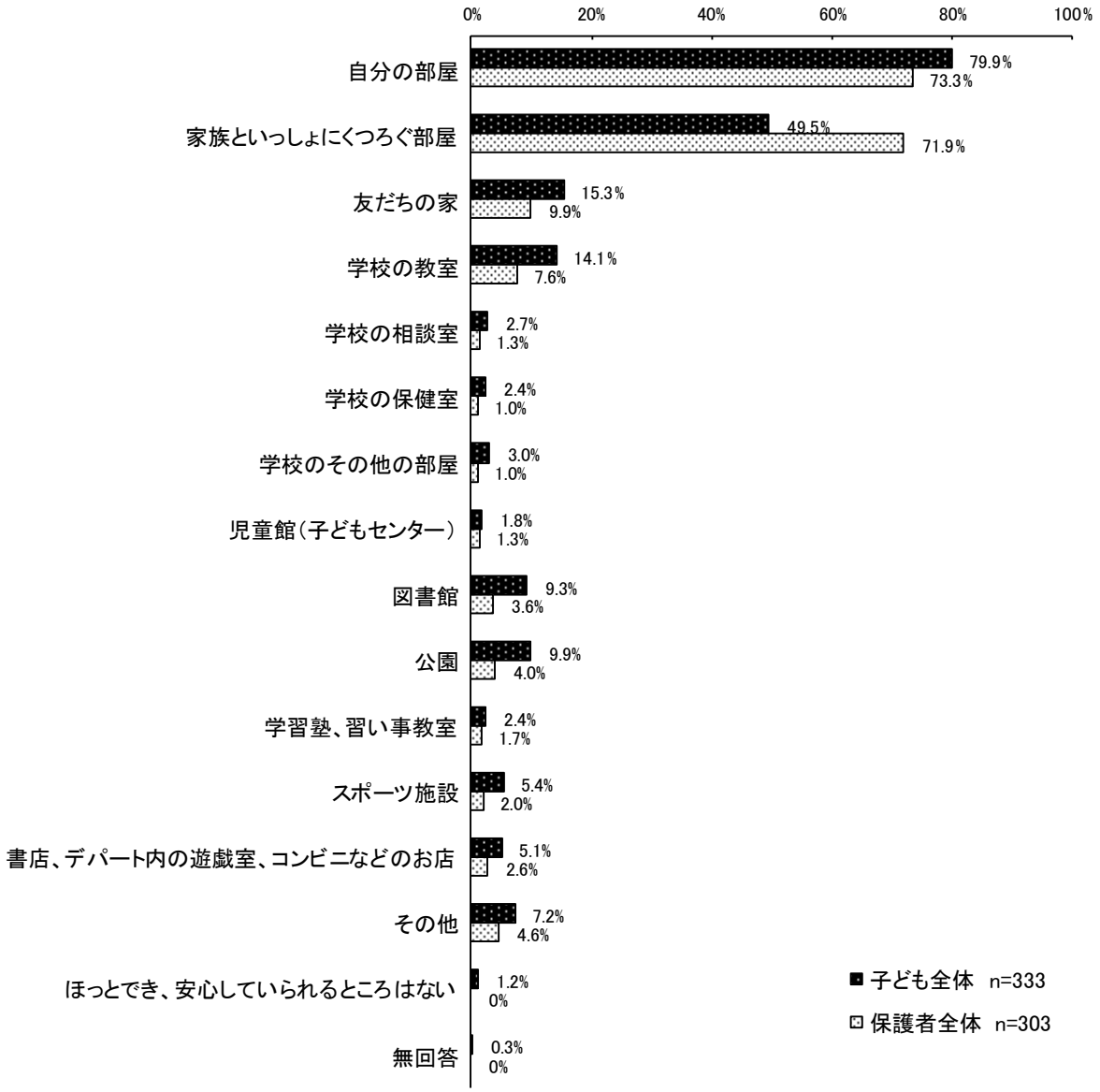
◇一日（平日で学校のあるとき）に、家族とどのくらい話をするか

・子ども、保護者ともに「よく話をする」が最も高くなっています。



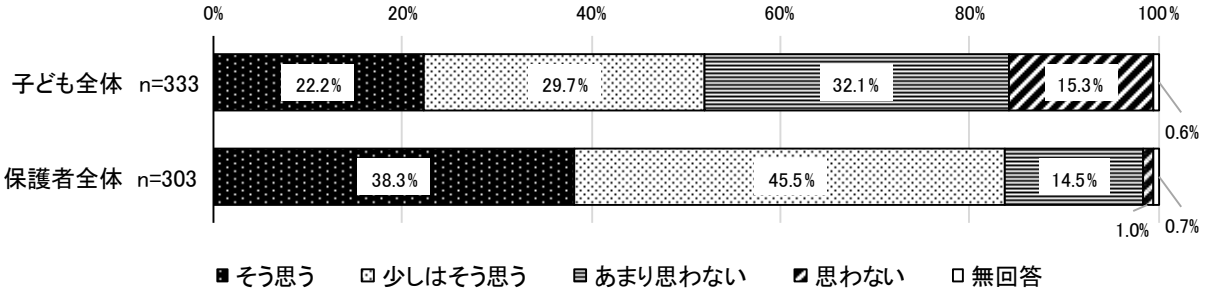
◇ほっとでき、安心していられるところ

・子ども、保護者ともに「自分の部屋」が最も高く、次いで「家族と一緒にくつろぐ部屋」となっています。



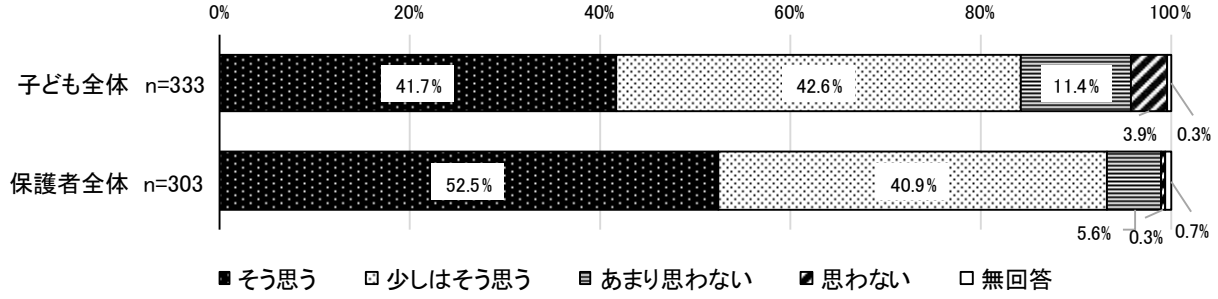
◇自分のことが好きと思うか

・子どもは「あまり思わない」が最も高く、次いで「少しはそう思う」となっています。
・保護者は「少しはそう思う」が最も高く、次いで「そう思う」となっています。



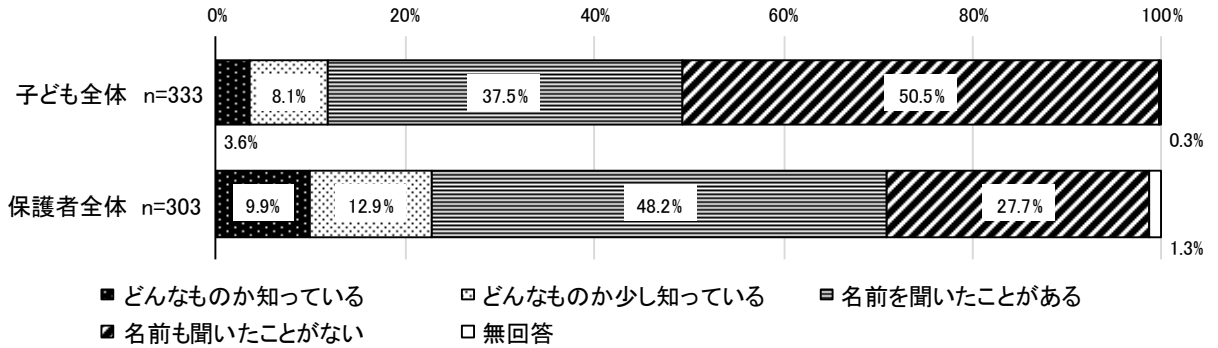
◇自分は人から大切にされていると思うか

・子どもは「少しはそう思う」が最も高く、次いで「そう思う」となっています。
・保護者は「そう思う」が最も高く、次いで「少しはそう思う」となっています。



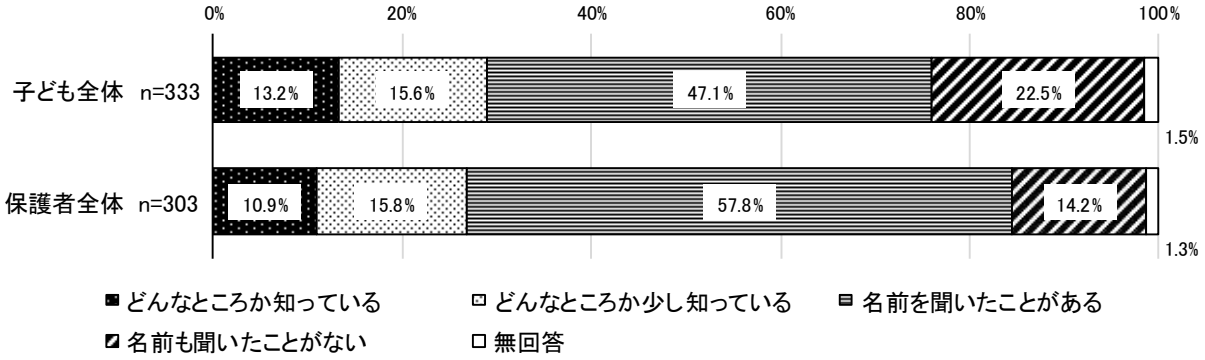
◇「子どもの権利に関する条例」を知っているか

・子どもは「名前も聞いたことがない」が最も高く、次いで「名前を聞いたことがある」となっています。
・保護者は「名前を聞いたことがある」が最も高く、次いで「名前も聞いたことがない」となっています。



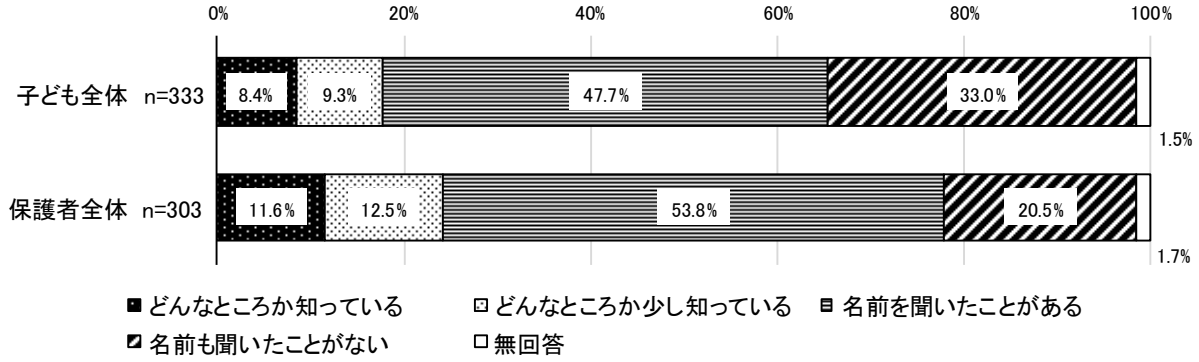
◇「青少年相談室（のぞみの電話）」を知っているか

・子ども、保護者ともに「名前を聞いたことがある」が最も高くなっています。



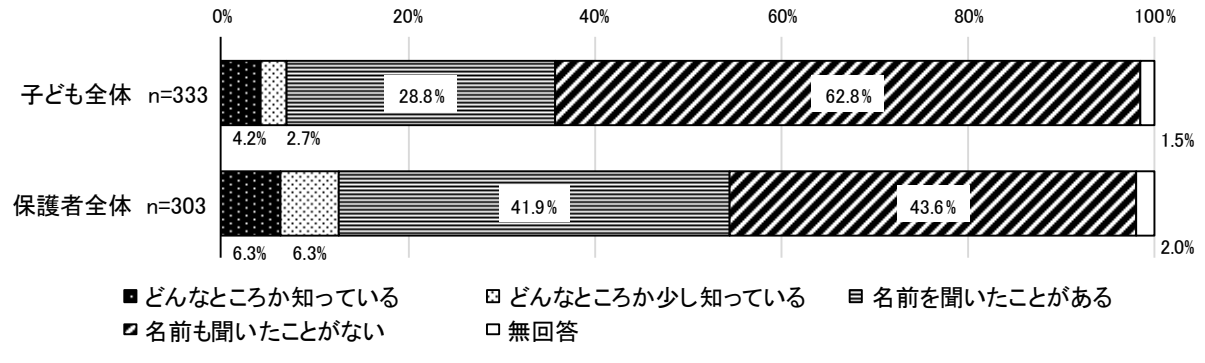
◇「家庭児童相談室」を知っているか

・子ども、保護者ともに「名前を聞いたことがある」が最も高くなっています。



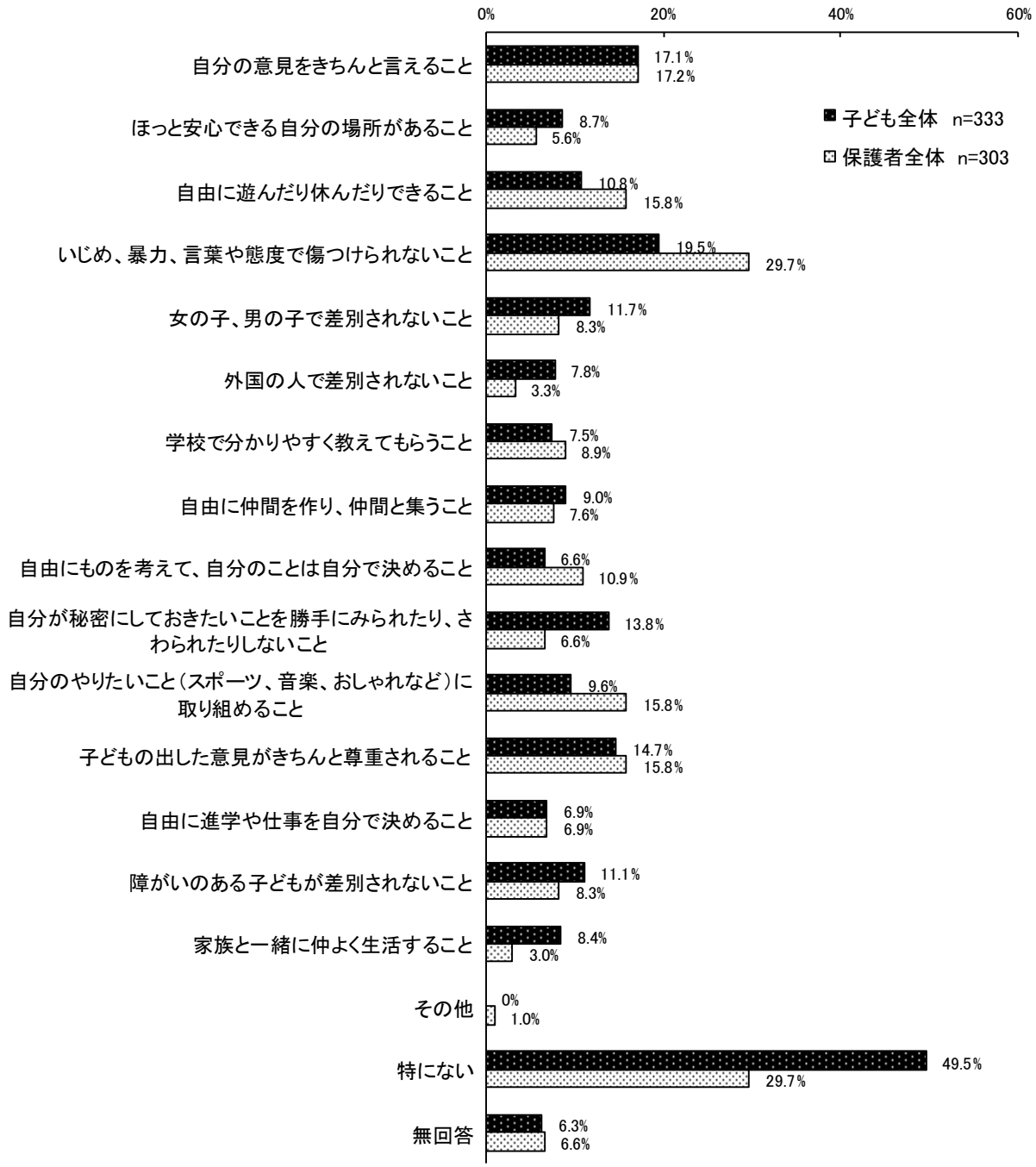
◇「子どもの権利救済委員会」を知っているか

・子ども、保護者ともに「名前も聞いたことがない」が最も高くなっています。



◇普段の生活の中で「守られていない」と思うこと

・子どもは「特にない」が最も高く、保護者は「特にない」と「いじめ、暴力、言葉や態度で傷つけられないこと」がともに最も高くなっています。



２　士別市子どもの権利委員会

任期　令和３（2021）年４月１日～令和５（2023）年３月 31 日

委員名		所属等
委員長	喜　多　武　彦	士別市子ども会育成連絡協議会
副委員長	藍　口　廣　子	士別市民生委員児童委員協議会
委員	生　方　輝　喜	士別市社会福祉協議会
委員	音　丸　由　美	子育てサポートむっくり
委員	岡　田　亮　二	士別市校長会
委員	布　施　晃　子	士別市立上士別保育園
委員	谷　　温　恵	学校法人谷学園　士別幼稚園
委員	野　中　英　樹	弁護士法人 木村雅一法律事務所
委員	松　田　留　美	名寄人権擁護委員協議会士別部会

３　士別市子どもの権利救済委員会

任期　令和２（2020）年４月１日～令和５（2023）年３月 31 日

委員名		所属等
委員長	野　中　英　樹	弁護士法人 木村雅一法律事務所
委員	藍　口　廣　子	士別市民生委員主任児童委員
委員	山　居　幸　子	保護司

第３次士別市子どもの権利に関する行動計画

発　行　日	令和４（２０２２）年３月
発　　行	北海道士別市
	〒095-8686
	北海道士別市東６条４丁目１番地
	ＴＥＬ：0165-23-3121（代表）
	ＵＲＬ：http://www.city.shibetsu.lg.jp
	E-mail：kodomo-kosodate@city.shibetsu.lg.jp
企画・編集	士別市健康福祉部こども・子育て応援課

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-1 子どもの権利の周知と学習支援 子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実														
1-1	子どもの権利推進月間展示			○						【目的】 「子どもの権利推進月間」に合わせて、市民の関心を高め、理解を深めることを目的に実施する。 【展示協力】 旭川短期大学部幼児教育学科(松倉教授・ゼミ学生) 【実施期間】11/1～11/30 【会場】図書館1階閲覧室・2階児童図書室	子ども(幼児・児童・生徒)	⑤・松倉教授のおすすめ関連図書の展示とゼミ学生が作成した、子どもの権利の条文内容をテーマにした「絵合わせ」と「すごろく」を展示。 ・展示図書は、一般用から児童用の絵本まで幅広く用意し、子どもにもわかりやすいように配慮した。	・大学との連携した取り組みとして次年度も継続して実施する。	図書館
1-2 子育て家庭への支援 子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実														
1-2	食育イベント									【目的】 心身の健康を育むための食生活についてや、食育について理解を深める場とする。	市民	しべつ得の市の1ブースとして実施してるが、R5についても新型コロナウイルス感染症の影響により中止	参加者も少なく効果も限定的であることや、食生活改善推進委員の減少などにより対応可能な人員にも限りがあることから、今後の実施方法について検討中	保健福祉センター
1-2	上士別子ども会親睦交流会			○						【目的】 交流会を通じて親子の絆を深める。 【実施日】3/10 【主催】 上士別子ども会育成連絡協議会 【共催】 上士別公民館　上士別スポーツクラブ 【場所】 遊ランドボウル	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 小中学生　7名 保護者　8名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤保護者が参加しやすいよう休日に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-2	卒業記念ボウリング大会			○						【目的】 ボウリングを通じて親子の絆を深める。 【実施日】3/16 【主催】 上士別子ども会育成連絡協議会 【場所】 遊ランドボウル	【対象】 中学生及び保護者 【参加】 中学生 11名 保護者　8名	④上子連及び中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう春休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-2	多寄子ども会ラジオ体操会	○	○	○						①夏休み期間の規則正しい生活リズムの維持も目的に実施。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時:7月22日～8月16日　場所:各家庭　内容:ラジオ体操実施	多寄子ども会会員　21人	④会員グループLINEでの周知 ⑤夏休み期間中に実施。 ⑥なし ⑦参加カード配布(郵便局提供) ⑧各家庭で実施	夏休み期間中の子供の生活リズムを整えるため、今後も必要な事業であることから継続していきたい。	多寄公民館
1-2	多寄子ども会後期事業	○	○	○						①親子など会員相互に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時:令和6年2月4日10時　場所:多寄小学校体育館　内容:ドッヂボール実施	多寄子ども会会員とその保護者家族　26人	④会員グループLINEでの周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦飲料提供 ⑧保護者間の協力	今後も会員相互の交流を行い、社会性を身につけながら親睦を深める事業を実施する。	多寄公民館
1-2	多寄スポーツクラブ、多寄子ども会視察研修事業	○	○	○						①地域の方々と一緒に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄地区への新聞折込チラシ ③日時:令和5年7月2日　場所:北海道ボールパーク　内容:施設見学、野球試合観戦	多寄子ども会会員、多寄スポーツクラブ会員、多寄町民　38人	④多寄地区への新聞折込チラシによる周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦移動バス経費補助、施設入場料一部補助 ⑧地域住民による協力	今後も地域の方々と一緒に交流を行い、社会性を身につけながら親睦を深める事業を実施する。	多寄公民館
1-2	多寄子ども会親子視察研修事業	○	○	○						①視察研修の一環として親子など会員相互に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時:令和5年7月25日　場所:旭川市科学館サイパル　内容:施設見学	多寄子ども会会員　32人	④会員グループLINEでの周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦移動バス経費補助、施設入場料一部補助 ⑧保護者間の協力	今後も会員相互の交流を行い、社会性を身につけながら親睦を深める事業を実施する。	多寄公民館
1-2	ブックスタート事業			○						絵本を通して、赤ちゃんとの心の通う楽しいひと時を持つ事が大切であることを、目的に関係機関と連携を取りながら、絵本のよみきかせや、手遊びなどを実施し、5ヶ月児の赤ちゃんと保護者に、絵本の入った、ブックスタートパックを手渡す。さらに、フォローアップ事業として、関係機関と連携を取りながら、図書館で絵本のよみきかせを実施し、3歳児に絵本を手渡す。 ・5ヶ月児　(4月～3月まで、年間12回開催) ・3歳児　(4月～3月まで、年間24回開催)	5ヶ月児61名(保護者等70名) 3歳児59名　(保護者等 122名)	⑤5ヶ月:感染対策を緩和し近い月齢の保護者が交流できる時間をとった。	・対象が1名しかいない月などの場合、実施についての申し合わせを行う。	図書館

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫（テーマ、開催時期、説明資料,その他） ⑥実施後のフォロー（実施結果の送付、実施後アンケートほか） ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか） ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3 育ちを支える居場所づくり 子どもの居場所づくり														
1-3	あけぼの子どもセンター中高校生事業	○	○			○				①中高生が児童館を利用しやすいよう、中高生向けの事業を企画する。 ・6月下旬～7月下旬　夏の作品づくり（がまロ作り）　中学生9名、高校生6名 ・7月下旬～8月下旬　クリーン大作戦、夏パフェづくり　中学生17名、高校生7名 ・10月23日～11月25日　収穫祭、クリーン大作戦　中学生8名、高校生5名 ・11月27日～12月23日　冬の作品作り（簡単手作りスマホショルダー）　中学生3名、高校生7名 ・2月1日～2月29日　冬のクッキング（カップケーキ）　中学生8名、高校生3名	市内中・高校生	④行事ポスターの学校内の掲示依頼 ⑤これまで好評だった企画を継続して実施	・子どもの意見を取り入れた企画やイベントの開催をめざす。 ・子どもたちが参加しやすい体制づくりを工夫する。	こども・子育て応援課
1-3 育ちを支える居場所づくり 異なった世代との交流														
1-3	いきいきサロン事業			○						【目的】 高齢者や市民の介護予防,人との交流の場 【参加の内容】 広報、ホームページ、生活情報アプリ、館内でのカレンダー配布による周知。 毎週火曜日から土曜までの午前と午後に、脳トレや軽スポーツ、創作活動などのプログラムを実施。年齢の区切りはないため、保護者同伴の小学生なども参加することがある。 【会場】 いきいき健康センター（毎週火～土曜日） あさひサンライズホール（毎週水曜日）	センター、サンライズで574教室、延4,401人参加。うち1教室に延2人の小学生が参加。	主な対象が高齢者であり、プログラムも高齢者向けのものが多いため、子どもの参加者は少数。子どもに多く参加してもらうためには、小学校の長期休み期間や土曜日に子どもが参加してもらえるようなプログラムの検討と周知が必要。	新たな参加者獲得に向けた周知を行い、プログラムについても内容を検討する。	いきいき健康センター
1-3	日曜キッズルーム			○						【目的】 R元年度のまちづくりふれあいトークの中で、未就学児が走り回って遊べる場所がほしいとの声があり部内で検討した経過あり。 未就学児が保護者の見守りのもと、安全に走ったり遊んだりできるよう部屋の一部を開放し、安全な遊具を設置している。 【参加の内容】 広報、ホームページ、生活情報アプリ、未就学児と来館された保護者への情報提供などを実施 【会場】 いきいき健康センター2階活動室　毎週日曜日の10時～16時に使用可能。	未就学児とその保護者（未就学児の兄姉も利用可） 延78組251名の利用。未就学児123名、兄姉12名、保護者116名。	R3年5月から開始。 遊具は子供たちと保護者が工夫して遊べる物しか設置していない（三角コーンや新聞紙、風船、お手玉とかごなど）。また、乳児に危険がないよう床マット、ビニールプールを設置している。 室内を走り回ることが楽しい子も多く、追いかけっこや競争をする様子が見られている。 保護者からは広いスペースで遊ばせられるのが嬉しいなどの感想をいただいている	安全面を考慮し、保護者の見守りのもと利用していただくよう周知を図りたい。	いきいき健康センター
1-3 育ちを支える居場所づくり 文化・スポーツ活動への参加														
1-3	みよし市小学生訪問団受入れ事業			○						本市の友好都市である「愛知県みよし市」の小学生訪問団が来土し、本市小学生と交流を図る。	市内小学4～6年生15名	多くの児童が参加できるよう、対象学年を1学年拡大した。 R5年度からオンライン申請を開始した。	今後はオンライン交流に移行し、より多くの児童が交流できるような内容を検討（アセス対象事業）	学校教育課
1-3	みよし市への子ども派遣交流事業	○		○	○					本市の友好都市である「愛知県みよし市」へ本市小学生が訪問し、みよし市小学生と交流を図る。 実施日：R6年1月9日～12日 場所等：愛知県みよし市	市内小学6年生16名、引率5名	募集時に参加希望理由を記入させることにより、児童に「なぜ参加したいと思ったのか」、「知りたいことや見たいこと」などを具体的に考えさせたほか、事前学習会や事後学習会を開催し、児童が主体的に取り組めるよう支援した。	参加希望者が定員を超えた場合の絞り込み方法を検討	学校教育課
1-3	しべつチャレンジ寺子屋	○	○	○	○					①長期休業中において、学習や体験活動を行う機会を提供することにより、子どもの望ましい学習・運動習慣の定着を図ることを目的とする。また、高校生には、学習支援や体験活動の企画を依頼し、活動の場を提供した。 ③夏　7月25日～28日　文化センター・総合体育館・つくも水郷公園・士別翔雲高等学校 冬　12月25日～27日　文化センター・士別翔雲高等学校	小学3～6年生 夏：延べ85名 冬：延べ90名 高校生 夏：延べ31名 冬：延べ16名	④参加する小学生の募集は各学校を通してチラシを配布した。また、高校生は学校へ参加者の取りまとめを依頼した。 ⑤子どもの参加事業カレンダーを参考に、他の事業と重複しないように実施した。、また、高校生には、事業実施前に打合せを行い、事業目的の理解と計画した内容への助言などを行った。 ⑥事後アンケートを実施し、参加児童のニーズを把握した。 ⑦冬の事業で翔雲高校が会場のときに、文化センターから送迎用のマイクロバスを配車し、会場までの交通手段を確保した。	目的に合わせた学習プログラム内容の充実	社会教育課

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫（テーマ、開催時期、説明資料,その他） ⑥実施後のフォロー（実施結果の送付、実施後アンケートほか） ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか） ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	士別ふるさと体験広場 職業体験コース			○	○					①市内企業の協力による職業体験の機会を提供することにより、子どものふるさとへの郷土愛を育むことを目的とする。 ③実施内容 （1）塗装業体験　7月 8日　12名 （2）販売業体験　7月30日　10名 （3）郵便局体験　8月 8日　13名 （4）農業体験　9月16日　9名 （5）図書館司書体験　10月22日　13名 （6）製菓店体験　11月12日　18名	小学4～6年生 延べ75名	④参加の募集は各学校を通してチラシを配布した。 ⑤参加した児童の職業選択における選択肢を増やすために、様々な職業体験の機会を提供した。 ⑥各回の活動後にアンケートを実施した。	子どもが職業を体験するだけで終わってしまい、仕事に対する理解や士別で働くことのやりがいをより感じてもらえるような工夫が必要。	社会教育課
1-3	子ども文化活動推進事業 「ふるさと体験広場」文化体験コース			○						地域の特色を活かして、様々な体験の機会を提供することで、児童の郷土愛を育むことを目的として実施。（文化体験） 【実施日】 7/24、8/1、9/23、10/21、11/4、11/18　計6回 【場所】　市民文化センター、めん羊工芸館くるるん、士別翔雲高校	市内小学生延べ60名	参加の募集は学校を通じチラシを配布した。(小学4年生～6年生対象) 油絵作品については、11月の児童生徒作品展において展示を行った。 各活動後にアンケートを実施した。	・体験内容の拡充 ・はしゃぎすぎてしまう児童への指導の仕方	中央公民館
1-3	「楽しい子どもカルタ教室」			○						日本古来からの遊び「百人一首」の楽しさを学ぶとともに、遊びをとおして子どもたちの交流を広げることを目的とし、実施する。	市内小学3年生～中学3年生16名	④参加募集は各学校にチラシを配布（小学3年生～中学3年生）、フェイスブックで周知。		中央公民館
1-3	市民総合文化祭事業 「第55回小中学校音楽発表会」 「児童生徒作品展」			○						市民の文化芸術の祭典として開催。 【実施機関】総合文化祭実行委員会・士別市教育研究会 【実施日】小中学校音楽発表会10/24 児童生徒作品展示10/28～11/5 【会場】市民文化センター・生涯学習情報センター地階ギャラリー	市内小中学生 高校生	④市内各学校に作品募集依頼	出展作品の拡充	中央公民館
1-3	文集しべつ発刊			○						【目的】 市内小・中学校の児童生徒から作品を応募し、文集を発行する。 【参加】 市内小・中学校の児童生徒から普段の学習における作文や意見文など 【実施日】 3/10　発刊（第65号）	児童・生徒 156名	⑤・文集発行において学校との協働での実施を再確認し、制作の目的・行動体制の意思疎通を図った。 ・原稿入力から製本までを委託発注とし、編集委員(教諭)の負担軽減を継続した。	・学校内での活用を推進し、引き続き発行する。	図書館
1-3	第64回士別読書感想文コンクール			○						【目的】 子どもたちが読書に親しみ、読書から得られた感動や知識を文章として表現することにより、豊かな人間性や感受性を育み、自分の考えや意見などを表現する力を養うことを目的に実施する。 【参加】 市内小・中・高等学校の児童生徒を対象に学校図書館協会と共催で実施 市内11校　400名応募　入賞者50名　全道コンクール　入賞者43名 【実施期間】 7/4～11/10 【会場】 図書館・生涯学習情報センター	児童・生徒 400名	④学校図書館協会との共催・市内高等学校の協力により作品募集を幅広く行っている。 ⑥入賞作品集を刊行し、入賞者への配付。 ⑦入賞者へ賞状・副賞の授与。	・児童生徒の読書活動と、読む力・書く力の促進となるよう、引き続き実施する。	図書館
1-3	子ども読書週間事業			○						【目的】 全国的に行われる「こども読書週間」に合わせて、子どもの読書への興味関心を高めるとともに、本に親しみ、読書の喜びを体験できるよう各種行事を実施する。 【実施期間】 4/23～5/12 【会場】 図書館・生涯学習情報センター、朝日図書室	子ども（幼児・児童・生徒）53名	④親子で参加できるイベントを中心に、読み聞かせ会や映画会、図書館クイズ等を実施する。 ・博物館事業と合わせて移動図書館車を会場へ臨時運行するなど関係期間との協力を行った。	・子どもたちが気軽に図書館と本に親しむことのできるよう事業内容を検討していく。	図書館
1-3	GWイベント「お手軽!？発掘体験」			○	○					【目的】 士別地域の自然や歴史への興味関心を高めることを目的に開催する。 【参加の内容】 小さな石の塊から本物の化石や宝石の欠片を掘り出す体験を実施。 【実施日等】 令和5年4月29日(土)～5月7日(日)	全年齢対象 体験人数 延べ295人 ※ほとんどは親子での参加	④市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、GW期間中に行う他の取組と合わせてポスターを作成し市内各所に配布した。 ⑤(1)「世界のめん羊館」利用からの来館者を体験無料とした。 (2)移動図書館「ヨムヨム号」来館により利用促進を図った。など、来館促進に繋がるものとなった。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	今イベントのように、親子で参加して楽しいGW企画を今後も実施したい。	博物館

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	士別ふるさと体験広場 自然歴史体験コース ※R4まで「土曜子ども文化村ふるさと自然歴史体験館」			○	○					【目的】 地域の特色を活かした職業、文化、自然歴史の体験をとおして、郷土愛を醸成することを目的に実施する。 【参加の内容】 自然観察や昆虫採集、昔の生活体験、雪と氷の実験などを実施する。 【実施日等】 6/10～1/27 全5回開催。博物館およびその周辺等の各所。(全6回予定のところ、天候不順により1回中止)	市内の小学生 23名登録 延べ123名 (小人91名、大人32名)	④募集チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤休日の子どもの体験活動として、社会教育課の事業である「士別ふるさと体験広場」に組み込むことで、参加募集の広報の一元化および、日程が重複しないような調整を行った。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	引き続き市内の歴史や文化、自然について、子どもに興味関心を持ってもらえるような工夫を行う。	博物館
1-3	ウチダザリガニを探してみよう！			○	○					【目的】 地域の自然への興味関心を高め、外来種問題や環境保全への理解を深めるために開催する。 【参加の内容】 士別市内でも生息拡大が危惧されている特定外来生物 ウチダザリガニについて、生態についての説明を受けた後、捕獲防除体験を実施する。(ワナやたも網による捕獲、計測体験) 【実施日等】 令和5年7月17日(土) つくも水郷公園	全年齢対象 大人10名 小人20名 ※大人は子どもの保護者として参加	④市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、関連する企画展と合わせてポスターを作成し市内各所に配布した。 ⑤同時期に開催した企画展「士別の外来生物の現在(いま)」の関連講座として、郷土で起きている外来種問題をより知ることができる機会を創出できた。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	ウチダザリガニをはじめとする外来種の問題については、引き続き調査研究を行い、周知活動を実施したい。	博物館
1-3	考古学体験講座			○	○					【目的】 古い時代(縄文時代等)の人々の生活について知り、郷土の歴史への興味関心を深めるために実施。 【参加の内容】 縄文時代から古墳時代にかけてアクセサリーなどに使用した勾玉づくりを体験する。 【実施日等】 令和5年8月6日(日) 市民文化センター	全年齢対象 大人5名 小人8名 ※大人は子どもの保護者として参加	④募集チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤士別の遺跡について知る機会や夏休み期間の学習の機会を創出。 ⑥実施した様子をフェイスブックで広く周知。	今後も幅広く、古い時代の生活や文化(考古学に関わらず)を体験できるような工夫を行う。	博物館
1-3	サイエンスフェスティバル		○	○	○					【目的】 科学への興味関心を高める。 【参加の内容】 科学や自然、ものづくりに関するブースを設け、来場者は会場内のブースをまわりながら、科学の不思議を体験した。 【実施日等】 令和6年1月8日(月・祝) 市民文化センター	全年齢対象 大人57名 小人74名	④案内チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤主に参加の多い子どもや親子が取り組みやすい内容を検討した。 ⑥実施した様子をフェイスブックで広く周知。	子どもがより楽しめるようなものになるよう、今後もこのような対面型・体験型のイベントを開催していきたい。	博物館
1-3	出前講座の開催			○	○					【目的】 博物館学芸員が地域に出向いて、地域の歴史や自然について普及する。 【参加の内容】 地域の自然や歴史について学ぶための、体験活動や講演を行う。 【実施日等】 依頼に応じて開催、令和5年度は29回開催	全年齢対象(市内小学校からの依頼が多い) 延べ813名参加	④HPに掲載 ⑤体験内容については提供プログラム以外にも、依頼に応じて柔軟に対応 ⑥実施した様子をフェイスブックで広く周知。	ここ数年は依頼件数も増え需要はあるので、可能な範囲で継続して実施する。	博物館
1-3	夏休み子ども体験 (博物館連携講座) 「川の生きものさがし」			○						【目的】 川に生息する生きもの探しや観察などを通して、地元の川の生きものに関する興味・関心を深める。 【実施日】8/9 【主催】 上士別公民館 【共催】 上士別地区子ども会育成連絡協議会 【場所】 上士別構造改善センター	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 小中学生 7名 保護者 5名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう夏休み期間中に開催 ＊川の水位が高く急遽「恐竜のレプリカ作り」に変更	・博物館と連携し、子どもの学習意欲を高める取り組みを実施する。	上士別公民館
1-3	子ども水泳教室			○						【目的】 子どもたちの体力づくりと水泳技術の向上を目指す。 【実施日】8/2、8/3、8/4(3日間) 【主催】 上士別地区子ども会育成連絡協議会 【共催】 上士別スポーツクラブ 上士別公民館 【場所】 士別市南郷プール	【対象】 小中学生 【参加】 小学生 延26名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう夏休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-3	子どもスキー教室			○						【目的】 冬期間の体力づくりとスキー技術の向上を目指す。 【実施日】1/10、1/16、1/18(3日間) 【主催】 上士別公民館 【共催】 上士別子ども会育成連絡協議会 上士別スポーツクラブ 【場所】 あさひスキー場	【対象】 小中学生 【参加】 小学生 延25名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	もちつき体験			○						【目的】 日本の伝統文化の体験と地元農産物への愛着心を育む。 【実施日】1/13 【主催】 温根別公民館 【共催】 温根別子ども会育成連絡協議会 【場所】 温根別出張所	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 26名	④温子連及び小学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	温根別公民館
1-3	子どもスキー教室			○						【目的】 冬期間の体力づくりとスキー技術の向上を目指す。 【実施日】1/5 【主催】 温根別公民館 【共催】 温根別子ども会育成連絡協議会・温根別スポーツクラブ 【場所】 日向スキー場	【対象】 小中学生 【参加】 小中学生10名	④温子連及び小学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	温根別公民館
1-3	子ども芸術劇場事業	○		○				○		舞台芸術家を直接学校等へ派遣し、鑑賞型事業、体験型ワークショップなどの事業展開を図り、市内の子ども達へ優れた文化芸術に触れる機会を提供する。 ◆鑑賞型事業 ・人形劇鑑賞 1事業 1公演 79名 10/13 士小 会場:士別小学校 ・パントマイムショー 4事業 4公演 140名 11/13、14 南小、糸小、温小 会場:士別南小学校、糸魚小学校、温根別小学校 ◆参加型事業 ・HipHopダンスWS 6事業 15コマ 延べ354名 6/16～11/29 士小、朝中、南中、上士中 ・JazzダンスWS 8事業 20コマ 延べ588名 6/6～11/30 士小、南小、士中、朝中 ・演劇WS 4事業 13コマ 延べ273名 6/9～9/20 上士小、多小、朝中 ・鬼太鼓座WS 3事業 3コマ 延べ39名 6/21、22 糸小、上士小 ・パントマイムWS 3事業 3コマ 延べ49名 6/22 上士小、温小 ・シアタープログラム 3事業 3コマ 延べ174名 5/29～30 士中	市内10小中学校 延べ参加人数1,696名	④市内の全児童生徒が関われるようなプログラムの提供をしている。 ⑤各学校の学習プログラム及び行事日程等を考慮し、学校・芸術家と密に連絡を取り、日程調整を行った。	令和2年度から指定管理者に事業を移管	地域文化課
1-3	第46回あさひ宣言タイムマラソン大会	○		○						マラソンを通じた体力の向上及び運動の習慣化を図る。 【実施日】10/7 【会場】朝日ローラースキー・ジョギングコース	幼児1名、小学生8名、中学生11名、大人4名	④認定あさひ子ども園、小学校、中学校を通じて募集	継続して実施する。	朝日公民館
1-3	公民館講座「基礎スキー教室」	○		○						子どもたちの体力づくりとスキー技術の向上を図る。 【実施日】1/10、16、18、23、25、30 【会場】あさひスキー場	小学生、中学生 延べ40名 大人延べ5名	④小学校、中学校を通じて募集 ⑤学校で行うスキー授業に向けた技術習得のため、冬休み期間を利用して開催	継続して実施する。	朝日公民館
1-3	公民館講座「新年書き初め会」	○		○						子どもたちの創作活動の一環として実施する。 【実施日】1/10 【会場】あさひサンライズホール	小学生11名	④小学校、中学校を通じて募集	継続して実施する。	朝日公民館
1-4 意見表明や参加の促進 子どもの意見発表や参加の促進														
1-4	租税教室								○	①租税に関する意義や役割について、小中学生を対象に出前講座を行い、学習指導要領における租税に関する学習を推進する。 ②市内小中学校での出前講座 ③6/8士別小、6/9多寄小、6/28温根別小(各授業1コマ)	市内3小学校58名(5・6年生)	④税務署と連携 ⑤クイズ形式でのパワーポイント説明、ビデオ上映、2億円レプリカなど ⑥実施後アンケート ⑦なし	体験参加型授業として継続	税務課
1-4	消費者教育授業の開催			○		○				【目的】 商品やサービスの選択、購入の際に必要な基本原則である「安全性の確認」についてや、買い物を通じて食品を選択する目安である「表示」や「環境」について学ぶ。また、情報通信の利便性と危険性、個人情報を守る知識や情報モラルを身につけ、安全にインターネットを利用する方法を学ぶ。	こども853人(延べ)	④各学校に「消費者教育支援プログラム」内容を通知 ⑤テーマや開催時期を事前に希望聴取 ⑥開催後のアンケート実施 ⑥結果はフェイスブックにより情報発信 ⑦学校へ出向いて実施	・アンケート結果を参考とし、より良い授業となるよう改善する。	くらし安全課
1-4	交通安全教室			○						【目的】 交通ルールや交通事故に遭わないために気を付けることを学び、交通事故防止につなげる。	こども952人(延べ)	⑤テーマや開催時期を事前に希望聴取 ⑥結果はフェイスブックにより情報発信 ⑦保育園・認定こども園・幼稚園・各学校に出向いて実施	・協力団体との連携のもと、引き続き開催して交通事故防止に努める。	くらし安全課

令和5年度「子どもに関わる事業」

資料1

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R5年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-4	「子ども議会開催事業」						○		○	子ども達の行政や議会への学びを深めるとともに、子ども達の郷土に対する意見を議会で発表し、子ども達の意見を可能な限り市政に反映する。 【実施日等】子ども議会R5/10/10　市議会本会議場 【学習会等】 7/28～12/5　市民文化センター、質問通告対象課等、議場	市内全中学校 子ども議員6名	⑤子ども議会は、H24年度に小学生を対象に、H25年度以降は中学生を対象に実施し、今年度で12回目の開催。 事業を進めるにあたり、教育委員会他庁内関係部署の協力により実施した。	担当課の業務や質問内容に偏りがあるため、事業内容を精査する必要がある。	中央公民館
1-4	「子ども夢トーク推進事業」			○			○		○	【目的】 子どもたちが市長と夢や未来への希望を語り、好奇心・探究心を高め、子どもたちの持つ豊かな可能性を広げる。 【内容】 市内小・中学校において、市長、教育長が子どもたちの夢などを聞き、回答や感想を述べる。 【実施時期・場所】 1/25温小、1/29上中、2/19士小	温小3名 士小49名 上中12名	⑦子どもたちが話しやすい環境づくり	・各小学校を回り、子ども達のアイディア聞き、子どもたちの思いを生かしたまちづくりを進める。	中央公民館
1-4	士別市中学生意見発表大会			○						①青少年が社会に向けての意見、未来への希望などを考える機会を設け、青少年の健全育成を深める契機となることを目的とする。 ③DVDによる動画及び書類審査	中学1～2年生 6名	⑤中学生の主張を動画及び作文で募集した。 ⑥審査結果を学校に通知するとともに、市FBで公表した。	応募作品の基準の均一化	社会教育課
1-4　意見表明や参加の促進 地域での子どもの自主的な活動の支援														
1-4	子ども会活動推進事業 「1市2町合同ジュニアリーダー研修会」	○	○	○						【目標】 子ども会や少年団活動等の活性化を図るため、集団での宿泊体験や様々な体験活動を通して、学校や各地域で活動する際のリーダーとして必要な知識・技能を習得するとともに、1市2町の児童の活発な交流を図る。 ・1市2町合同ジュニアリーダー研修会(Ⅰ期)(Ⅱ期) ※インフルエンザの影響によりⅢ期は中止 【実施日】 (Ⅰ期)6/17　(Ⅱ期)7/31～8/1 【場　所】 (Ⅰ期)剣淵町　(Ⅱ期)和寒町	【対象】 研修生:小学5～6年生 サブリーダー:中学生以上 【参加人数】 ・Ⅰ期子ども20名(士別市子ども3名) ・Ⅱ期子ども25名 (士別市子ども3名)	④学校を通じ参加対象者に案内を送付した ⑤事業目的達成のためのプログラムづくり	・参加者の拡大を目指しながら、さらなる1市2町の児童の活発な交流を図る。	中央公民館
1-4	「第24回しべつわんぱくフェスティバル」	○	○	○						【目的等】 子ども達が自主的に企画・運営し、実施するイベント。子ども達の全市的な交流と親睦を図り、子ども会活動の活性化を進めることを目的とする。 【参加の内容】 子どもたちが企画運営を行う。	子ども会リーダー5名 ボランティア17名	④SINC、子ども会リーダーの他、小中高生にたいしボランティアを募集した	市内育成者の理解と協力の輪を更に広げ、士別市の「子どもの一大イベント」を目指す。	中央公民館
1-4	子ども会(初級・上級) リーダー養成講習会	○	○	○						【目的】 子ども会のリーダーとして、社会生活に活かせる知識や技術の習得と、地域に根ざした子ども会活動の促進を目的とし、開催する。 ・野外講習会(1市2町ジュニアリーダー研修会Ⅰ期、Ⅱ期と合同開催) 【参加の内容】 講習会への参加。サブリーダーによるレクリエーションの実施及び指導補助。	子ども会リーダー登録者2名	④市内小学校を通じて対象者及び対象児童保護者に周知する。	・参加者の拡大を目指しながら、さらなる1市2町の児童の活発な交流を図る。	中央公民館
1-5　子どもの権利侵害に関する相談・救済 不登校等の子どもの居場所に関する支援														
1-5	適応指導教室の開設									・不登校及びその傾向にある児童生徒に対して、保護者や学校、関係機関等と連携し、学校への復帰や基本的な生活習慣の改善、豊かな情操や社会性を育成する。 【所在地】 士別市西1条8丁目　生涯学習情報センターいぶき　地階 【開設日】 月曜から金曜の午前9時から午後3時 ※土日祝日、夏休み、冬休み、春休みは休日	市内小中学生 【登録人数】 小学生　3名、 中学生　5名、 計8名	・自分でやりたいことを自分のペースで活動することを基本に、悩み相談や体験、学習活動を行った。具体的には、指導員の指導により、読書や運動、教科学習、見学やものづくりなどを行った。	・通室児童生徒の学校復帰に向けた取組や、通室していない不登校・不登校傾向の児童生徒に対する取組のあり方を検討	学校教育課

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫（テーマ、開催時期、説明資料,その他） ⑥実施後のフォロー（実施結果の送付、実施後アンケートほか） ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか） ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-1　子どもの権利の周知と学習支援 子どもの権利に関する市民への啓発・広報の充実														
1-1	子どもの権利推進月間展示			○						【目的】 「子どもの権利推進月間」に合わせて、市民の関心を高め、理解を深めることを目的に実施する。 【展示協力】 旭川短期大学部幼児教育学科（松倉教授・ゼミ学生） 【実施期間】 11/1～11/30 【会場】 図書館1階閲覧室・2階児童図書室	子ども（幼児・児童・生徒）	⑤松倉教授のおすすめ関連図書の展示とゼミ学生が作成した、子どもの権利の条文内容をテーマにした「絵合わせ」と「カルタ」を展示。 ・展示図書は、一般用から児童用の絵本まで幅広く用意し、子どもにもわかりやすいように配慮した。	・松倉教授の退職により、ゼミも引き継がれない見込みのため、次年度は図書館単独での実施となる見込み。	図書館
1-2　子育て家庭への支援 子どもを持つ親の子育てに関する支援の充実														
1-2	食育イベント									【目的】 心身の健康を育むための食生活についてや、食育について理解を深める場とする。	市民	しべつ得の市の1ブースとして実施してきたが、実施方法を検討中。 今年度は未実施となった。	参加者も少なく効果も限定的であることや、食生活改善推進委員の減少などにより対応可能な人員にも限りがあることから、今後の実施方法について検討中	保健福祉センター
1-2	上士別子ども会親睦交流会			○						【目的】 子どもたちの社会性を育むこと、さらに参加者相互の親睦を深める。 【実施日】8/12 【主催】 上士別子ども会育成連絡協議会 【共催】 上士別公民館　上士別スポーツクラブ 【場所】 北広島市　エフビレッジ	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 小中学生　29名 保護者　24名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう夏休み中に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-2	卒業記念ボウリング大会			○						【目的】 ボウリングを通じて親子の絆を深める。 【実施日】3/15 【主催】 上士別子ども会育成連絡協議会 【場所】 遊ランドボウル	【対象】 中学生及び保護者 【参加】 中学生　4名 保護者　0名	④上子連及び中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう春休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-2	多寄子ども会ラジオ体操会	○	○	○						①夏休み期間の規則正しい生活リズムの維持も目的に実施。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時：7月25日～8月19日　場所：各家庭　内容：ラジオ体操実施	多寄子ども会会員　18人	④会員グループLINEでの周知 ⑤夏休み期間中に実施。 ⑥なし ⑦参加カード配布（郵便局提供） ⑧各家庭で実施	夏休み期間中の子供の生活リズムを整えるため、今後も必要な事業であることから継続していきたい。	多寄公民館
1-2	多寄子ども会後期事業	○	○	○						①親子など会員相互に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時：令和7年1月26日10時　場所：多寄小学校体育館　内容：ドッヂボール、リレー競技実施	多寄子ども会会員とその保護者家族　24人	④会員グループLINEでの周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦飲料提供 ⑧保護者間の協力	今後も会員相互の交流を行い、社会性を身につけながら親睦を深める事業を実施する。	多寄公民館
1-2	多寄スポーツクラブ、多寄子ども会視察研修事業	○	○	○						①地域の方々と一緒に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄地区への新聞折込チラシ ③日時：令和6年6月30日　場所：北海道ボールパーク　内容：施設見学、野球試合観戦	多寄子ども会会員、多寄スポーツクラブ会員、多寄町民　45人	④多寄地区への新聞折込チラシによる周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦移動バス経費補助、施設入場料一部補助 ⑧地域住民による協力	他地区の状況や子ども数減を考慮しながら、今後も地域の方々との交流による社会性を習得親睦を深める事業を検討する。	多寄公民館
1-2	多寄子ども会親子視察研修事業	○	○	○						①視察研修の一環として親子など会員相互に交流し、社会性を身につけながら親睦を深める。 ②多寄子ども会会員への案内文 ③日時：令和6年7月31日　場所：紋別市北海道立オホーツク流氷科学センター、健康プールステア　内容：施設見学、体験	多寄子ども会会員　22人	④会員グループLINEでの周知 ⑤イベントと重複しない日程での開催 ⑥なし ⑦移動バス経費補助、施設入場料補助 ⑧保護者間の協力	今後も会員相互の交流を行い、社会性を身につけながら親睦を深める事業を実施する。	多寄公民館

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-2	ブックスタート事業			○						絵本を通して、赤ちゃんとの心の通う楽しいひと時を持つ事が大切であることを、目的に関係機関と連携を取りながら、絵本のよみきかせや、手遊びなどを実施し、5ヶ月児の赤ちゃんと保護者に、絵本の入った、ブックスタートパックを手渡す。さらに、フォローアップ事業として、関係機関と連携を取りながら、図書館で絵本のよみきかせを実施し、3歳児に絵本を手渡す。 ・5ヶ月児 （4月～3月まで、年間11回開催）※対象者0名のため1回中止 ・3歳児 （4月～3月まで、年間24回開催） ※R6年度事業未実施分 5ヶ月：3月25日開催、3歳：3月22日開催	5ヶ月児53名（保護者等53名）見込 3歳児76名 （保護者等 152名）見込	⑧5ヶ月：加対象日変更の希望を柔軟に受け付け、里帰り出産や入院などで対象月に参加できない親子への参加を促した。	・参加対象減のため、5ヶ月対象開催回数を6回とし、参加対象者の交流を強化する	図書館
1-3 育ちを支える居場所づくり 子どもの居場所づくり														
1-3	あけぼの子どもセンター中高校生事業	○	○			○				①中高生が児童館を利用しやすいよう、中高生向けの事業を企画する。 ・6月17日～7月20日 夏の作品づくり（切って貼るだけの手作りバカッとポーチ） 中学生9名、高校生6名 ・7月22日～9月7日 クリーン大作戦、夏パフェづくり 中学生57名、高校生2名 ・10月7日～11月9日 収穫祭、クリーン大作戦 中学生5名、高校生0名 ・12月2日～12月25日 冬のクッキング（オリジナルケーキ） 中学生13名、高校生0名 ・2月10日～2月28日 冬のクッキング（ポンデリング） 中学生4名、高校生0	市内中・高校生	④行事ポスターの学校内の掲示依頼 ⑤これまで好評だった企画を継続して実施 近年の気温上昇により、戸外での事業は実施時期を検討することが必要	・子どもの意見を取り入れた企画やイベントの開催をめざす。 ・子どもたちが参加しやすい体制づくりを工夫する。	こども・子育て応援課
1-3 育ちを支える居場所づくり 異なった世代との交流														
1-3	いきいきサロン事業			○						【目的】 高齢者や市民の介護予防,人との交流の場 【参加の内容】 広報、ホームページ、生活情報アプリ、館内でのカレンダー配布による周知。 毎週火曜日から土曜までの午前と午後に、脳トレや軽スポーツ、創作活動などのプログラムを実施。年齢の区切りはないため、保護者同伴の小学生なども参加することがある。 【会場】 いきいき健康センター（毎週火～土曜日） あさひサンライズホール（毎週水曜日）	センター、サンライズで538教室、延4,630人参加。うち3教室に延5人の乳幼児と小学生が参加。	主な対象が高齢者であり、プログラムも高齢者向けのものが多いため、子どもの参加者は少数だった。子どもに多く参加してもらうためには、小学校の長期休み期間や土曜日に子どもが参加してもらえるようなプログラムの検討と周知が必要だが、参加者も高齢化が進んでおり、同じプログラムをするには困難さもあると考えている。	新たな参加者獲得に向けた周知を行い、プログラムについても検討する。	いきいき健康センター
1-3	日曜キッズルーム			○						【目的】 R元年度のまちづくりふれあいトークの中で、未就学児が走り回って遊べる場所がほしいとの声があり部内で検討した経過あり。 未就学児が保護者の見守りのもと、安全に走ったり遊んだりできるよう部屋の一部を開放し、安全な遊具を設置している。 【参加の内容】 広報、ホームページ、生活情報アプリ、未就学児と来館された保護者への情報提供などを実施 【会場】 いきいき健康センター2階活動室 毎週日曜日の10時～16時に使用可能。	未就学児とその保護者（未就学児の兄姉も利用可） 延41組124名の利用。未就学児57名、兄姉14名、保護者124名。	R3年5月から開始。 遊具は子供たちと保護者が工夫して遊べる物しか設置していない（三角コーンや新聞紙、風船、お手玉とかごなど）。また、乳児に危険がないよう床マット、ビニールプールを設置している。 室内を走り回ることが楽しい子も多く、追いかけっこや競争をする様子が見られている。 保護者からは広いスペースで遊ばせられるのが嬉しい、夜はぐっすりと眠ってくれるなどの感想をいただいている。 R6は職場体制の変動により、会場準備などの対応が困難となり、年度途中から月2回の開催に変更して実施した。	安全面を考慮し、保護者の見守りのもと利用していただくよう周知を図りたい。また、新たな遊具なども検討したい。	いきいき健康センター
1-3 育ちを支える居場所づくり 文化・スポーツ活動への参加														
1-3	みよし市小学生訪問団受入れ事業			○						本市の友好都市である「愛知県みよし市」の小学生訪問団が来士し、本市小学生と交流を図る。	市内小学4～6年生16名	多くの児童が参加できるよう、対象学年を1学年拡大した。	今後はオンライン交流に移行し、より多くの児童が交流できるような内容を検討（アセス対象事業）	学校教育課
1-3	みよし市への子ども派遣交流事業	○		○	○					本市の友好都市である「愛知県みよし市」へ本市小学生が訪問し、みよし市小学生と交流を図る。 実施日：R7年1月7日～10日 場所等：愛知県みよし市	市内小学6年生13名、引率5名	募集時に参加希望理由を記入させることにより、児童に「なぜ参加したいと思ったのか」、「知りたいことや見たいこと」などを具体的に考えさせたほか、事前学習会や事後学習会を開催し、児童が主体的に取り組めるよう支援した。	参加希望者が定員を超えた場合の絞り込み方法を検討	学校教育課

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	しべつチャレンジ寺子屋	○	○	○	○					①長期休業中において、学習や体験活動を行う機会を提供することにより、子どもの望ましい学習・運動習慣の定着を図ることを目的とする。また、高校生には、学習支援や体験活動の企画を依頼し、活動の場を提供した。 ③夏　7月29日～31日　文化センター・士別翔雲高等学校 　冬　12月24日～26日　文化センター・士別翔雲高等学校・総合体育館	小学3～6年生 夏：延べ103名 冬：延べ145名 高校生 夏：延べ32名 冬：延べ40名	④参加する小学生の募集は各学校を通してチラシを配布した。また、高校生は学校へ参加者の取りまとめを依頼した。 ⑤子どもの参加事業カレンダーを参考に、他の事業と重複しないように実施した。、また、高校生には、事業実施前に打合せを行い、事業目的の理解と計画した内容への助言などを行った。 ⑥事後アンケートを実施し、参加児童のニーズを把握した。 ⑦会場が翔雲高校のときに、文化センターから送迎用のマイクロバスを配車し、会場までの交通手段を確保した。	目的に合わせた学習プログラム内容の充実	社会教育課
1-3	士別ふるさと体験広場 職業体験コース			○	○					①市内企業の協力による職業体験の機会を提供することにより、子どものふるさとへの郷土愛を育むことを目的とする。 ③実施内容 （1）自動車整備体験　8月5日　8名 （2）給食づくり体験　8月6日　13名 （3）駅員体験　8月31日　9名 （4）販売業体験　9月14日　8名 （5）花屋体験　10月27日　11名 （6）まちづくり体験　1月18日　11名	小学4～6年生 延べ60名	④参加の募集は各学校を通してチラシを配布した。 ⑤参加した児童の職業選択における選択肢を増やすために、様々な職業体験の機会を提供した。 ⑥各回の活動後にアンケートを実施した。	子どもが職業を体験するだけで終わってしまい、仕事に対する理解や士別で働くことのやりがいをより感じてもらえるような工夫が必要。	社会教育課
1-3	子ども文化活動推進事業 「ふるさと体験広場」文化体験コース			○						文化活動を体験することにより、子どもたちに豊かで有意義な土曜日を提供することを目的に実施した。（文化分野） 【実施日】 7/27、8/24、9/7、9/21、10/5、11/10　計6回 【場所】　市民文化センター、森の美術館「木夢」	市内小学生延べ35名	参加の募集は学校を通じチラシを配布した。(小学4年生～6年生対象) 油絵作品、木工作品については、11月の児童生徒作品展において展示を行った。	・活動の時間帯や曜日について検討が必要 ・体験内容の拡充	中央公民館
1-3	「楽しい子どもカルタ教室」			○						日本古来からの遊び「百人一首」の楽しさを学ぶとともに、遊びをとおして子どもたちの交流を広げることを目的とし、実施する。	市内小学3年生～中学3年生16名	④参加募集は各学校にチラシを配布（小学3年生～中学3年生）、フェイスブックで周知。	R7事業廃止 子どもかるたクラブとして独立	中央公民館
1-3	市民総合文化祭事業 「第56回小中学校音楽発表会」 「児童生徒作品展」			○						市民の文化芸術の祭典として開催。 【実施機関】総合文化祭実行委員会・士別市教育研究会 【実施日】小中学校音楽発表会10/24 　児童生徒作品展示10/26～11/3 【会場】市民文化センター・生涯学習情報センター地階ギャラリー	市内小中学生	④市内各学校に作品募集依頼	出展作品の拡充	中央公民館
1-3	文集しべつ発刊			○						【目的】市内小・中学校の児童生徒から作品を応募し、文集を発行する。 【参加】市内小・中学校の児童生徒から作品を応募 【発行日】R7年2月　発刊（第66号）	児童・生徒 156名	⑤・編集長・副編集長（教諭）を輪番制にして、協働体制の強化を図った。 ・原稿入力から製本までを委託発注とし、編集委員(教諭)の負担軽減を	・学校内での活用を推進し、子どもたちの学習成果の発表の場として発行を継続する。	図書館
1-3	第65回士別読書感想文コンクール			○						【目的】 　子どもたちが読書に親しみ、読書から得られた感動や知識を文章として表現することにより、豊かな人間性や感受性を育み、自分の考えや意見などを表現する力を養うことを目的に実施する。 【参加】 　市内小・中・高等学校の児童生徒を対象に学校図書館協会と共催で実施 　市内11校　354名応募　入賞者49名　全道コンクール　入賞者30名 【実施期間】　7/9～11/10 【会場】　図書館・生涯学習情報センター	児童・生徒 354名	④学校図書館協会との共催・市内高等学校の協力により作品募集を幅広く行っている。 ⑥入賞作品集を刊行し、入賞者への配付。 ⑦入賞者へ賞状・副賞の授与。	・児童生徒の読書活動と、読む力・書く力の促進となるよう、引き続き実施する。	図書館
1-3	子ども読書週間事業			○						【目的】 　全国的に行われる「こども読書週間」に合わせて、子どもの読書への興味関心を高めるとともに、本に親しみ、読書の喜びを体験できるよう各種行事を実施する。 【実施期間】4/23～5/12 【会場】 図書館・生涯学習情報センター、朝日図書室	子ども（幼児・児童・生徒）95名	④親子で参加できるイベントを中心に、読み聞かせ会や映画会、工作ひろばの開設、図書館クイズを実施した。 ・博物館と図書館でスタンプラリーを実施し、スタンプを押したら景品を贈呈していたため、95名が参加した。 ・博物館事業と合わせて移動図書館車を会場へ臨時運行するなど関係機関との協力を行った。	・子どもたちが気軽に図書館と本に親しむことのできるよう事業内容を検討していく。 ・事業で使用している景品の確保が困難になってきている。	図書館
1-3	GW企画「宝石さがし体験」			○	○					【目的】 　士別地域の自然や歴史への興味関心を高めることを目的に開催する。 【参加の内容】 　砂の中から宝石のカケラを探し、台紙に貼り付けて宝石標本をつくる。 【実施日等】 　令和6年4月27日(土)～5月6日(月・祝)	全年齢対象 解答人数 延べ321人 ※ほとんどは親子での参加	④市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、GW期間中に行う他の取組と合わせてポスターを作成し市内各所に配布した。 ⑤移動図書館「ヨムヨム号」来館により利用促進を図るなど、来館促進に繋がるものとなった。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	今イベントのように、親子で参加して楽しいGW企画を今後も実施したい。	博物館

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫（テーマ、開催時期、説明資料,その他） ⑥実施後のフォロー（実施結果の送付、実施後アンケートほか） ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか） ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	士別ふるさと体験広場 自然歴史体験コース			○	○					【目的】 地域の特色を活かした職業、文化、自然歴史の体験をとおして、郷土愛を醸成することを目的に実施する。 【参加の内容】 自然観察、昔の生活体験、雪と氷の実験などを実施する。 【実施日等】 5/18～1/25　全6回開催。博物館およびその周辺等の各所。	市内の小学生 20名登録 延べ71名 （小人55名、大人16名）	④募集チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤休日の子どもの体験活動として、社会教育課の事業である「士別ふるさと体験広場」に組み込むことで、参加募集の広報の一元化および、日程が重複しないような調整を行った。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	引き続き市内の歴史や文化、自然について、子どもに興味関心を持ってもらえるような工夫を行う。	博物館
1-3	ウチダザリガニを探してみよう！			○	○					【目的】 地域の自然への興味関心を高め、外来種問題や環境保全への理解を深めるために開催する。 【参加の内容】 士別市内でも生息拡大が危惧されている特定外来生物 ウチダザリガニについて、生態についての説明を受けた後、捕獲防除体験を実施する。(ワナやたも網による捕獲、計測体験) 【実施日等】 令和6年7月15日(月・祝)　つくも水郷公園	全年齢対象 大人12名 小人16名 ※大人は子どもの保護者として参加	④市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、ポスターを作成し市内各所に配布した。 ⑤毎年実施している外来種の生息調査を基に、郷土で起きている外来種問題をより知ることができる機会を創出できた。 ⑥実施した様子をフェイスブック等で広く周知。	ウチダザリガニをはじめとする外来種の問題については、引き続き調査研究を行い、周知活動を実施したい。	博物館
1-3	考古学体験講座			○	○					【目的】 古い時代（縄文時代等）の人々の生活について知り、郷土の歴史への興味関心を深めるために実施。 【参加の内容】 縄文時代から古墳時代にかけてアクセサリーなどに使用した勾玉づくりを体験する。 【実施日等】 令和6年11月10日(日)　市民文化センター	全年齢対象 大人3名 小人4名 ※大人は子どもの保護者として参加	④募集チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤士別の遺跡について知る機会や夏休み期間の学習の機会を創出。	今後も幅広く、古い時代の生活や文化（考古学に関わらず）を体験できるような工夫を行う。	博物館
1-3	サイエンスフェスティバル		○	○	○					【目的】 科学への興味関心を高める。 【参加の内容】 科学や自然、ものづくりに関するブースを設け、来場者は会場内のブースをまわりながら、科学の不思議を体験した。 【実施日等】 令和7年1月13日(月・祝)　市民文化センター	全年齢対象 大人30名 小人43名	④案内チラシを市内公共施設で配布、市広報誌・地元新聞紙に掲載依頼、市ホームページやフェイスブックへの掲載のほか、市内小学校へ対象となる全児童に配布依頼を行った。 ⑤主に参加の多い子どもや親子が取り組みやすい内容を検討した。 ⑥実施した様子をフェイスブックで広く周知。	子どもがより楽しめるようなものになるよう、今後もこのような対面型・体験型のイベントを開催していきたい。	博物館
1-3	出前講座の開催			○	○					【目的】 博物館学芸員が地域に出向いて、地域の歴史や自然について普及する。 【参加の内容】 地域の自然や歴史について学ぶための、体験活動や講演を行う。 【実施日等】 依頼に応じて開催、令和6年度は25回開催　※3月10日現在	全年齢対象（市内小学校からの依頼が多い） 延べ653名参加 ※3月10日現在	④HPに掲載 ⑤体験内容については提供プログラム以外にも、依頼に応じて柔軟に対応 ⑥実施した様子をフェイスブックで広く周知。	ここ数年は依頼件数も多く需要はあるので、可能な範囲で継続して実施する。	博物館
1-3	夏休み子ども体験 （博物館連携講座） 「川の生きものさがし」			○						【目的】 川に生息する生きもの探しや観察などを通して、地元の川の生きものに関する興味・関心を深める。 【実施日】8/8 【主催】 上士別公民館 【共催】 上士別地区子ども会育成連絡協議会 【場所】 上士別構造改善センター	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 小中学生　7名 保護者　3名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう夏休み期間中に開催 ＊川の付近でクマの目撃があったため急遽「石磨き体験」に変更	・博物館と連携し、子どもの学習意欲を高める取り組みを実施する。 ・川での実施について検討が必要	上士別公民館
1-3	子ども水泳教室			○						【目的】 子どもたちの体力づくりと水泳技術の向上を目指す。 【実施日】7/30、7/31、8/1（3日間） 【主催】 上士別地区子ども会育成連絡協議会 【共催】 上士別スポーツクラブ　上士別公民館 【場所】 士別市南郷プール	【対象】 小中学生 【参加】 小学生 延34名	④上子連及び小中学校を通じて募集、公民館だよりに掲載 ⑤子どもが参加しやすいよう夏休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館
1-3	子どもスキー教室			○						【目的】 冬期間の体力づくりとスキー技術の向上を目指す。 【実施日】1/7、1/9（2日間） 【主催】 上士別公民館 【共催】 上士別子ども会育成連絡協議会　上士別スポーツクラブ 【場所】 あさひスキー場	【対象】 小中学生 【参加】 小学生 延17名	④上子連及び小中学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	上士別公民館

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-3	もちつき体験			○						【目的】 日本の伝統文化の体験と地元農産物への愛着心を育む。 【実施日】1/11 【主催】 温根別公民館 【共催】 温根別子ども会育成連絡協議会 【場所】 温根別出張所	【対象】 小中学生及び保護者 【参加】 23名	④温子連及び小学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	温根別公民館
1-3	子どもスキー教室			○						【目的】 冬期間の体力づくりとスキー技術の向上を目指す。 【実施日】1/8 【主催】 温根別公民館 【共催】 温根別子ども会育成連絡協議会・温根別スポーツクラブ 【場所】 日向スキー場	【対象】 小中学生 【参加】 小中学生8名	④温子連及び小学校を通じて募集 ⑤子どもが参加しやすいよう冬休み期間中に開催	継続実施する。	温根別公民館
1-3	子ども芸術劇場事業	○		○				○		舞台芸術家を直接学校等へ派遣し、鑑賞型事業、体験型ワークショップなどの事業展開を図り、市内の子ども達へ優れた文化芸術に触れる機会を提供する。 ◆鑑賞型事業 ・人形劇鑑賞 1事業 1公演 174名 9/26 南小、糸小、温小 会場:士別南小学校 ◆参加型事業 ・HipHopダンスWS 15事業 25コマ 延べ629名 6/19～11/29 士小、朝中、南中、上士中 ・Jazzダンス WS 8事業 20コマ 延べ588名 6/6～11/30 士小、南小、士中、朝中 ・演劇WS 4事業 13コマ 延べ273名 6/9～9/20 上士小、朝中、東高校 ・鬼太鼓座WS 4事業 4コマ 延べ89名 6/26、27 南小、上士小、朝中 ・パントマイムWS 1事業 1コマ 延べ26名 6/28 多小 ・シアタープログラム 3事業 3コマ 延べ169名 5/1、2 士中	市内10小中学校及び東高校 延べ参加人数1,948名	④市内の全児童生徒が関われるようなプログラムの提供をしている。 ⑤各学校の学習プログラム及び行事日程等を考慮し、学校・芸術家と密に連絡を取り、日程調整を行った。	令和2年度から指定管理者に事業を移管	地域文化課
1-3	公民館講座「プリザーブドフラワー教室」	○		○						子どもたちの創作活動の一環として実施する。 【実施日】7/29 【会場】士別市役所朝日支所	小学生8名	④小学校、中学校を通じて募集 ⑤子どもたちが参加しやすいよう、夏休み期間中に開催	内容を検討し、継続して実施する。	朝日公民館
1-3	公民館講座「水泳教室」	○		○						子どもたちの体力づくりと水泳技術の向上を図る。 【実施日】8/1、2 【会場】朝日プール	小学生延べ7名	④小学校、中学校を通じて募集 ⑤子どもたちが参加しやすいよう、夏休み期間中に開催	継続して実施する。	朝日公民館
1-3	公民館講座「基礎スキー教室」	○		○						子どもたちの体力づくりとスキー技術の向上を図る。 【実施日】1/7、9、21、23、28、30 【会場】あさひスキー場	小学生延べ11名	④小学校、中学校を通じて募集 ⑤学校で行うスキー授業に向けた技術習得のため、冬休み期間を利用して開催	継続して実施する。	朝日公民館
1-3	公民館講座「新年書き初め会」	○		○						子どもたちの創作活動の一環として実施する。 【実施日】1/8 【会場】あさひサンライズホール	小学生6名	④小学校、中学校を通じて募集	継続して実施する。	朝日公民館
1-4 意見表明や参加の促進 子どもの意見発表や参加の促進														
1-4	租税教室								○	①租税に関する意義や役割について、小中学生を対象に出前講座を行い、学習指導要領における租税に関する学習を推進する。 ②市内小中学校での出前講座 ③5/17糸魚小、5/22紙士別小、5/24士別南小(各授業1コマ)	市内3小学校46名(6年生)	④税務署と連携 ⑤クイズ形式でのパワーポイント説明、ビデオ上映、3億円レプリカなど ⑥実施後アンケート ⑦なし	体験参加型授業として継続	税務課
1-4	消費者教育授業の開催			○		○				【目的】 商品やサービスの選択、購入の際に必要な基本原則である「安全性の確認」についてや、買い物を通じて食品を選択する目安である「表示」や「環境」について学ぶ。また、情報通信の利便性と危険性、個人情報を守る知識や情報モラルを身につけ、安全にインターネットを利用する方法を学ぶ。	こども877人(延べ)	④各学校に「消費者教育支援プログラム」内容を通知 ⑤テーマや開催時期を事前に希望聴取 ⑥開催後のアンケート実施 ⑥結果はフェイスブックにより情報発信 ⑦学校へ出向いて実施	・アンケート結果を参考とし、より良い授業となるよう改善する。	くらし安全課
1-4	交通安全教室			○						【目的】 交通ルールや交通事故に遭わないために気を付けることを学び、交通事故防止につなげる。	こども984人(延べ)	⑤テーマや開催時期を事前に希望聴取 ⑥結果はフェイスブックにより情報発信 ⑦保育園・認定こども園・幼稚園・各学校に出向いて実施	・協力団体との連携のもと、引き続き開催して交通事故防止に努める。	くらし安全課

令和6年度「子どもに関わる事業」

資料2

No.	事業名	事業等参加				市政への意見				子ども参加の内容及び実績		評価	今後の目標	担当課
		企画や運営	準備・当日手伝い	参加者・発表者	参加者による評価	アンケート等	意見募集・意見箱	ワークショップ等	その他	①取組みの趣旨・目的 ②参加及び情報発信等の内容 ③ 実施日・機関・場所等	主な対象及び参加人数	検証事項 ④参加の募集における工夫 ⑤実施における工夫(テーマ、開催時期、説明資料,その他) ⑥実施後のフォロー(実施結果の送付、実施後アンケートほか) ⑦その他(参加する子どもへの物的支援、交通費支給ほか) ⑧参加しにくい子どもの参加についての工夫 ※上記項目を参考に、R6年度の工夫して取り組めた点、改善が必要点など、検証した内容を記入してください。	※今後の取組みに対する目標や課題を記入してください。	
1-4	「子ども議会開催事業」						○		○	日常生活や学校生活における課題について、市内中学生が考える解決策やアイディアを発表し、また実践することによって、まちづくりに参画しながら主体性を育むことを目的とする。 【実施日等】ゆるっと運動会、スマイルフェスタ 10/6 中央公園 高齢者福祉施設での交流 10/9 養護老人ホーム士別桜丘荘 【学習会等】 5/28～9/30 市民文化センター、エストアール、司法書士法人いずみだ士別事務所	市内全中学校 子ども議員7名	⑤子ども議会は、H24年度に小学生を対象に、H25年度以降は中学生を対象に実施し、今年度で13回目の開催。 事業を進めるにあたり、教育委員会他庁内関係部署の協力により実施した。	子ども議員の負担軽減と子ども達の想像力を大人がサポートし予算の範囲内で実施していく。	中央公民館
1-4	「子ども夢トーク推進事業」			○			○		○	【目的】 子どもたちが市長と夢や未来への希望を語り、好奇心・探究心を高め、子どもたちの持つ豊かな可能性を広げる。 【内容】 市内小・中学校において、市長、教育長が子どもたちの夢などを聞き、回答や感想を述べる。 【実施時期・場所】 12/18朝日中、2/14南小、2/18糸魚小	朝日中16名 南小 34 名 糸魚小10名	⑦子どもたちが話しやすい環境づくり	・各小学校を回り、子ども達のアイディア聞き、子どもたちの思いを生かしたまちづくりを進める。	中央公民館
1-4	士別市中学生意見発表大会			○						①青少年が社会に向けての意見、未来への希望などを考える機会を設け、青少年の健全育成を深める契機となることを目的とする。 ③DVDによる動画及び書類審査	中学1～2年生6名	⑤中学生の主張を動画及び作文で募集した。 ⑥審査結果を学校に通知するとともに、市FBで公表した。	応募作品の基準の均一化	社会教育課
1-4 意見表明や参加の促進 地域での子どもの自主的な活動の支援														
1-4	子ども会活動推進事業 「1市2町合同ジュニアリーダー研修会」	○	○	○						【目標】 子ども会や少年団活動等の活性化を図るため、集団での宿泊体験や様々な体験活動を通して、学校や各地域で活動する際のリーダーとして必要な知識・技能を習得するとともに、1市2町の児童の活発な交流を図る。 ・1市2町合同ジュニアリーダー研修会 【実施日】 8/1～8/2 【場 所】 和寒町	【対象】 研修生:小学5～6年生 サブリーダー:中学生以上 【参加人数】 ・子ども24名(士別市子ども3名)	④学校を通じ参加対象者に案内を送付した ⑤事業目的達成のためのプログラムづくり	R7事業廃止 士別市子ども会育成連絡協議会の事業として実施予定	中央公民館
1-4	「第25回しべつわんぱくフェスティバル」	○	○	○						【目的等】 子ども達が自主的に企画・運営し、実施するイベント。子ども達の全市的な交流と親睦を図り、子ども会活動の活性化を進めることを目的とする。 【参加の内容】 子どもたちが企画運営を行う。	子ども会リーダー 2名 ボランティア49名	④SINC、子ども会リーダーの他、小中高生にたいしボランティアを募集した	市内育成者の理解と協力の輪を更に広げ、士別市の「子どもの一大イベント」を目指す。	中央公民館
1-4	子ども会(初級・上級) リーダー養成講習会	○	○	○						【目的】 子ども会のリーダーとして、社会生活に活かせる知識や技術の習得と、地域に根ざした子ども会活動の促進を目的とし、開催する。 ・野外講習会(1市2町ジュニアリーダー研修会と合同開催) 【参加の内容】 講習会への参加。サブリーダーによるレクリエーションの実施及び指導補助。	子ども会リーダー登録者2名	④市内小学校を通じて対象者及び対象児童保護者に周知する。	R7事業廃止 士別市子ども会育成連絡協議会の事業として実施予定	中央公民館
1-5 子どもの権利侵害に関する相談・救済 不登校等の子どもの居場所に関する支援														
1-5	適応指導教室の開設									・不登校及びその傾向にある児童生徒に対して、保護者や学校、関係機関等と連携し、学校への復帰や基本的な生活習慣の改善、豊かな情操や社会性を育成する。 【所在地】 士別市西1条8丁目 生涯学習情報センターいぶき 地階 【開設日】 月曜から金曜の午前9時から午後3時 ※土日祝日、夏休み、冬休み、春休みは休日	市内小中学生 【登録人数】 小学生 5名、 中学生 6名、 計11名	・自分でやりたいことを自分のペースで活動することを基本に、悩み相談や体験、学習活動を行った。具体的には、指導員の指導により、読書や運動、教科学習、見学やものづくりなどを行った。	・通室児童生徒の学校復帰に向けた取組や、通室していない不登校・不登校傾向の児童生徒に対する取組のあり方を検討	学校教育課